



大分市教師用道徳指導資料集「小学校」編

第3集

魅力ある道徳授業の展開

<改訂版>

平成26年9月
大分市教育委員会

はじめに

近年、子どもの自制心や規範意識の低下、基本的生活習慣の定着が不十分であることや、都市化あるいは過疎化の進展に伴い、伝統・文化を尊重する心や郷土に対する愛着が希薄になっているなどの指摘がなされている。

このようなことから、学校においては、教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性をはぐくむことが肝要である。とりわけ、道徳の時間においては、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動等における道徳教育と密接な関係を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成することが重要である。

大分市教育委員会では、これまで、各学校の道徳の時間における指導の充実を目指し、「大分市教師用道徳指導資料集」の作成・活用を進めてきた。平成17年度は、第1集「主として自分自身に関すること」、平成19年度は、第2集「主として他の人とのかかわりに関すること」、平成20年度は、これらの内容に「主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること」、「主として集団や社会とのかかわりに関すること」を加えた第3集を作成・配布してきたところである。

その後、平成20年3月に国において学習指導要領の改訂が行われ、学校段階における指導の重点の明確化、学校における道徳教育の推進体制の充実等の基本方針が示された。また、平成26年度には、児童生徒が道徳的価値について自ら考え、実際に行動できるようになることをねらいとして、これまで道徳教育用教材「心のノート」を全面改定した「私たちの道徳」が作成・配布された。

このような状況等も踏まえ、本書は、第3集に掲載している指導事例及び道徳授業に取り組むための心構えや留意点の内容に加え、「私たちの道徳」との関連や学年段階・学校段階の系統等を新たに盛り込んでおり、道徳の時間だけでなく、校内研修等においても活用できるよう改訂したものである。

各学校においては、本書の活用が、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実につながり、子どもたちの豊かな心の育成に資することを期待するところである。

平成26年9月

大分市教育委員会

目 次

I 道徳教育の推進

1	今、求められる道徳教育	
(1)	道徳教育の趣旨	1
(2)	道徳教育の目標と道徳の時間の目標	
(3)	道徳教育を充実させる3つの計画づくり	
(4)	道徳の時間の指導 ー指導の基本方針ー	
(5)	道徳の時間の特質が押さえられた指導	
(6)	道徳の時間の評価	
(7)	評価の方法	
(8)	道徳の時間の工夫改善の視点	
2	指導資料集の見方	5
3	魅力ある道徳の時間をつくるために	6
(1)	基本的な学習指導過程	
(2)	道徳の時間に生かす指導方法の工夫	
(3)	道徳の時間の特質を欠かさないために	
(4)	道徳指導資料集を活用した授業展開例	

II 「視点」ごとの内容の趣旨と指導及び学習指導案・資料

<1の視点>	主として自分自身に関すること	9
1年	月よう日のあさ	心にブレーキを 1-(1) 12
2年	あのね、本とうはね	すなおな ころろ 1-(4) 16
3年	おられた花	すなおに反省しよう 1-(4) 20
4年	プールのかべ	ねばり強く取り組む 1-(2) 24
5年	自由時間なんだから	自由時間における規律 1-(3) 28
6年	ぼくの長所って何？	自分の個性を知り、長所を伸ばそう 1-(6) 32
<2の視点>	主として他の人とのかかわりに関すること	37
1年	しんちゃんのあいさつ	きもちのよいあいさつ 2-(1) 40
2年	すわってください	あたたかいところで 2-(2) 44
3年	ぼくも、おにいちゃん	思いやりのリレー 2-(2) 48
4年	本当の友だち	友情を深めよう 2-(3) 52
5年	ゆきこさんのひとこと	広い心で 2-(4) 56
6年	心に咲いた一輪の花	みんなのために 2-(5) 60
<3の視点>	主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること	65
1年	しんちゃんのアサガオ	いのちのたくましさ 3-(1) 68
6年	ホテルに込められた願い	自然を大切に 3-(2) 72
<4の視点>	主として集団や社会とのかかわりに関すること	77
2年	もう、やめよう	きまりをまもって 4-(1) 80
3年	おかあさんのたからもの	大切な家族 4-(3) 84
4年	祭りばやし	郷土を愛する心 4-(5) 88
5年	忘れられない演奏会	自分にできること 4-(4) 92

III	「道徳の内容」の学年段階・学校段階の一覧表	96
-----	-----------------------	----

I 道徳教育の推進

1 今、求められる道徳教育

(1) 道徳教育の趣旨

子どもたちに必要とされる「生きる力」の核となる豊かな人間性とは、

- ① 美しいものや自然に感動する心などの柔らかな感性
- ② 正義感や公正さを重んじる心
- ③ 生命を大切に、人権を尊重する心などの基本的な倫理観
- ④ 他人を思いやる心や社会貢献の精神
- ⑤ 自立心、自己抑制力、責任感
- ⑥ 他者との共生や異なるものへの寛容

などの感性や道徳的価値を大切にすることである。

このような力を育てるのが、心の教育であり、**道徳教育**である。



道徳教育改善の基本方針

- ① 小学校では、あいさつなどの基本的な生活習慣、人間としてしてはならないことをしない、法やきまりの意義など、中学校では、主体的に社会の形成に参画するなど、児童生徒の発達の段階を踏まえた指導の重点化を図ること
- ② 先人の伝記、自然、伝統と文化、スポーツなどを題材とした児童生徒が感動を覚えるような魅力的な教材の開発や活用の推進
- ③ 校長の方針の下に、道徳教育の推進を主に担当する教師（道徳教育推進教師）を中心とした指導体制の充実

(2) 道徳教育の目標と道徳の時間の目標

< 道徳教育の目標 >

- 道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養うことを目標とする。
- 道徳教育の目標は、第1章総則の第1の2に示すところにより、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。

< 道徳の時間の目標 >

- 道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成するものとする。

■ 「補充、深化、統合」

- ・補充…子どもは、学校の諸活動の中で多様な道徳的価値について感じたり考えたりするが、そのすべてについて考える機会があるとは限らない。道徳の時間は、このように学校の諸活動で考える機会を得られにくい道徳的価値などについて補充する役割がある。
- ・深化…体験の中では道徳的価値の意味などについて必ずしもじっくりと考え、深めることができているとは限らない。道徳の時間は、このように道徳的価値の意味やそれと自己とのかかわりについて一層考えを深化させる役割を担っている。
- ・統合…多様な道徳的体験をしていたとしても、それぞれがもつ道徳的価値の相互の関連や、自己とのかかわりについての全体的なつながりなどについて考えないままに過ごしてしまうことがある。道徳の時間は、それらを統合し、子どもに新たな感じ方や考え方を生み出すというような役割もある。

(3) 道徳教育を充実させる3つの計画づくり

① 学校の道徳教育全体計画

道徳教育の全体計画は、学校における道徳教育の基本的な方針を示すとともに、学校の教育活動全体を通して、道徳教育の目標を達成するための方策を総合的に示した教育計画

<道徳教育の全体計画の内容(例)>

- 学校教育目標 ○ 道徳教育の重点目標 ○ 各学年の重点目標 ○ 道徳の時間の指導の方針
- 各教科等における道徳教育の指導の方針 ○ 豊かな体験活動における指導の方針
- 家庭、地域社会、関係機関との連携 ○ 道徳教育の推進体制

② 道徳の時間の年間指導計画

学年段階に応じた主題を構成し、この主題を学年別に年間にわたって適切に位置付け、配列し、展開の概要等を示した指導計画

③ 学級における道徳教育の指導計画

全体計画を子どもや学級の実態に応じて具体化するもので、学級において教師や子どもの個性を生かした道徳教育を展開する指針

(4) 道徳の時間の指導 - 指導の基本方針 -

道徳教育の要としての道徳の時間においては、年間指導計画に基づき、子どもや学級の実態に即し、道徳の時間の特質に基づく適切な指導を展開しなければならない。

① 道徳の時間の特質の理解

道徳の時間は、子ども一人一人が、一定の道徳的価値の含まれるねらいとのかかわりにおいて自己を見つめ、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを発達段階に即して深め、内面的資質としての道徳的実践力を主体的に身に付けていく時間である。

② 信頼関係や温かい人間関係の確立

道徳の時間の指導は、学級での温かい人間関係が基盤にあつてこそ効果を発揮する。教師と子どもの信頼関係や子ども相互の人間関係を育て、子ども一人一人が自分の感じ方や考え方を伸び伸びと表現することができる雰囲気や日常の学級経営の中でつくっていく。

③ 子どもが自己への問い掛けを深め、未来に夢や希望をもてるようにする

授業の全体において、資料とのかかわりや教師と子ども及び子ども相互のかかわりなどを通して、子ども自らが自分自身への問い掛けを深めていくことによって、自己や社会の未来に夢や希望をもち、意欲的に生きていくための力を身に付けていくことができるようにする。

④ 子どもの発達や個に応じた指導方法の工夫

子どもには、年齢相応の発達の課題があるとともに、個人差も大きいことに留意し、一人一人の感じ方や考え方を大切に授業を工夫する。

⑤ 道徳の時間が道徳的価値の自覚を深める要となるような工夫

学校の教育活動全体で行う道徳教育の要として、それらを補充、深化、統合する役割を果たす道徳の時間の特質を踏まえ、ねらいに含まれる道徳的価値の側面から他の教育活動との関連を把握し、それを生かした授業を工夫する。

また、内面に根ざした道徳的実践力が効果的に育成されるよう、子どもの日常的な体験はもちろんのこと、集団宿泊活動やボランティア活動、自然体験活動、地域の関係施設等との交流活動など、多様な体験活動を生かした授業を工夫し、道徳的価値のもつ意味や大切さについて深く考えられるようにする。

⑥ 道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実

校長の方針を明確にし、道徳教育推進教師を中心に指導体制の充実を図るとともに、道徳の時間への校長や教頭などの参加、他の教師との協力的指導、保護者や地域の人々の参加や協力などが得られるように工夫する。

⑦ 指導に当たっての基本的姿勢についての理解

道徳は、子どものみではなく、教師自身の課題でもある。子どもに教え込もうとするのではなく、教師自らが子どもとともに考え、悩み、感動を共有しながら、学んでいくという姿勢で授業臨むことが大切である。また、学級での日常生活においても教師の道徳的な在り方が求められる。

(5) 道徳の時間の特質が押さえられた指導

道徳の時間は、子ども一人一人が、一定の道徳的価値に含まれるねらいとのかかわりにおいて自己を見つめ、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを発達段階に即して深め、内面的資質としての道徳的实践力を主体的に身に付けていく時間である。

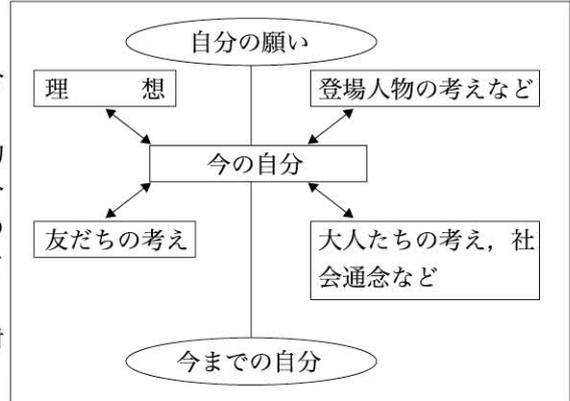
道徳の時間は、学校教育全体で行う道徳教育を補充、深化、統合する要となる時間として、上記のような特質を示している。

特質① 子ども一人一人が自己を見つめる

道徳の時間は、「子ども一人一人が、一定の道徳的価値に含まれるねらいとのかかわりにおいて自己を見つめる」時間である。

道徳の時間では、右図のように、子どもが資料中の登場人物の感じ方、考え方だけでなく、友だちの考え、社会の通念、今までの自分の姿、理想とする考えなどに会い、それらと今の自分とを比べたりすることによって自己を見る目を豊かにしていくことができる。

そのためにも、道徳の時間の指導では、一人一人の自分に対する思いや願いが大切にされ、自分について直接考える時間と多様な考えにふれる時間が大切にされなくてはならない。



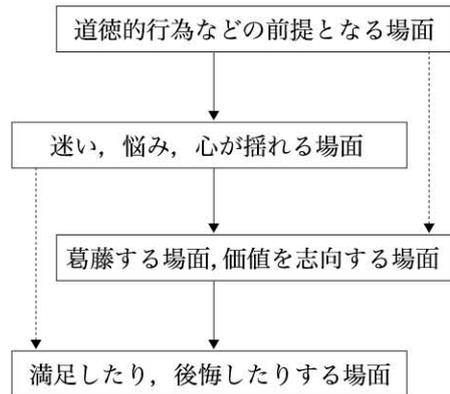
< 図 多様な考えと比べながら自己を見つめる >

特質② 子どもが価値を内面的に自覚する

道徳の時間は、子どもが「道徳的価値を発達段階に即して内面的に自覚」する時間である。したがって、道徳の時間では、子どもの発達段階を押さえながら内面的な思考を促し、いわば内的な体験ができるような支援をすることが求められる。

道徳の時間では、道徳的な行為が含まれる読み物が資料として広く用いられている。それは、子どもが日常では体験できないことについて共感的な追求をして追体験をしたりするためでもある。

道徳の時間の中心的な資料は、例えば、右図のような構成や流れをもっているものが多い。このような資料での登場人物の気持ちの流れに共感したり、それを受け止めたり、それについて検討したりする活動を通して、子どもの中に道徳的価値の内面的な自覚が図られていく。



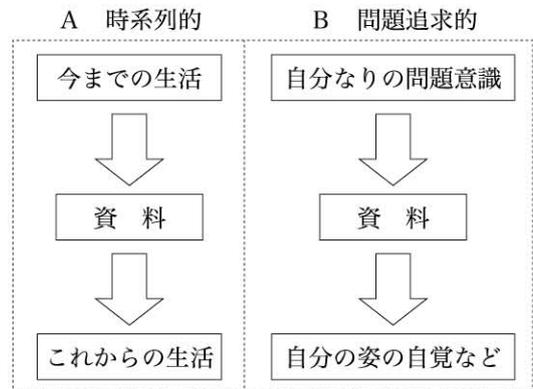
< 図 読み物資料に多く見られる流れの例 >

特質③ 子どもが主体的に道徳的实践力を身に付けていく

道徳の時間は、子どもが「主体的に道徳的实践力を身に付けていく」ための時間である。そのためには、学習も子どもにとってできるだけ主体的に追求している感覚がもてるようにする必要がある。学習が子どもにとって受け身一辺倒の感覚では、主体的に道徳的实践力を身に付けていくということにはなりにくいからである。

右図のAは、時系列的な指導である。今までの問題点を発掘した後、その反省点などをもとに資料で学び合い、これからの自分について考えるという流れである。

Bは、子どもが問題意識をもち、話し合いへの見通しをもったうえで資料に出会い、その中で追求を通して、自分の見方を深めていくという筋道である。



< 図 指導の流れについての2つの考え方 >

この2つは明確に分けられるものではないが、Aのような指導は、教師の意図に引かれる受け身的、教え込み的な指導になりやすい。子どもが問題意識をもたないままに資料と出会っても、子どもの中に必然性や切実性がわきにくいからである。子どもの問題意識が生きた授業、個性的な追求が保障された授業へと道徳の時間の工夫や改善を心掛けていきたいものである。

(6) 道徳の時間の評価

道徳の時間の指導案では、評価の観点を置かない場合が一般的であった。それは、「内面的な変化を見取るのは難しい。」「一時間での変化を期待するのは行為の変化を押し付ける指導にもなりかねない。」などの理由からであった。

しかし、学習指導要領第3章道徳でも、子どもの取組の様子、学び合いの豊かさ、期待したい深まりなど、数値に表れない面での評価は、むしろ積極的に行うことを求めている。その視点から、例えば、下記のような観点での評価は丁寧に行い、それを学習や事後指導に生かすことが大切である。

- ・学習への構えや意欲……自分なりの考えを持ち、進んで発表するなど、意欲的に話し合ったか。
- ・学び合いや考えの深まり…他の考えに学び合い、自分の考えを深めていたか。 等

(7) 評価の方法

- 私たちの道徳や書き込み可能なプリント等を利用し、授業中の重要箇所では心情、理解、判断などを評価する。
- 導入や展開、終末など各過程において、子どもの発言等を記録し、その変容などから評価する。
- 授業中だけでなく、授業の前後にも心を配り、子どもの動きや態度の変容などにも目を向け評価する。
- 研究授業を実施し、他の教師から評価を受けたり、授業への感想やアンケートなど子どもに評価を求めたりする。

(8) 道徳の時間の工夫改善の視点

① 教師の基本的な姿勢に関すること

- 子どもの直面している悩みや心の揺れ、葛藤等の課題を取り上げ、自己と他者との関係を深く見つめられるよう配慮しているか。
- 子どもの個に応じた適切な指導をしているか。
- 教師は子どもと共に考え、悩み、感動を共有していく姿勢で指導に当たっているか。

② ねらい及び資料に関すること

- ねらいは適切であるか。子どもの変容を把握する手立てが用意されていて、ねらいが達成されたかを確認することができるか。
- 取り上げられた資料の内容とその扱い方が、ねらいの達成と子どもの実態に即して適切であるか。
- 地域や保護者の協力を得て、地域の特色を生かした資料を開発し有効に活用しているか。

③ 学習指導過程に関すること

- 導入、展開、終末の過程を形式的、固定的にせず、ねらいや資料及び子どもの反応などとの関連において柔軟に対応しているか。
- 他の教育活動などにおける体験的な学習をはじめ他の教育活動の成果が指導に生かされているか。
- 事前、事後の指導が有効に機能しているか。

④ 指導の諸方法に関すること

- 子どもが自分の生き方の問題として意欲をもって取り組み、積極的に学習に参加できるよう工夫しているか。
- 子どもが互いにその感じ方や考え方を理解して話し合い、その時間の終わりを惜しむような指導であるか。
- 校長及び教頭及び他の教師との協力的な指導が工夫されているか。
- 保護者や地域の人々の協力を得て、さまざまな生き方や考え方について直接学ぶよう工夫されているか。

■ 「道徳性」を構成する諸様相

- ・道徳的心情……道徳的価値の大切さを感じ取り、善を喜び、悪を憎む感情
- ・道徳的判断力……それぞれの場面において善悪を判断する能力
- ・道徳的実践意欲…道徳的心情や道徳的判断力によって、善とされたものをやろうとする積極的な気持ち
- ・道徳的態度……具体的な道徳的行為への身構え
- ・道徳的習慣……長い間繰り返して行われているうちに習慣として身に付けられた望ましい日常的行動

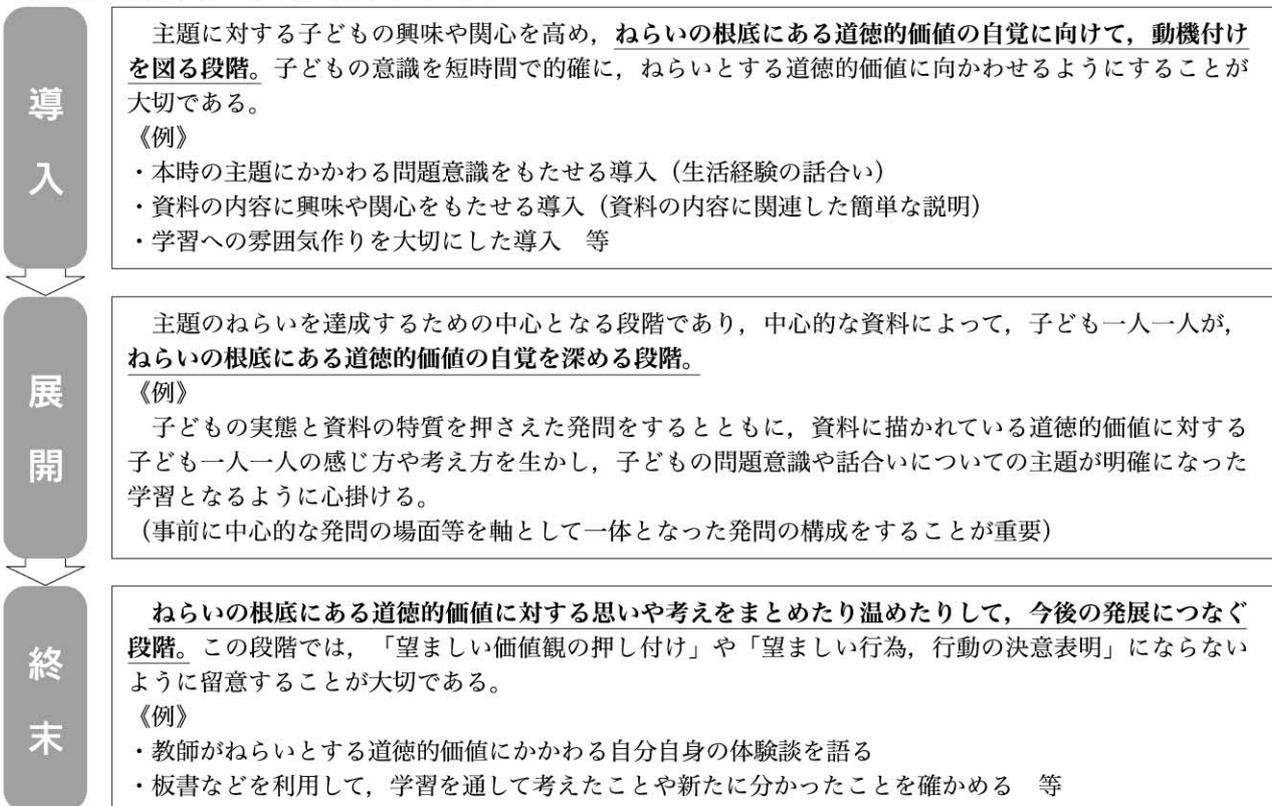
■ 「道徳的実践と道徳的実践力」

- ・道徳的実践……道徳的に高い価値をもった行為や実践
- ・道徳的実践力……道徳的実践につながる内面の力。「～しないではおれない。」というところまで高まった心

3 魅力ある道徳の時間をつくるために

(1) 基本的な学習指導過程

道徳の時間は、子ども一人一人が道徳的価値の自覚を深め、内面的資質としての道徳的実践力を育成するという特質を十分考慮し、それに応じた学習指導過程や指導方法を工夫することが大切である。一般的には、導入、展開、終末の各段階を設定することが広く行われている。



(2) 道徳の時間に生かす指導方法の工夫

- | | |
|-----------|---|
| ① 資料提示の工夫 | ◇大型絵や紙芝居等を用いる方法 ◇パネルシアターによる方法 ◇視聴覚機器を生かす方法
◇黒板を舞台のようにして提示する方法 ◇実物や写真等を生かす方法 等 |
| ② 発問の工夫 | ◇子どものこだわりや問題意識を生かす・生み出す発問
◇発言の自由度があり、個性的な考えが生かされ、引き出される発問
◇考える必然性や切実感があり、心が揺さぶられる発問 等 |
| ③ 話合いの工夫 | 【対応の工夫例】 ◇心の様子や考えの立場の色、類別、グラフ等による視覚化
◇多様な意見、きっかけとなる意見を引き出す意図の指名 等
【場作りの例】 ◇座席配置で立場を鮮明にする工夫 ◇ペアを組んだ話合い
◇全体討議的な形態、グループ討議的な形態の工夫 等 |
| ④ 書く活動の工夫 | ◇吹き出しを付けた形式 ◇自分のことを伝える手紙の形式 ◇自己評価欄を設けた形式
◇作業的、ゲーム的な内容を組み入れた形式 ◇絵や記号等で書く形式 等 |
| ⑤ 表現活動の工夫 | ◇役割演技…特定の役割を持って即興的演技から深める方法
◇動作化…動きを忠実に真似をして実感的な理解を深める方法
◇疑似体験活動…セットされた条件の中での追体験的な活動
◇劇化…せりふや演技の真似をして状況を感じ取る方法 等 |
| ⑥ 板書の工夫 | ◇話合いの中心部分を特にクローズアップした構成。
◇意見の違いがとらえやすく類別化、類型化させて示された構成
◇子どもが参画できる構成 ◇黒板を舞台のようにした構成 等 |
| ⑦ 説話の工夫 | ◇日常の話題や学級での出来事の中から印象的な話題を軸に話す
◇格言やエピソード、「私たちの道徳」などを生かして願いを伝える
◇教師の忘れられない体験をもとに教師の人間性を表現する 等 |

(3) 道徳の時間の特質を欠かさないために

◆道徳的価値の理解を深める学習

道徳的価値の理解は、「ねらいとする道徳的価値が大切であること（価値理解）」、「大切ではあるが道徳的価値に根拠した行為は容易ではないこと（人間理解）」、「道徳的価値にかかわる感じ方・考え方は人によって様々であること（他者理解）」である。これらの学習を行うことが必要である。

◆子どもが自分とのかかわりで考える学習（自己の生き方についての考えを深める）

子どもが自分とのかかわりで考える学習とは、ねらいとする道徳的価値にかかわる諸事象などについて、自分とのかかわりを実感しながら学ぶことである。授業構想にあたっては、子どもが諸問題を自分事としてとらえ、自分の体験などに基づいて考えられるようにすることが重要である。

◆ねらいとする道徳的価値を視点に自分自身を振り返る学習

自分自身を振り返る学習とは、ねらいとする道徳的価値にかかわる行為、考え方、感じ方はどうだったかを具体的に振り返ることである。授業者は、確固たる指導観に基づき、子どもにどのような視点で振り返りをさせるのかを明確にする必要がある。

(4) 道徳指導資料集（小学校編P.79～82）を活用した授業展開例

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入 10分	1 資料を読み、休み時間を楽しみにしているあき子の気持ちを考える。	○ 学校のきまりにふれた後、資料を読み聞かせながら、あらすじを理解させる。 やっとなんかボールがまわってきた時、あき子は、どんな気持ちだったのかな。 ● 朝からドッジボールを楽しみにしていたあき子の気持ちを感じ取らせる。	◆ ドッジボールを楽しみにしているあき子の気持ちに共感しているか。
展開 25分	2 あき子が、「もう、やめよう。」と言ったわけを考える。	○ ボールを投げたいというあき子の気持ちの高まりをおさえた後、課題を位置付ける。 あき子が、「もう、やめよう。」と言ったのは、なぜか。 ● 子どもの発言を整理し、わかりやすく板書する。 (しかられるから) ・先生にしかられるから ・チャイムの合図をまもるように言われているから (まわりのようすから) ・ほうそうでお知らせがあったから ・まわりのみんながやめたから (きまりの大切さを考えて) ・みんなあそびたいのをがまんしているから ・自分たちだけあそぶのはわるいから ・そうじにおくれてめいわくをかけるから ● 単に「きまりだから」と発言する子については、その根拠を語らせるようにする。	◆ 「やめよう」と言ったあき子の気持ちに寄り添って考えているか。
	3 きまりを守ることの大切さについて考える。	あき子が「もう、やめよう。」と言ったのは、まわりのみんながやめたからかな。 ○ <みんなに迷惑をかける>という他者に対する視点から、なぜ「きまり」を守らなければならないのかについての考えを深めさせる。 ● あき子が「考えてからきっぱりと言った」時の様子から、他者を意識した視点で「きまり」を守ることの大切さに気付かせる。	◆ きまりを守ることの大切さの視点でも考えているか。
終末 10分	4 友だちの経験を聞き、自分の生活を振り返る。	○ 導入段階であげられたいくつかのきまりについて、ふりかえらせながら、守れた子にその時の気持ちを聞く。 どんな気持ちできまりをまもったのかな。 ● 学校生活の中で、きまりが守れた経験を想起させ、「どんな気持ちで守れたのか」を聞き、みんなのことを考えた行動であることを感じ取らせるようにする。 ● 友だちの発言を聞き、自分たちの生活の中のきまりを進んで守ろうとする意欲をもたせる。	◆ 自分や友だちの経験から、きまりを守って生活したいと考えているか。

道徳的価値を意識し、授業展開を考えていきましょう。また、価値の理解と同時に自分とのかかわりで道徳的価値をとらえ、「自己理解」を深めていくことも大切ですね。

人間理解 他者理解 自己理解

チャイムの合図を守ることは大事だと分かっているけど、すぐに遊びをやめることはむずかしいなあ…。

他者理解 人間理解 自己理解

正しいと思ったことをする時にも、いろいろな考え方があったなあ…。

価値理解 他者理解 自己理解

きまりを守ることは大切なんだなあ…。

自己理解 他者理解

今までに、きまりや約束を守らないといけないときに、みんなのことを考えていたかなあ…。

1の視点「主として自分自身に関すること」の
内容の趣旨と指導及び学習指導案・資料

「主として自分自身に関すること」の内容の趣旨と指導

(1) 1の視点について

① 1の視点の意味

道徳の内容に示されている4つの視点は、すべての人間がもっている生活上のかかわりの対象を示している。したがって、子どもたちが望ましい道徳性を自らの内に培い、人間としての生き方についての自覚を深めていくためには、これら4つのかかわりのすべてを主体的にもてるような指導を充実させる必要がある。

- 1の視点「主として自分自身に関すること」
自己の在り方を自分自身とのかかわりにおいてとらえ、望ましい自己の形成を図る。
- 2の視点「主として他の人とのかかわりに関すること」
自己を他の人とのかかわりの中でとらえ、望ましい人間関係の育成を図る。
- 3の視点「主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること」
自己を自然や美しいもの、崇高なものとのかかわりにおいてとらえ、人間としての自覚を深める。
- 4の視点「主として集団や社会とのかかわりに関すること」
自己を様々な社会集団や郷土、国家、国際社会とのかかわりの中でとらえ、国際社会に生きる日本人としての自覚に立ち、平和的で文化的な社会及び国家の成員として必要な道徳性の育成を図る。



< 1の視点は自律的な道徳性の育成にとって基本 >

- 道徳教育は、人間としてよりよく生きていく上で必要なさまざまなかかわりを主体的にもち、自ら考え、判断し、自律的に道徳的実践のできる人間の育成を目指している。そのためには、自分が自分自身について問いかけることができなければならない。それは、外に表れている自己と内なる自己との対話を意味する。
- 自分でできることは自分で行い、自分自身のことを考え、より積極的な自己像を描いて未来に夢と希望をもち、力強く生きようとするところに主体性が確立され、自律的な人間が形成される。

② 他の視点との関連

- 2, 3, 4の各視点は、いずれも1の視点と相互に深い関連をもっている。自律的な人間であるためには、1の視点の内容が基盤となって、他の三つの視点の内容にかかわり、再び1の視点に戻ることが必要である。
- 他の人とのかかわりや集団や社会とのかかわりにおいて育成される道徳性は、自分自身との主体的な対話を通して発展していくものである。
- 自然や崇高なものとのかかわりを十分もつことによって、自分自身についての理解を深め、人間としての自覚を一層深めていく。

(2) 1の視点の指導の観点

① 道徳の時間での指導

道徳の時間は、各教育活動で行われる道徳教育を、全体にわたって調和的に補充、深化、統合し、道徳的実践力を育成する時間である。したがって、視点1の指導においても、各教育活動でどのような指導がなされているのかを把握し、道徳の時間において発展的に指導していくことが大切である。

- 1の視点の指導
 - ・ 自己の在り方を自分自身とのかかわりにおいてとらえ望ましい自己の形成を図るようになることを念頭において指導する。
 - ・ 他の視点の内容項目の指導においても、視点1が基盤になっていることに留意する。
- 年間指導計画の作成
 - ・ 道徳の内容が4視点から分類整理して示されている趣旨を理解し、内容相互の関連を考慮した指導や6年間を見通した発展的な指導が行えるようにする。

- ・ 特に1の視点は、あらゆる指導の基盤となることから、年間にわたって適切に位置付けられるように配慮する。
- 1つの内容項目にいくつかの道徳的価値が含まれている場合
 - ・ 分割して主題を構成することもできるが、その内容項目が強調している基本的な価値を十分に踏まえるとともに、一つのまとまりとして表されている意味を理解し、1年間を通して内容項目の全体が関連的、発展的に指導できるように工夫する。
- 各時間の主題の構成
 - ・ 特に自分自身のことについて深く考え、自分のよさや持ち味を生かしてより積極的に生きていこうとする意欲や態度を育てることに留意し、ねらいを設定し、資料を選定する。
- 指導過程
 - ・ 資料を媒介として自分自身のことを深く考えることができるように工夫し、そのことを通してより主体的に生きていこうとする意欲や態度が育てられるようにしていく。
 - ・ 他の教育活動や日常生活において、自分自身のことについてどのように考えているか、自分自身とのかかわりをどの程度深めているかなどを把握しておく。

② 道徳の時間以外での指導

(i) 各教科での指導

- 今回の改訂において、自ら考え、主体的に判断し行動できる力を育成することが一層重視。
- 学校生活や社会生活を主体的に営む心構えや行動の能力を身に付ける学習活動を通して、人間としての生き方について自分の考えをもつ。
- 国民として必要とされる基礎的・基本的な内容を確実に身に付けることを通して、自分のよさや持ち味を発揮しながら、調和のとれた自己を形成していく力を育成する。
- 社会の急激な変化に適切に対応して生きていくためには、学ぶことの楽しさや成就感を体得し、自ら学ぶ意欲や主体的な学習の仕方を身に付けるなどの、自己教育力を育成する。
- 生活科の目標は、「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う」ことになっている。自分自身や自分の生活について考えさせることや、生活上必要な習慣を身に付けることは、1の視点が基盤となっている。

(ii) 特別活動及びその他の教育活動での指導

- 特別活動の目標に示されている「心身の調和のとれた発達や個性の伸長を図る」ことは、1の視点の内容と深くかかわっている。
 - (例) 学級活動・・・不安や悩みの解消、基本的な生活習慣の形成、意欲的な学習態度の形成、心身ともに健康で安全な生活態度の形成など、子どもが自己の在り方や生き方を自覚しながら、健全な生活態度の育成に資する活動が行われる。
- 特別活動の目標に示されている「自主的、実践的な態度の育成」は、一人一人の子どもが協力しながら、自分で考え、判断し責任をもって行動できるように指導していくことが基本である。

(iii) 日常生活での指導

- 日常生活においては、子ども自らが課題を見つけ、よりよい生き方や、より主体的な生き方を求めていくような指導を工夫する。
 - (例) 基本的な生活習慣の指導
 - 行動を押しつけるのではなく、環境の整備などを通して自ずと気付かせるように工夫する。それらを自己の課題として自覚できるように指導していく。

學習指導案・資料

第1学年 道徳学習指導案

主題名 心にブレーキを

1－(1) 規則正しい生活

資料名 月よう日のあさ

出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい

具合が悪くなった時の主人公の気持ちを＜睡眠時間の少なさ＞＜前日の夜の過ごし方＞＜生活時間の見直し＞等に着眼してとらえることで、健康に過ごすため、規則正しい生活を大切にしようとする心情を育てる。

主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

子どもたちにとって、健康な毎日を送るために、規則正しい生活は欠かすことのできないものである。自分を律することができず、欲望のままに生活すれば、その時は楽しくても自分の生活を乱し、ひいては自分本来の力を十分に伸ばすことができなくなることも考えられる。

したがって、規則正しい生活態度や自制心を培われるよう指導していくことが必要である。

(2) 児童の実態

近年、社会全体の生活時間帯が大きく変化する中、ゲーム機器が普及し、子どもたちがゲームをしたりテレビを見たりする時間は増加傾向にある。そのため夜遅くまで起きていて、朝なかなか起きられなかったり、家庭学習の時間を確保できなかつたりするなど、生活時間は乱れがちである。

そこで、健康な毎日を送るためには、わがままをしないで規則正しい生活をするのが大切であることに気付かせたい。

(3) 資料について

本資料は、テレビゲームに夢中になって寝るのが遅くなった主人公が、月曜日の朝、なかなか起きられず、学校でも授業に集中できなくなり、自分の体の不調について考え込むという話である。主人公の行動は、子どもたちの生活実態に重ね合わせやすいものである。また、その結果、体調を崩してしまった時の気持ちを考えることにより、規則正しい生活の大切さに気付かせることができる資料である。

指導について

主人公がなかなかゲームをやめることができない姿を、批判的にとらえることのないよう、ほしかったゲームを買ってもらったうれしさや、あと少しで次に進めそうでやめられない時の気持ちを自分たちの体験に重ね合わせて想起させることで、主人公の気持ちに十分共感させる。その上で、具合が悪くなった時の主人公の気持ちを、＜睡眠時間の少なさ＞＜前夜の過ごし方＞＜生活時間の見直し＞等の観点からとらえさせることにより、前日の夜の過ごし方が体調の悪さにつながっていることや健康な毎日を送るために、規則正しい生活をするのが大切さに気付かせたい。

さらに、「自分もしんちゃんに似ている所はありませんか。」と問い、主人公と自分を比べさせ、自分の生活を見つめ直す時間にしたい。

最後に、これからがんばるめあてを考える活動を取り入れ、心にブレーキをかけながら、節度をもって規則正しく生活しようとする意欲を高めたい。

学習指導過程

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入 10分	1 資料を読み、なかなかゲームをやめられないしんちゃんの状態を調べる。	<p>○ 資料を読み聞かせながら場面絵と語句カードを掲示し、あらすじを十分理解させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>なかなかゲームをやめられないしんちゃんは、どんな気持ちでしょう。</p> </div> <p>● 前からほしかったゲームを買ってもらえた喜び、あと少しで次にすすめるのにという気持ちなどから、なかなかやめられないしんちゃんの状態に共感させる。</p>	◆ しんちゃんがなかなかゲームをやめられない気持ちに共感しているか。
展開 25分	2 具合が悪くなった時のしんちゃんの状態を調べる。 3 しんちゃんの今夜からの過ごし方について考える。	<p>○ 月曜日の朝、しんちゃんがどのようになったかをおさえた後、課題を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ぐあいが変わったとき、しんちゃんはどんなことをかんがえたでしょう。</p> </div> <p>● 子どもの発言を整理し、わかりやすく板書する。</p> <p><睡眠時間の少なさ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨日の夜おそかったからかな ・眠いなあ・どうしてかなあ <p><前日の夜の過ごし方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんの注意をきけばよかった ・ゲームをしすぎた <p><生活時間の見直し></p> <ul style="list-style-type: none"> ・これから気をつけよう ・早寝早起きをしよう <p>○ 単に寝不足のことをだけの反省にとどまらず、生活の見直しにまで目を向けさせるため、見直しをせまるため、「しんちゃんは、寝不足のことだけを考えたのか」と切り返す。</p> <p>● 健康に過ごすためには、楽しいことでも我慢したり、途中でやめたりする心のブレーキが必要なことに気付かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>しんちゃんは、こんやからどのようなせいかつをしたでしょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・時間を決めてきちんと守る ・早く寝る ・お母さんの注意をきく 	◆ 具合が悪くなった時のしんちゃんの状態について自分の考えをもっているか。 ◆ しんちゃんが健康的に過ごすために今夜からすべきことを考えているか。
終末 10分	4 がんばりたいことを書く。	<p>○ 子どもたちの生活の中から、やめた方がいいのになかなかやめられないことを出し合わせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>じぶんにもしんちゃんにしているところはありませんか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームのしすぎ ・テレビの見すぎ ・夜ふかし ・スナック菓子の食べすぎ <p>○ 自分にもしんちゃんに似ているところがあることを踏まえたうえで、自分がこれからがんばりたいことを書かせ、健康な生活を心がけようとする意欲付けとする。</p>	◆ 自分の生活を見直し、これからがんばる生活のめあてをもつことができたか。

月よう日の あそ

「ああ、もうすこしで つぎに すすめそう だったのに。ようし、もう 一かい ちようせんだ。」
 あたらしい ゲームを かつて もらった 日ようの よる、しんちゃん、じかんめ、むちゆうに なっ
 て がめんに むかって います。まえから ほしくてほしくて たまらなかつた ゲームを たん生日の
 おいわいにと おじいちゃんが かつて くれたのです。

「しんいち、もう九じを とつくに すぎたわよ。はやく ねなさい。」

おふろに 入ろうと していた おかあさんが いました。

「わかったよ。もう やめるから。」

けれども しんちゃんは、ゲームを やめません。

しばらくして、おふろから でてきた おかあさんが、こ
 んどは こわい かおを して いました。

「しんいち、あなたは 学校よ。あさ おきられなかつたら
 どうするの。それに、じかんをきめて ゲームを するつ
 て いう やくそく ですよ。」

「ほあい。じゃ、おやすみなさい。」

しんちゃんは、しぶしぶ ゲームの スイッチを きりまし
 た。

「ジリジリジリ」めざましどけいが いきおいよく なりま
 した。

「しんいち、おきなさい、おくれるわよ。」

おかあさんが よぶ こえも します。しかし、しんちゃんは ねむくて ねむくて ふとんから 出るこ
 とが できません。おかあさんに もう 一ど よほれて、やつと おもい 体を おこしました。あたま
 は ぼうつとして まだ ねむっているようです。



「じかんめは、こくごの じゆぎょう です。ともだちは、げん
 きよく はつびようして います。」

でも、しんちゃんには、せんせいの おはなしも ともだちの
 はつびようも まったく 耳にはいりません。いまにも まぶた
 が くつつき そうです。

しんちゃんは、ねむい 目を こすりながら、
 「あれあれ、ぼくの 体 いったい どうしちゃったんだろう。」
 と つぶやきました。



板書計画

しんちゃんにていてるところはないですか

テレビのみすぎ
ゲームのみすぎ
ジュースのみすぎ
おかしのみすぎ

心にブレーキを

げんきにくらす
はやくねる
ゲームをしすぎない
がまんする心をもつ

ねぶそくに なったことだけを
かんがえたのか

〈せいかつを きちんと〉
・これから きをつけないと
・はやく ねむろう ・けじめをつける

こんやから どのように すごすでしょう

こんやから はやくねよう
ゲームを ながく しない
ちゃんと おやの いうことを きく

〈よるの すごしかた〉
・おかあさんの いうことを きけばよかった
・しまったなあ ・ゲームを しすぎた

〈ねぶそく〉
・よる おそくまで
・ねむいなあ ・どうしてかなあ

ぐあいが変わるようになったとき、
どんなことをかんがえたのでしょうか

月よう日のあさ

・ずっと まえから、ほしかったゲーム
・やっと かってもらえて、うれしい
・もうちよつとで クリアできる
・うるさいなあ




道徳の時間の指導内容

1 - (1) 「規則正しい生活」との関連

月	主題名	資料名	内容項目	出典
5	まいにちきもちよく	きちんとね	1 - (1) 規則正しい生活	光文
9	みんなでつかうもの	きいろいベンチ	4 - (1) 規則尊重・公德心	光文
1	心にブレーキを	月よう日のあさ	1 - (1) 規則正しい生活	市道徳
3	ものをたいせつに	うわばきぶくろ	1 - (1) 規則正しい生活	光文
「小学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連			各教科等との関連	
P. 2~5	ぽんたとかんた		○ひづけとようび ○がっこうだいすぎ ともだち だいすぎ ○夏休みの計画を立てよう ○かぜをよぼうしよう	国語 生活 特活等 特活等

「私たちの道徳」との関連

P. 10~19	きそく正しく気持ちのよい毎日を
----------	-----------------

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統

1 - (1) 「規則正しい生活」

小学校第1学年及び第2学年	1 - (1) 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがまをしないで、規則正しい生活をする。
小学校第3学年及び第4学年	1 - (1) 自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をする。
小学校第5学年及び第6学年	1 - (1) 生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける。
中学校	1 - (1) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。

第2学年 道徳学習指導案

主題名 すなおな ころろ

1 - (4) 正直・明朗

資料名 あのね、本とうはね

出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい 主人公が元気がないわけを<叱られることへの不安><母親に対する後ろめたさ><自己に対する誠実さ>等に注目してとらえることで、うそをついたりごまかしたりしないで、いつも明るい心で行動しようとする心情を育てる。

主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

人は、時として失敗や間違いをおかしてしまった時、叱られることを回避するため、事実と違うことを言ってしまうごまかしたり、事実をかくそうとしたりする傾向にある。しかしながら、うそをついたりごまかしたりをすると、自分の気持ちがすっきりしないで暗い心を持ち続けることになる。

したがって、自分自身に対する誠実さと明るく楽しい生活を心掛けようとする心情を育てよう指導していくことが大切である。

(2) 児童の実態

この時期の児童は、友だちどうしやその他の人とのかかわりの中で自分に不都合なことがあると、叱られたり笑われたりすることから逃れるために、うそをついたりごまかしたりして、暗い心になることが少なくない。これは、うそやごまかしをしてはいけないことは知っているが、その場における自分を守るための行動であると考えられ、なぜうそやごまかしがいけないことなのかという認識が不十分であることに起因しているものとも考えられる。

そこで、人の失敗を責めたり笑ったりしない学級づくりに努めるとともに、明るく正直に伸び伸びと生活することの大切さに気付かせる必要がある。

(3) 資料について

本資料は、宿題をしなかったあきちゃんが、学校で宿題を仕上げるために、「先生が、早く来るように言ったから」と、お母さんにうそをついてしまう。何とか、始業前に宿題を仕上げたものの、すっきりしない暗い心で一日を過ごす。帰宅後、お母さんに朝のことを正直に言おうとするという話である。

主人公が宿題をすませても元気がないわけと自分が宿題をしていなかったり、ついうそをついてしまった経験とを重ねて考えさせることにより、うそをついたりごまかしたりせず、明るく正直に生きることの大切さに気付かせることができる資料である。

指導について

資料を教師が読み聞かせた後、朝家を出るまでと学校での主人公の様子や場面を表す絵やことばを板書に位置付けながら、主人公がとっさにうそをついて家を出た時の気持ちを考えさせていく。主人公がどんな気持ちで家を出たかを、自分のこれまでの経験を重ねて考えさせることで共感的につかませる。

主人公が宿題を終わらせたにもかかわらず、元気が出ない状況に目を向けさせた後、なぜ元気がないのかを考えさせることで、<叱られることへの不安><母親に対する後ろめたさ><自己に対する誠実さ>等の観点から考えを出し合わせる。その際、自分の考えをワークシートに書かせる活動を取り入れ、自分の経験を想起させながら、自分の立場をはっきりさせて発言させる。その上で、帰宅後、本当のことを話し始めた主人公の心情を考えることで、自己の考えを深めさせたい。

終末では、失敗や過ちをおかした時、正直に話してくれた子どもへの気持ちを綴った母親の手紙を紹介することで、これからも明るく正直に生活しようとする心情を育てたい。

学習指導過程

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入 10分	1 家を出る際、うそをついてしまったあきちゃんの様子を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を読み聞かせた後、家に帰る前までのあきちゃんの様子を表す言葉や場面絵を板書に位置付けながら、あらすじをつかませる。 ○ 宿題をしていなかったために、母親にうそをついてしまった状況を把握させ、朝あわてて家を出ようとするあきちゃんの様子を考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">あきちゃんは、どんなきもちでいえを出たのでしょうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんに気付かれたかも ・早く学校に行かなきゃ ・宿題をしあげなきゃ 	◆ うそをついてしまったあきちゃんの様子を、資料から読み取ることができたか。
展開 25分	2 元気のないあきちゃんの様子を考える。 3 お母さんに肩を抱かれたあきちゃんの様子を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 宿題が終わってすっきりしたはずのあきちゃんが、まだ元気のないことに目を向けさせた後、課題を提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">あきちゃんは、なぜげんきがなかったのでしょうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ● 自分の考えをしっかりとらせるために、ワークシートにあきちゃんになって気持ちを書かせた後、発表させる。 <p>＜叱られることへの不安＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんにうそを言った ・わかったらどうしよう ・友だちや先生に気づかれたかも ・叱られたら嫌だ <p>＜母親に対する後ろめたさ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんにうそをついてしまった、どうしよう ・うそと知ったら、お母さんどんな顔をするかな ・お母さんに何と言おう <p>＜自己に対する誠実さ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題をしていないことも、朝早く家を出る理由も、うそをついてしまった ・うそなんかつかなければよかった ・このままだと、すっきりしない ● 根拠が母に対するうそに集中すると考えられるので、自分自身への誠実さという価値にも気付かせるため、「お母さんにうそをついたからだけなのか。」と切り返す。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 家に帰って母親に本当のことを言おうとしたあきちゃんの様子を考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">おかあさんにかたをだかれたあきちゃんは、どんなきもちになったでしょうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・おかあさん、うそをついてごめんなさい ・思い切っておかあさんに話してよかった ・おかあさんって、本当にやさしいなあ ・はじめから、本当のことを正直に言えばよかった ● 子どもの発言を出させた後で、あきちゃんのほっとした表情の挿絵を板書に位置付ける。	◆ 元気のないあきちゃんの様子に共感しているか。 ◆ 本当のことを話し始めた時のあきちゃんの様子に共感しているか。
終末 10分	4 母親の手紙を聞き、自分の生活を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ わが子がうそをついていたことを、正直に話してくれたことが、とてもうれしかったという経験を綴った手紙を紹介し、自分の生活を見直させ、うそをついたりごまかしたりせずに、明るく正直に生活していこうとする意欲をもたせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・うちのおかあさんも、きっと分かってくれるだろう ・本当のことを素直に話すようにしよう 	◆ 母親の手紙を聞いて、うそをつかず、明るく正直に生活したいと考えることができたか。

あのね、本とうはね

あきちやんは、その日のあさ、いつもより早く いえを 出ようと思いました。あわてて ランドセルをせ
 おう あきちやんを見て、おかあさんが、
 「いつもより、ずいぶん早いね。どうしたの。」
 と、たずねました。あきちやんは おかあさんに せなかを むけたまま
 「先生から、早く きてねって 言われたの。」
 とこたえると、げんかんとび出して 行きました。

あきちやんが いつもより早く あわてて いえを出た 本と
 うのりゆうは、まだ しゆくだが、おわっていないからで
 す。

きのうのよる、おかあさんから
 「しゆくだけは、おわたの。」
 と、きかれたとき、ねむくて たまらなかつた あきちやんは、
 つい
 「うん、おわたよ。」
 と、いつてしまったのです。



がつこうにつくと、しゆくだいのプリントを すぐに はじ
 めました。

あとすこしで おわろうとしているころに、ともだちが つぎ
 つぎと きようしつに はいってきました。あきちやんは、プリ
 ントを そつとかくしながら、かきつづけました。

あさのかつどうが ほじまるまでに、しゆくだいを なんとか おわらせることが できました。でも、
 その日の あきちやんは、なぜだか げんきが ありませんでした。



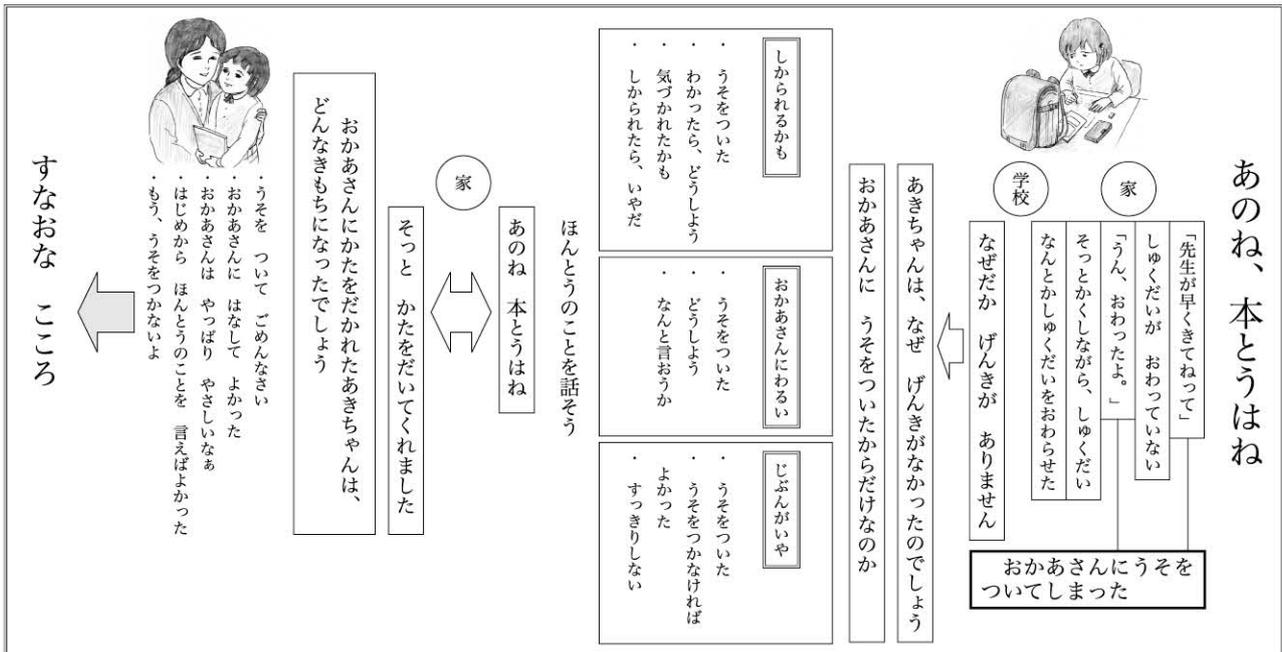
いえにかえると おかあさんに、
 「あさ、せんせいとの やくそくのじつくに まにあつたの。」
 と、きかれました。

あきちやんは、しばらく だまつていましたが、小さなこゑで
 はなしはじめました。

「あのね、本とうはね……。」

すると、おかあさんは、そつと あきちやんの かたをだきな
 がら はなしのつづきを きいてくれました。

板書計画



道徳の時間の指導内容

1 - (4) 「正直・明朗」との関連

月	主題名	資料名	内容項目	出典
6	おもいきっていう	おもいきって	1 - (3) 正しい判断・勇気	光文
6	すなおなころ	ねこがわらった	1 - (4) 正直・明朗	光文
11	すなおなころ	あかね、本とうはね	1 - (4) 正直・明朗	市道徳
「小学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連		各教科等との関連		
・掲載例なし		○いなばの白うさぎ ○ころのうた ○学級のめあてを決めよう ○雨の日の過ごし方を考えよう	国語 音楽 特活等 特活等	

「私たちの道徳」との関連

P. 44~51 すなおにのびのびと

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統

1 - (4) 「正直・明朗」

小学校第1学年及び第2学年	1 - (4) うそをついたりごまかしをしないで、素直に伸び伸びと生活する。
小学校第3学年及び第4学年	1 - (4) 過ちは素直に改め、正直に明るい心で元気よく生活する。
小学校第5学年及び第6学年	1 - (4) 誠実に、明るい心で楽しく生活する。
中学校	1 - (3) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。

第3学年 道徳学習指導案

主題名 すなおに反省しよう

1 - (4) 正直・明朗

資料名 おられた花

出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい 主人公が眠れないわけを＜自分の行為に対する反省＞＜周りの人に対する反省＞＜行動を改めていないことに対する反省＞等に注目してとらえることで、自分の過ちを素直に認め、改めようとする心情を育てる。

主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

児童が積極的で健康的な自己像を描くには、自己の過ちを認め、改めていく素直さをもつとともに、誠実さを持ち、明るく楽しい生活を心掛けようとする姿勢をもつことが大切である。よく考えて行動できないことがあっても、その過ちを素直に認めて反省し、次に行動するときの考える材料とすることで、次第に思慮深く行動し、よりよく生活を送ることができるようになる。

(2) 児童の実態

この時期の児童は、先の見通しを持つての行動がとれず、失敗してしまうことが多い。それは、行動の結果を予測する力がまだ不十分であったり、経験が少なかつたりすることからくる。また、考えることよりも行動を優先してしまうということもその原因の一つであると言える。

そのような中、ともすると、叱られたくないとの思いから、失敗したことをかくそうとしたり、ごまかそうとしたりもする。このような時期であることから、自分を客観的に見つめさせ、自分自身をコントロールしていく力を身に付けさせることが大切と考える。

(3) 資料について

本資料は、サッカーに夢中になっていた主人公が、向かいの花だんの花を折ってしまい、正直に責任をとらなかつたため暗い気持ちが残るという内容である。しまったと思いついその場から逃げてしまうが、何日経っても気になり続ける主人公の姿に、子どもたちも共感できるであろう。母親の話を聞いて、眠れずに悩む主人公の気持ちに視点を当てて、過ちを認めようとする気持ちを考えさせることができる資料である。

指導について

はじめに「悩んで眠れなかつた経験」を子どもに出させたり、教師の経験を話したりすることにより、そのような経験の少ない子どもたちにその様子や苦しさを感じ取らせる。

次に資料の内容をおさえる中で、主人公がよく考えずにした行動を出し合う。花を折ってしまい大変だと思いついその場から逃げ出してしまった主人公のあせりや迷いの気持ちに共感させる。そこで、『「ぼく」が眠れないほど気になっているのは、なぜか。』と問い、＜自分の行為に対する反省＞＜周りの人に対する反省＞＜正直に責任をとっていないことへの反省＞等の視点に分けて板書し、意見の違いを見やすく整理する。出された意見は否定せず受け止めたうえで、「眠れないほど気になっていたのは、おばさんに対する申し訳なさからか。」と問い返し、その日の母親の言葉かけからだけでなく、ずっと気になっていた、暗い気持ちになったりしたことにも注目させとらえさせる。そして、周りの人に対しての反省だけでなく、自分自身の行動を改めていないことに対しての反省の気持ちが大きいことに気付かせていきたい。

終末段階において、自分自身の体験と重ね合わせながら、次の日の主人公の行動を考えることにより、自分のあやまちを正直に認め、改めようとする心情を育てることが期待できる。

学習指導過程

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入 5分	1 「悩んで眠れなかった」体験を話す。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体験を話したり聞いたりすることにより、眠れないほど悩む様子やその苦しさを感じ取らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> これまでに、なやんでねむれなかったことはないか。 </div> ● 悩んで眠れないといった経験をもつ子どもが少ないと考えられるため、これまで体験した子どもの発表をもとに、そのときの様子や気持ちなどを感じ取らせる。 ● 教師自身の体験も話し、苦しかった気持ちなどを伝える。 	◆ 自分の体験を振り返って考えたり、友だちの体験から苦しい気持ちを感じ取っているか。
展開 30分	2 「ぼく」の反省していることをねむれないほど気になっているわけと結び付けて考える。 3 「ぼく」の反省していることについて見直す。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を範読した後、よく考えずに行動したことをおさえる。 ● 花を折ってしまい大変だと思いながらも外へ飛び出して行った「ぼく」のあせりや迷いの気持ちに共感できたところで課題を位置付ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> 「ぼく」がねむれないほど気になっているのはなぜか。 </div> ○ ぼくが反省していることを、眠れないほど気になっていることと結び付けて考え、吹き出しに書かせて発表させる。 ● <自分の行動に対する反省><周りの人に対する反省><行動を改めていないことに対する反省>等、考えの違いが明確になるよう板書に位置付ける。 <自分の行動で> ・ボールをけらなければよかった ・公園で練習すればよかった <周りの人に対して> ・大切にしていた花なのに ・おばさんに申し訳ない ・そえ木までしてなおしていたのに ・大切にしていたおばあさんに申し訳ない <正直に責任をとっていないことに対して> ・なぜ、ちゃんとなおさなかったのだろう ・正直にあやまればよかった ● 自分の行動や周りの人に対しての反省には、共感しやすいと考えられることから、より具体的な見直しを図り、〈正直に責任をとっていないことに対して〉の反省という視点からも考えを深めさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> ねむれないほど気になっていたのは、おばさんに対する申し訳なさからか。 </div> ○ おばさんに対する反省に目を向けさせ、話し合うことにより、おばさんに対する反省だけではなく、行動を改めていないことに対しての反省に目を向けさせる。 ● その日の母親の言葉かけからではなく、ずっと気になっていたり、暗い気持ちになったりしたことにも注目させ、行動を改めていないことへの反省の気持ちに気付かせる。 	◆ 眠れないほど気になっていたわけを、行動や周りの人に対する反省だけでなく、行動を改めていないことに対する反省という視点でも考えているか。
終末 10分	4 次の日の「ぼく」の行動について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次の日「ぼく」はどうしたと思いますか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> 次の日「ぼく」はどうしたと思いますか。 </div> ○ 自分の経験と重ね合わせながら、次の日の「ぼく」の行動を考えさせる。 ・自分で謝りに行く ・母親と謝りに行く ・謝れずに悩む ・友だちに相談する ● 考えの根拠を明確にさせ発表させる。 	◆ 自分の経験と重ね合わせて、次の日の「ぼく」の行動を考えることができたか。

おられた花

学校から帰ると、ぼくはすぐにサッカーボールをもち出した。きょうは3時から学校でチームのれんしゅうしあいがあるので、家の前でれんしゅうをしておきたかった。

この前のしあいではなかなか思うようにボールがけれず、けつきよくチームもまけてしまった。きょうはかならずシュートをきめるぞと思ひながら、ぼくはかべにむかつてボールをけりつづけた。

そのとき、つい強くけりすぎたボールが高くはねかえつて、むかいの家のかべをこえて、中へとびこんでいった。

(しまった!)と思ひながら、にわをのぞいてみたが、となりはるすのようだった。

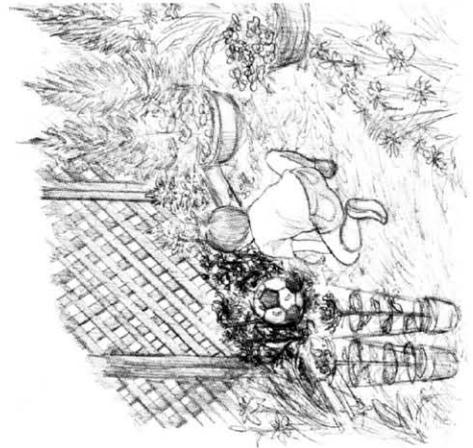
ぼくは思い切つてにわの中に入り、いそいでボールをさがした。

するとボールは、花だんにうえられた花の間に、おちていた。

ぼくはあわててボールをもち上げたが、花のくきが一本、ぼつきりとおれていた。

(たいへんだ...)ときどきするむねをおさえながら、ぼくはあたりを見回した。花だんの花は、とてもきれいにうえられていて、よく手入れされているのがわかった。なのにここだけ土がへこんで、おれた花のほかにも、何本かくきがたおれかかっている。

(どうしよう、もと通りにしなければ...) そう思ひながらも、頭の中にくるくるといろんなことがうかんできて、ぼくは思わずボールをつかんでにわの外にとび出した。



つぎの日の朝、ぼくはとなりの家を見ないように、走つて学校にむかった。そのつぎの日も、またそのつぎの日も、となりの家の前は、さけるように走つて通りすぎた。それでも、ずっと花だんのこと気がなつてしかたなかった。

4日目の帰り、思い切つてそうつとなりの家のにわをのぞいてみた。すると、へこんだ土はもと通りきれいになり、たおれかかっていた花のくきには、そえ木がしてあるのが見えた。

(ぼくがやらなければいけなかったのに...) ぼくは自分の心にもおもたい土がかぶせられたようなくらい気持ちになった。



その日の夕がた、となりのおばさんが回らんばんをもつて来た。げんかん先でお母さんと何を話しているのか、ぼくは心ばいだつた。

夕はんのときに、お母さんがいい出したのは、やつぱり花だんのことだつた。

「おとなりのおうちの花だんが、ねこにあらされちやつたんですつて。なくなつたおばあちゃんがとても大切にしていた花だんなので、いつも前の年にとれたたねをまいて、よく手入れをしているのね。ねこには、大切にしているものがわからないのね。」

その話を聞いてぼくは、いつもにこにこしながら、花だんの手入れをしていたとなりのおばあちゃんのことを思い出した。それでおばさんは、花にそえ木までしていたんだ。

これまでのことを考えると、ぼくはその夜、なかなかねむれなかつた。そして思つた。

「あした、どうしよう...。」

板書計画

「ぼく」がねむれないほど気になっているのはなぜか

〈自分の行動で〉 〈まわりの人に対して〉 〈正直に責任をとっていないことに対して〉

- ・ ボールをけらなければよかった
- ・ 公園でやればよかった
- ・ おぼさんにもうしわけない

大切にしていただけなかったのだから

- ・ そえ木までしておいたの
- ・ 正直にあやまれればよかった

ねむれないほど気になっていたのは、おぼさんに申し訳なかったからか

- ・ おぼさんに申しわけなかったから
- ・ ボールをけつて花をおつたから
- ・ 両方ともある
- ・ それだけでなくあやまらなかつたから
- ・ きちんとあやまらなかつたから
- ・ 花のそえ木をしなかつたから

おられた花

「ぼく」がよく考えずにしたこと

- ・ 家の前でボールをなげる
- ・ むかいの家のにわに入る
- ・ 花だんをあらし、花をおる
- ・ 何も言わずに飛び出す

反省

次の日ぼくはどうしたと思いますか

- ・ 自分であやまりに行った
- ・ お母さんといっしょにあやまりに行った
- ・ あやまれずになやんでいる
- ・ 友だちに相談する

行動を改めることが大切



道徳の時間の指導内容

1 - (4) 「正直・明朗」との関連

月	主題名	資料名	内容項目	出典
4	しょうじきな心	千ばづる	1 - (4) 正直・明朗	光文
7	すなおに反省しよう	おられた花	1 - (4) 正直・明朗	市道徳
11	どうすることが正しいか	思いきって言ったらどうなるの？	1 - (3) 善悪の判断・勇気	光文
「小学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連			各教科等との関連	
・ 掲載例なし			○三年とうげ ○外で遊ぼう ○ものを大切にしよう	国語 特活等 特活等

「私たちの道徳」との関連

P. 38~45 正直に明るい心で

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統

1 - (4) 「正直・明朗」

小学校第1学年及び第2学年	1 - (4) うそをついたりごまかしをしないで、素直に伸び伸びと生活する。
小学校第3学年及び第4学年	1 - (4) 過ちは素直に改め、正直に明るい心で元気よく生活する。
小学校第5学年及び第6学年	1 - (4) 誠実に、明るい心で楽しく生活する。
中学校	1 - (3) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。

第4学年 道徳学習指導案

主題名 ねばり強く取り組む

1 - (2) 勤勉努力・粘り強さ

資料名 プールのかべ

出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい

プールのかべをめざして再びがんばれたわけを<泳げないくやしき><周りのがんばりや励まし><自分自身の決心>等に着目してとらえたり、はっとした時の主人公の気持ちを考えたりすることにより、目標の実現に向けて粘り強くやりとげようとする心情を育てる。

主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

この中学年段階の子どもたちは、「自分がやらなければならないこと」だけでなく、更に自主性を発揮し、「自分でやろうと決めたこと」に対しても積極的に取り組み、粘り強くやり遂げる精神を育てることが大切である。

しかし、目標をもってねばり強く努力することは、たやすいことではない。時には、努力する気持ちを忘れそうになったり、くじけそうになったりすることもある。そのような中で、努力を持続させるためには、意志を強くもつことが必要である。強い意志をもち続けるためには、教師や友だちからの励ましや賞賛、友だちのがんばる姿などをきっかけとして、気持ちを強くもち直すことが大切である。

(2) 児童の実態

この時期の児童は、さまざまなことに興味や関心をもち、好奇心が旺盛になってくる。また、友だちのよいところを見つけることが得意になる学年でもある。自分の現在の姿を踏まえて目標を設定することもできるようになってくる。しかしながら、興味・関心は、拡散的になり、努力を継続することができにくい。そのため、目標を達成したときの喜びに目を向けさせたり、目標を立てたときの気持ちを振り返らせたりすることによって、自分がやろうと決めたことをねばり強くやりとげようとする心情を育むことが大切である。

(3) 資料について

本資料は、主人公が25mを泳ぐことを目標にするが、なかなか達成できないでいるうちにあきらめようとする。しかし、友だちのがんばる姿や励ましにより、目標を再び思い返して、がんばり続けるという話である。主人公が最初の目標を思い出す「はっ」とする場面に視点をあてて、自分で決めたことをやりとげようとする気持ちの大切さに気付かせることができる資料である。

指導について

導入段階において目標に向けて最後までがんばれなかった経験を十分に語らせた。その際、挫折は、多くの人間が経験することであり、教師の体験談を話して聞かせるなどして、自分たちの体験を安心して語れるように配慮したい。その後、資料を読み、主人公の行動を中心としてあらすじをおさえ、主人公の気持ちに共感させる。主人公の気持ちに共感できたところで「再び練習に取り組むようになったのはなぜか。」と問い、<泳げないくやしき><周りのがんばりや励まし><自分自身の決心>等の視点に分けて板書し、意見の違いを見やすく整理する。出された意見は否定せず受けとめたうえで、「はっとしたのは、泳げないことがくやしかったからか。」と問い返し、最初の目標に向けて努力を続ける姿に心を打たれた主人公の気持ちをとらえさせる。

終末段階において、自分が最後までやりとげるためには何が必要かと問いかけ、今後の自分の行動を考えるきっかけとしたい。

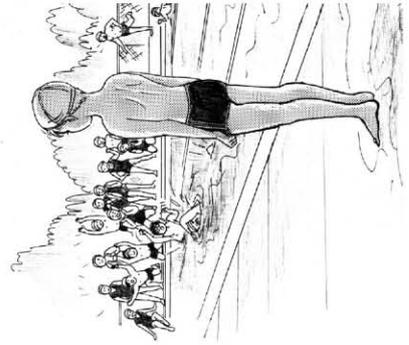
学習指導過程

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入 10分	1 目標を立てたけど、最後までがんばれなかった経験を話す。	<p>目ひょうを立てたけれども、さい後までがんばれなかったけいけんがあるか。</p> <p>○ 目標を立てたけど、最後までがんばれなかった経験を出し合わせる。</p> <p>● 最初に教師ができなかった経験を話し、安心して話せる雰囲気を作る。</p>	◆ 自分の体験を想起し話しているか。
展開 25分	2 資料を読んで、のぶおがこままでがんばれたわけを考える。 3 ゆうたの言葉を聞いて「はっ」としたわけを考えることにより、再び取り組むようになったわけを深める。	<p>○ 資料を範読し、練習がいやになった主人公が逃げずに練習に取り組むようになったことを確認させる。</p> <p>● あきらめかけていたのぶおの気持ちに共感できたところで課題を位置付ける。</p> <p>ふたたび練習に取り組むようになったのはなぜか。</p> <p>○ あきらめかけていたのぶおが、再びがんばるようになったわけを考えさせる。</p> <p>● <泳げないくやしき><まわりのがんばりや励まし><自分自身の決心>等、考えの違いが明確になるよう板書に位置付ける。</p> <p><泳げないくやしき></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆうたの言葉がいやだったから ・泳げないのがくやしいから <p><周りのがんばりや励まし></p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生や友だちに応援されたから ・ゆうたの努力の姿を知ったから <p><自分自身の決心></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で決めた目標だから ・自分に負けたくないから ・前の年もあきらめていたから <p>● くやしき、まわりのがんばりや励ましという考えには、共感しやすいと考えられ、<自分自身の決心>という視点からも考えを深めさせるため、次の問いを位置付ける。</p> <p>ゆうたの言葉を聞いて「はっ」としたのは、泳げないことがくやしかったからか。</p> <p>○ ゆうたの言葉にはっとしたのぶおの姿に着目し、のぶおががんばれたわけを見直させ、自分で決めたことをやりとげる大切さに気付かせる。</p> <p>● ゆうたの言葉から、最初の目標に向けて努力を続ける姿に心をうたれたのぶおの気持ちをとらえさせる。</p>	◆ のぶおが再び取り組むようになったわけを、くやしきやまわりの影響だけでなく、自分自身の決心という視点でも考えられたか。
終末 10分	4 これからの自分の行動について、のぶおの言動と関連させながら考える。	<p>目ひょうに決めたことをさい後までやりとげるためには、あなたにとって何がひつようか。</p> <p>○ 今後の自分の行動を、のぶおがゆうたから学んだことと関連付けながら考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつも目標を考えておくこと ・友だちどうしではげまし合うこと ・自分に勝つこと 	◆ 最後までやりとげるために、自分に必要なものが何かについて考えられたか。

プールのかげ

「のぶお君は、水泳が苦手なんだね。」

プール開きを次の日にひかえた、サッカーの練習の帰り道、ゆうた君に言われたこの言葉にくやしい気持ちでいっぱいになった。それと同時に、去年の水泳も25メートル泳ぐという目ひようをもっていたが、とちゆうであきらめてしまった。このままではいけない。今年こそは25メートル泳げるようにがんばろうと思った。



水泳の練習がはじまった。6月のプールの水はちよつと冷たい。顔をつけるとそのつめたさがつらい。さいしよは、足をついたまま顔をつけてぶくぶく息をはく練習からだった。

じゆ業のさい後に、今年はじめて記ろくをはかった。8メートルだった。去年よりも記ろくが下がっていることに気づきがつかりした。

その後も水泳の練習がつづいた。まわりの友だちはどんどん記ろくがのびていった。あまり記ろくがのびない自分は、なんだかとりのかされたような気持ちが出てきた。こんなはずじゃなかった。ぼくは、だんだん練習をするのがいやになってきた。泳いでいてもきつくなったらすぐに立つようになった。また、プールサイドにいて、練習をせずに、時間だけがすぎるのを待つようになった。

そんな日がしばらくつづいたある日の練習でも、あいかわらずぼくは息つきをせずに、10メートルくらい泳いだところで立った。それでもいいやと思ってプールから上がった。その時、

「いぞ！ゆうた！その調子だ！」

とつぜん、先生の大きな声が聞こえた。他のみんなもゆうた君をおうえんしている。ゆうた君が苦しそうな顔をしながら泳いでいるのが見えた。ぼくは、そんなゆうた君をじつと見ていた。

その日の帰り、ぼくはゆうた君に言った。

「ゆうた君、すごいね。25メートル泳げたんだね。」

「うん、ぼく泳げないのがくやしくて、休みにも市みんプールで練習したんだ。それに、自分で決めた目ひようだし……。」

ぼくは、ゆうた君のその言葉を聞いてはっとした。



次の日から、ぼくはにげずに練習に取り組んだ。楽しみな水泳の自由時間も遊ばずに一人で練習をした。家でもおふろで息つきのれんしゆうをした。苦しくてまたやめたい気持ちになることもあったが、とにかく練習をつづけた。何度練習しても、息つきに失敗してそのたびに水をのんだり、鼻に水が入ったりして苦しかったが、あきらめずにがんばった。

プールおさめの日、25メートルにチャレンジだ。不安ときんちようで心ぞうがドキドキするのがわかった。いよいよぼくのスタートの番だ。まだ、息つきがうまくできないからかんたんにはいかない。苦しい。水が鼻に入ってくる。もう、立ってしまおうかとも思った。がむしやらにうでをのばして水をかいた。

「のぶお君、がんばれ」

ゆうた君の声がした。先生の声もした。みんなの声が重なって大きくなっていくのがわかった。苦しくて立ちたかったけど、がまんして泳いだ。ついに、プールのかげが見えてきた。

板書計画



練習をせずに時間だけが過ぎるのを待っていたのぶおが
ふたたび練習に取り組むようになったのはなぜか



さい後までやりとげるために、何がひとつうか

- ・ いつも、目ひようを考えておく
- ・ はげまし合う
- ・ 自分の弱さに勝つ
- ・ 練習を続ける

ゆうたの言葉を聞いて「はっ」としたのは
泳げないことがくやしかったからか

- ・ くやしかったからだけでは
- ・ ゆうたが目標にむかつてがんばっていた
- ・ から
- ・ 自分自身の決心をやりぬくことが大切だ
- ・ から

〈自分自身の決心〉 〈まわりのがんばりやはげまし〉 〈くやしき〉

- ・ 自分で決めた目ひようだから
- ・ 自分に負けたくないから
- ・ 前の年もあきらめていたから
- ・ から
- ・ 先生や友だちにおうえんされた
- ・ から
- ・ ゆうたのど力のすがたを知った
- ・ から
- ・ ゆうたの言葉がいやだったから
- ・ 水泳ができないのでくやしきか
- ・ ら

プールのかべ

道徳の時間の指導内容

1 - (2) 「勤勉努力・粘り強さ」との関連

月	主題名	資料名	内容項目	出典
4	みんなのためにできること	みんなのためにできること	4 - (2) 勤労・社会奉仕	光文
7	ねばり強くやりとげる	プールのかべ	1 - (2) 勤勉努力・粘り強さ	市道徳
7	自分をかがやかせるために	わたしのゆめ	1 - (5) 個性の伸長	光文
12	やりとげる心と力	ノーベル賞の生みの親 -アルフレッド・ノーベル-	1 - (2) 勤勉努力・粘り強さ	光文
「小学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連			各教科等との関連	
・ 掲載例なし			<ul style="list-style-type: none"> ○ウナギのなぞを追って ○リコーダーをふこう ○学級のめあてを決めよう ○クラブ活動の取組 	国語 音楽 特活等 特活等

「私たちの道徳」との関連

P. 22~29 やろうと決めたことは最後まで

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統

1 - (2) 「勤勉努力・粘り強さ」

小学校第1学年及び第2学年	1 - (2) 自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。
小学校第3学年及び第4学年	1 - (2) 自分がやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。
小学校第5学年及び第6学年	1 - (2) より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。
中学校	1 - (2) より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。

第5学年 道徳学習指導案

主題名 自由時間における規律 1－(3)自由・自律・責任

資料名 自由時間なんだから 出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい だまって顔を見合わせた主人公の気持ちを＜自分の言動についての反省・後悔＞＜友だちの発言への疑問や反感＞＜周囲に対しての配慮＞等に注目してとらえることで、自由には規律や責任が伴うことに気づき、自律的な行動をしようとする気持ちを高める。

主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

自己を高めていくには、何ものにもとられない自由な考えや行動が大切である。しかし、その自由は気ままとは区別される。自分の自由な意志によっておおらかに生きながらも、そこにはけじめがあり、内から自覚された責任ある規律が伴っていなければならない。そこで、自由な考えや行動を大切に、自分の責任を踏まえた自律的な行動についての理解を深めることが必要となる。

(2) 児童の実態

この時期の児童は、他者の存在を意識し、お互いに尊重し合えるようになってくる。しかし、日常生活では、積極的な行動であっても自分勝手な行動も少なくない。それは、自由には規律が伴うことを十分に理解できていないためだと考えられる。そこで、自由には規律や責任が伴うことについて考えさせ、自律的な行動をすることの大切さに気付かせたい。

(3) 資料について

本資料は、宿泊体験活動で自由時間に大騒ぎをしてしまうという日常生活にありがちな問題を取り上げている。初めはトランプをして騒がしいのではないかと気にしていた主人公であったが、再び夢中になり、大騒ぎになってしまう。しかし、となりの部屋から「静かにして。」と言われ、「自由時間なんだから、自由にしていじやない。」と不満を口にする友だちの発言に心が揺れるという話である。主人公の心の動き、周りの友だちの様子などから、自由と自律的な行動の大切さについて深く考えさせることができる資料である。

指導について

導入では、自由にできてよかったことを出し合わせ、様々な場面を想起させ、自由のよさを確認して資料に出合わせる。

自分たちがトランプをして騒いでいる様子を（いいのかなあ。）と思っていた主人公が、みんなの楽しそうな笑顔を見て、次第にトランプに夢中になっていく気持ちを感じとらせる。その後、隣の部屋の班長が注意に来たことで班の中がもめたことを押さえる。

そして、「さやかさんとだまって顔を見合わせたとき、わたしはどんな気持ちだったか。」と問い、＜自分の言動についての反省・後悔＞＜友だちの発言への疑問や反感＞＜周囲に対しての配慮＞等の視点から主人公の反省の気持ちや友だちの自由時間のとらえ方への疑問や反感の気持ちを出させる。さらに「わたしは、自分もみんなと大騒ぎしたことをどう思っているのか。」と問い、主人公が周囲に対しての配慮が必要であったと感じていることに目を向けさせる。

終末では、「自由時間は何を考えることが必要なのか。」と問い、自由時間の中にも規律や節度が必要であることを押さえる。また、これまでの自分の生活を振り返らせることを通して、自由な考えや行動を大切にしながらも、自分の責任を踏まえ自律的な行動をしようとする気持ちを高めていく。

学習指導過程

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入 8分	1 「自由」について考えていることを出し合う。	○ これまでに、自由にできた経験を出し合わせる。 自由でできてよかったことはあるか。 ・宿題がなくて思いっきり遊べた。 ・算数の時間にパソコンを自由に使ってよかった。 ● 子どもたちから出された「自由のよさ」を確認して資料につなげる。	◆ 自分の経験や思いを発言することができたか。
展開 25分	2 資料を読み、夢中になっていったわたしの気持ちについて話し合う。 3 だまって顔を見合わせたわたしの気持ちを話し合い、自由時間について考える。	○ 場面の様子がわかるように、あらすじを簡単に板書に位置付ける。 ○ わたしが夢中になっていったわけを考えさせる。 (いいのかなあ。) と思っていたわたしが、だんだんトランプに夢中になっていったのはどうしてか。 ＜みんなで過ごす楽しさ＞ ・わくわくする ・これまで以上になかよくなった気がした ・みんな楽しみにしていた ・ふだん見られない笑顔 ＜自由時間の楽しさ＞ ・自由時間は自由にしていい ・自由は楽しいもの ● 実際の自然の家での経験等を思い出させながら、わたしの気持ちを感じとらせていく。その後、となりの部屋の班長からの苦情とわたしの言動をおさえ、次の発問につなぐ。 ○ さやかさんとだまって顔を見合わせたときのわたしの気持ちを考えさせる。 さやかさんとだまって顔を見合わせたとき、わたしはどんな気持ちだったか。 ＜自分の言動に対する反省・後悔＞ ・はしゃぎすぎた ・ちゃんと注意すればよかった ＜友だちの発言への疑問や反感＞ ・自分たちだけ楽しければいいの ・どうしてわからないの ＜周囲に対する配慮＞ ・迷惑をかけて悪かったな ・自由時間といっても迷惑はかけられない ● 反省・後悔の気持ちや友だちの発言への疑問や反感が強くなると思われるので、「わたしは、自分もみんなと大騒ぎしたことをどう思っているのか。」と問い、わたしが夢中になってしまい、自由時間でも周囲に対する配慮が必要であったと思っていることに目を向けさせる。	◆ 夢中になっていったわたしの気持ちに共感しているか。 ◆ 自由時間といっても周囲に対しての配慮が必要であることに気付いているか。
終末 12分	4 日常の生活を振り返りながら、自由と規律について考える。	自由時間は何を考えることが必要なのか。 ● 自由時間の中にも規律や節度が必要であることを押さえる。また、これまでの自分の生活を振り返らせることを通して、自由な考えや行動を大切にしながらも、自分の責任を踏まえた自律的な行動をしようとする気持ちを高めていく。	◆ 節度をもって自由を楽しむことの大切さに気付いているか。

自由時間なんだから

今日は五年生になってからずっと楽しみにしていた少年自然の家の宿泊体験。

楽しい一日目の活動は、午後からのウォークラリー、夜の天体観測で終わり、十時の消灯時刻までの一時間は自由時間。わたしたちの班は（みんなでトランプをしよう。）と、この時間をとても楽しみにしていた。

トランプを始めてしばらくの間は、話し声や笑い声が出て、そんなにさわがしいほどではなかったが、ゲームに夢中になってくるにつれて、だんだん大きくなり、いつの間にか大さわぎになっていった。さやか

さんが、

「ちよつとうるさくない。」

と言ったので、わたしも、

「もうちよつと静かにした方がいいかも。」

と言った。すると、かおりさんが、

「自由時間だし、このメンバーで過ごす夜なんてもうないのよ。ちよつとぐらいならさわいでもいいですよ。みんな、一緒に遊ぶのを楽しみにして

いたんだし……。」

と言ってきた。

わたしは、（いいのかなあ。）と思った。その時みんなが、

「そうよね。みんなが楽しみにしていた少年自然の家の夜だもんね。」

「そうよ、そうよ。はやく続けようよ。」

と口々に言い出した。

わたしはトランプを切りながら、みんなの様子をながめてみた。はじめて学校の友だちと一緒に過ごす夜。ふだんの学校生活では見られない笑顔がみんなの中にあるような気がした。そのうち、わたしもだんだん夢中になっていった。いつものトランプにはない、わくわくする気持ち。これまで以上にみんなとなかよくなったような気がした。ついつい声も大きくなってしまい、また大さわぎになってしまった。

そのとき、入口のドアが開き、となりの部屋の班長が、

「もうちよつと静かにしてくれない。うるさくて、ゆつくり過ごせないじゃない。」

と言ってきた。いつしゅん、さわぎはおさまった。

となりの部屋の班長がもどつてから、かおりさんたちが口々に言った。

「なによ、せっかく楽しくやっていたのに。」

「自分たちだつて楽しめばいいのよ。」

すると、さやかさんが、

「やっぱりもう少し静かにした方がいいよ。」

と言った。わたしは、だまつてうなずいた。

ところが、かおりさんたちは、

「自由時間なんだから、自由にしていいいじゃない。」

「そうよ、自由だから楽しいのよ。」

と言いつ返してきた。

しばらくの間、みんなはだまつて配られたトランプを見ていたが、

「あーあ、せっかく楽しく盛り上がっていたのに、何だか楽しくなくなっちゃった。」

「わたしも。」

「わたしも。」

と、つまらなそうにトランプを床においた。

わたしとさやかさんは、だまつて顔を見合わせた。

（たしかに自由時間だけど……。）わたしは、心の中でつぶやいた。



板書計画

自由時間

規律や節度が必要

自由時間は何を考えることが必要か

自由時間の楽しさ

自由時間は自由にしている

自由は楽しいな

自由時間なんだから

少年自然の家

みんなでトランプ

となりの部屋の班長

「もうちょっと静かにしてくれない。」

さやかさんとだまって顔を見合わせたとき、わたしはどんな気持ちだったか

〈友だちに〉

〈自分に〉

〈周囲に〉

自分たちだけ楽しければいいの

・はしやぎすぎた

・めいわくをかけて悪かった

・ちやんと注意すればよかった

・自由時間といつてもめいわくはかけられない

〈みんなですすめ〉

〈みんなで見られない笑顔〉

〈みんなですすめ〉

〈みんなで見られない笑顔〉

（いいのかなあ。）と思っていたわたしが、だんだんトランプに夢中になっていったのはどうしてか

道徳の時間の指導内容		1 - (3) 「自由・自律・責任」との関連		
月	主題名	資料名	内容項目	出典
4	心の管理人	心の管理人	1 - (3) 自由・自律・責任	光文
11	心のひもをしめる	ひみつのトレーニング	1 - (1) 節度・節制	光文
2	自由時間における規律	自由時間なんだから	1 - (3) 自由・自律・責任	市道徳
「小学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連			各教科等との関連	
・掲載例なし			○ゆるやかにつながるインターネット ○情報は、どのようにして伝えられるの ○中休み・昼休みの過ごし方 ○雨の日の室内での過ごし方	国語 社会 特活等 特活等

「私たちの道徳」との関連	
P. 28~37	自律的で責任のある行動を

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統		1 - (3) 「自由・自律・責任」
小学校第1学年及び第2学年	1 - (3)	よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。
小学校第3学年及び第4学年	1 - (3)	正しいと判断したことは、勇気をもって行う。
小学校第5学年及び第6学年	1 - (3)	自由を大切にし、自律的で責任のある行動をする。
中学校	1 - (3)	自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任を持つ。

主題名 自分の個性を知り、長所を伸ばそう 1－(6)個性の伸長

資料名 ぼくの長所って何？ 出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい 主人公が姉の姿から考えたことを<姉に感心している><自分を反省している><自分を見つめている>等に着目してとらえ、自分の短所を改め、長所をよりよく伸ばそうとする心情を育てる。

主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

個性の伸長は、自分のよさを生かすことであり、自分らしさを発揮しながら調和のとれた自己を形成していくことである。自分の特徴に気付くことから長所を知り、積極的に伸ばそうとする態度を育てるとともに、短所にも気付き改めようとする心情を育てることが大切である。

(2) 児童の実態

この時期の児童は、他人のことにはよく気付くが、自分自身のことには案外気付いていないことが多い。また、短所については友だちなどから指摘され気付きやすいが、長所には気付きにくいものである。そこで、自分の個性について考えたり、自分自身を見つめ直したりすることを通して、自分らしさを知り、そのよさをどのように伸ばしていくかを考えさせることが必要である。

(3) 資料について

本資料は、姉に短所を指摘され何も言えなくなった主人公が、父親の話を聞いて自分の長所は何だろうか考える話である。主人公は、野球は上手だが、物を大事にしないことやコーチの言うことを守っていないことを姉に指摘される。そんな主人公に、バスケットボール部でがんばっている姉の姿を父親が話して聞かせる。姉のがんばっている姿や主人公の気持ちの変化等から、自分を見つめ直し、長所を伸ばすとともに短所を直そうとすることの大切さに気付かせることができる資料である。

指導について

導入では、長所、短所の意味をおおまかにとらえさせ、資料に出合わせる。

資料を読ませた後、「姉の後ろ姿をながめていたたかしは、どんなことを考えていたのでしょうか。」と問い、主人公の考えたことを<姉に感心している><自分を反省している><自分を見つめている>等の観点から想像させる。その際、姉に感心していることや自分自身の反省の気持ちが多く出されると思われるので、「お父さんはお姉ちゃんのどんなところをほめているのか。」と投げかけることにより、父の思いや姉が自分のよさを生かしている姿に目を向けさせ、自分の長所は何だろうかと考えていることをとらえさせる。

さらに、「たかしはこれからどうすればいいと考えたか。」と問い、たかしはこれからどうすることが大切なのかを、<長所を伸ばす><短所を直す>という観点から板書に整理し、長所を見つけ伸ばすことと短所を直すことの大切さに気付かせる。

終末は、自分自身を見つめ、長所を考えさせることにより、今まで気付かなかった自分の長所に目を向けさせたい。

また、関連した指導として、学級活動においてグループごとに「友だちの長所をみつけよう」等の活動を行い、自分では気付かない長所を互いに認め合う場を設定することも考えられる。

学習指導過程

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入 5分	1 長所、短所の意味を考える。	○ 自分の長所、短所について考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">あなたの長所、短所は何か。</div> <ul style="list-style-type: none"> ● 何人かの子どもの具体的な例をあげ、長所、短所の意味をおさえ、資料に入る。 	◆ 自分の長所、短所をとらえているか。
展開 25分	2 資料を読み、姉の後ろ姿をながめていたたかしの気持ちを考える。 3 たかしはこれからどうすることが大切かについて考える。	○ 資料を読ませ、お父さんの話を聞いて、姉の後ろ姿をながめていたたかしの気持ちを考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">姉の後ろ姿をながめていたたかしは、どんなことを考えていたのか。</div> <p><姉に感心している></p> <ul style="list-style-type: none"> ・お姉ちゃんがんばっているな ・お姉ちゃんはすごいな <p><自分を反省している></p> <ul style="list-style-type: none"> ・道具を大事にしていなかった ・自分は努力をしていなかった <p><自分を見つめている></p> <ul style="list-style-type: none"> ・お姉ちゃんは長所を伸ばしているのか ・野球以外の長所って何だろう <ul style="list-style-type: none"> ● 姉のがんばっている様子や父の言葉から、たかしが姉に感心し、自分を反省していることをとらえてくると思われる。そこで、「お父さんはお姉ちゃんのどんなところをほめているのか。」と投げかけ、父がたかしに伝えたいことは、姉が自分のよさを生かしている姿であることに目を向けさせる。そして、たかしが自分の長所を見つけ伸ばそうと考えていることに気付いてきたら、次の発問へとつなぐ。 <p>○ たかしはこれからどうすることが大切かについて考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">たかしはこれからどうすればいいと考えたのか。</div> <p><長所を伸ばす></p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと真剣に野球に取り組もう ・お姉ちゃんのように努力を続けよう ・自分の長所を見つけてみよう <p><短所を直す></p> <ul style="list-style-type: none"> ・道具を大事にしよう ・コーチの言うことを素直に聞いて練習しよう ・粘り強くがんばろう <ul style="list-style-type: none"> ● 具体的なたかしの気持ちを<長所を伸ばす><短所を直す>という観点で分類して板書し、長所を見つけ伸ばすことと、短所を直すことの両方が大切であることに気付かせる。 </p>	◆ 長所を生かしている姉への尊敬や自分への反省から、たかしが長所を見つけようとしていることに気付いたか。 ◆ 長所を伸ばす、短所を直すという観点から考えているか。
終末 15分	4 自分の長所を考える。	○ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分の長所は何か。</div> ○ 「見つけカード」を参考にしながら、自分自身を見つめさせ、自分の長所について考えさせる。	◆ 自分の長所を見つけようとしていたか。

ぼくの長所って何？

三学期が始まって間もなくのことだ。ぼくは、いつものようにお父さんとお母さん、中学二年生の姉と夕食を食べ、食卓についたままあれこれ話をしていた。

お父さんがほほえみながら、ぼくにこう言った。

「たかしももうすぐ中学生だな。将来は何になりたいんだ？おまえは野球が上手だから、プロ野球選手になれるといいな。」

それを聞いた姉が、

「たかしには無理だよ。いくら野球が上手でも、道具を大事にしないもの。道具を大事にしない選手は伸びないってイチローも言っていたわ。」

「それに最近は寒いからかもしれないけど、コーチに言われている素振りもあまり見ていないわよ。」

「たしかにそういうところはあるけど・・・お姉ちゃんには関係ないだろ。」

ぼくはそれ以上何も言えなくなってしまった。

すると、ぼくたちの話を聞いていたお父さんが、

「まあ、そんなにたかしを責めなくてもいいじゃないか。」

と姉に言った。姉はちよつとお父さんを見たあと、だまつて母のいる台所に行ってしまった。

しばらく姉の後ろ姿を見ていたお父さんが、ぼくを見て静かに話し始めた。

「たかし、お姉ちゃんも言い過ぎたかもしれないが、お姉ちゃんはおまえのことを心配してるんだぞ。この間も、『たかし、このごろどうしちやっただら。何だか元気がないと思わない？』って父さんに言ってたんだぞ。」

(へえ、お姉ちゃんはそんなことを言ってたんだ。) と思っていると、お父さんがぼくにきいた。

「たかしは、お姉ちゃんのことをどう思ってるんだ？」

とつ然のお父さんの言葉におどろきながら、うーんと首をかしげた。するとお父さんは、

「たかしも知ってるとおおり、お姉ちゃんは中学になってからバスケットボール部に入った。小学校でもそれほど運動が得意じゃなかったから、(だいじょうぶかな。) と父さんと母さんはちよつと心配してたんだ。・・・それが、これまで一度も練習を休んだことがないし、自分で決めた毎朝のランニングも続けているだろ。」

(そういえば、何度か早起きした時に、ジャージ姿のお姉ちゃんを見かけたことがあつたなあ。)

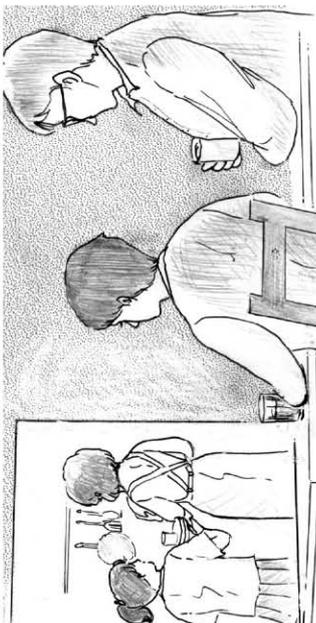
お父さんは、さらに話し続けた。

「たかし、お姉ちゃんはレギュラーをめざして一生けん命にがんばってるんだよ。今のレギュラーは、小学校からミニバスケットをやっていた人ばかりだしな。以前、父さんがお姉ちゃんの試合を見に行つたことがあつたんだ。お姉ちゃんは試合に出ていなかったけれど、ベンチから人一倍大きな声で応援したり、ハーフタイムにタオルを配つたりしていたよ。チームの一人として選手を支えていたお姉ちゃんは、自分のよさを精一杯生かしていたよ。」

「えっ、自分のよさ？」

「ああそうだよ。・・・たかし、おまえの長所は野球が上手なだけなのか？」

ぼくは、お父さんの話を聞いて、台所で楽しそうに笑いながら母の手伝いをしている姉の後ろ姿をながめた。



板書計画

ぼくの長所って何？

長所

短所

・パソコンが得意
・低学年にやさしい
得意なところやよいところ

・水泳が苦手
・すぐにあきらめてしまう
苦手なところやよくないところ

姉の後ろ姿をながめていたたかしは、どんなことを考えていたのか

〈姉に感心している〉 〈自分をみつめている〉 〈自分を反省している〉

- ・お姉ちゃんは すごいな
- ・野球以外の長所って 何かな
- ・がんばっているな
- ・お姉ちゃんも長所を 伸ばしているのか
- ・道具を大事に できなかった
- ・努力をしないな
- ・努力をしていた かった

たかしはこれからどうすればいいと考えたのか

〈長所を伸ばす〉

- ・野球を真剣にする
- ・努力を続ける
- ・長所を見つける

〈短所を直す〉

- ・道具を大事にする
- ・粘り強くがんばる
- ・コーチの言うことをする

どちらも大切

自分の長所は何か

自分を 見つめてみよう

道徳の時間の指導内容

1 - (6) 「個性の伸長」との関連

月	主題名	資料名	内容項目	出典
4	自分を生かす道	よみがえった速球 - 藤川球児 -	1 - (6) 個性の伸長	光文
6	目標をもってやりぬく	鑑真和上	1 - (2) 高い目標・勇気	光文
1	自分の個性を知り、長所を伸ばそう	ぼくの長所って何？	1 - (6) 個性の伸長	市道徳
3	夢に向かって	夢に向かって - 三浦雄一郎 -	1 - (2) 高い目標・勇気	光文
「小学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連			各教科等との関連	
・掲載例なし			○感情 ○この絵、わたしはこう見る ○想像のつばさを広げて ○最上級生としての自覚と抱負 ○小学校生活を振り返って	国語 国語 図工 特活等 特活等

「私たちの道徳」との関連

P. 50~53 短所を改め、長所をのばして

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統

1 - (6) 「個性の伸長」

小学校第1学年及び第2学年	
小学校第3学年及び第4学年	1 - (5) 自分の特徴に気付き、よい所を伸ばす。
小学校第5学年及び第6学年	1 - (6) 自分の特徴を知って、悪い所を改めよい所を積極的に伸ばす。
中学校	1 - (5) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。

2の視点「主として他の人とのかかわりに関すること」の
内容の趣旨と指導及び学習指導案・資料

「主として他の人とのかかわりに関すること」の内容の趣旨と指導

(1) 2の視点について

① 2の視点の意味

道徳の内容に示されている4つの視点は、すべての人間がもっている生活上のかかわりの対象を示している。したがって、子どもたちが望ましい道徳性を自らの内に培い、人間としての生き方についての自覚を深めていくためには、これら4つのかかわりのすべてを主体的にもてるような指導を充実させる必要がある。

○ 1の視点「主として自分自身に関すること」

自己の在り方を自分自身とのかかわりにおいてとらえ、望ましい自己の形成を図る。

○ 2の視点「主として他の人とのかかわりに関すること」

自己を他の人とのかかわりの中でとらえ、望ましい人間関係の育成を図る。

○ 3の視点「主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること」

自己を自然や美しいもの、崇高なものとのかかわりにおいてとらえ、人間としての自覚を深める。

○ 4の視点「主として集団や社会とのかかわりに関すること」

自己を様々な社会集団や郷土、国家、国際社会とのかかわりの中でとらえ、国際社会に生きる日本人としての自覚に立ち、平和的で文化的な社会及び国家の成員として必要な道徳性の育成を図る。



＜2の視点は社会的存在としての人間の在り方や生き方を考える上で基本となる＞

○ 道徳教育は、人間としてよりよく生きていく上で必要なさまざまなかかわりを主体的にもち、自ら考え、判断し、自律的に道徳的実践のできる人間の育成を目指している。したがって、道徳の基本は、よりよく生きる自己の確立にあり、それは、よりよく生きる他者の存在を必要とする。生きること自体、他の人の援助が不可欠であり、よりよく生きることは、他の人と豊かにかかわることによって実現していく。

○ 人間は、一人一人がかけがえのない人格もっている。自分の人格と同様に、他の人の人格を尊重し、相互に豊かにかかわりをもつことによって望ましい集団や社会が形成される。

② 他の視点との関連

○ 1, 3, 4の各視点は、いずれも2の視点と相互に深い関連をもっている。子どもたちが自己理解を深め人間としての望ましい自己の確立を図るためには、他の人とのかかわりにおける他者理解や望ましい人間関係が必要になる。子どもの自己理解は、他者理解と密接に関係しており、人間関係そのものを通して自己が確立されてくる。

○ 自然や崇高なものとのかかわりを通して人間としての在り方の自覚を深めるためには、他の人とのかかわりにおいて、人間と自然や崇高なものとの関連を理解し、人間の尊厳さを自覚することが根底になければならない。

○ 集団や社会は様々な人々とのかかわりを通して成り立つものである。集団や社会とのかかわりを豊かにもつことは、同時に人間関係を深めていくことになる。集団や社会における人間としての生き方は、望ましい人間関係の育成とかかわってとらえることが大切である。

(2) 2の視点の指導の観点

① 道徳の時間での指導

道徳の時間は、各教育活動で行われる道徳教育を、全体にわたって調和的に補充、深化、統合し、道徳的実践力を育成する時間である。したがって、2の視点の指導においても、各教育活動でどのような指導がなされているのかを把握し、道徳の時間において発展的に指導していくことが大切である。

○ 2の視点の指導

- ・ 自己を他の人とのかかわりの中でとらえ、望ましい人間関係の育成を図るようになることを念頭において指導する。
- ・ 特に4の視点「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の指導との関連に留意する。

- 年間指導計画の作成
 - ・ 道徳の内容が4つの視点から分類整理して示されている趣旨を理解し、内容相互の関連を考慮した指導や6年間を見通した発展的な指導が行えるようにする。
 - ・ 特に2の視点は、集団での学習や活動を行う上で基盤となるものであり、学習や活動の成果そのものに影響を与える。学校や学級の実態に応じて内容項目を適切に位置付けられるように配慮する。
- 1つの内容項目にいくつかの道徳的価値が含まれている場合
 - ・ 分割して主題を構成することもできるが、その内容項目が強調している基本的な価値を十分に踏まえるとともに、一つのまとまりとして表されている意味を理解し、1年間を通して内容項目の全体が関連的、発展的に指導できるように工夫する。
- 各時間の主題の構成
 - ・ 自分が他の人とのかかわりの中で存在し生かされていることの意味を深め、望ましい人間関係を創り出すとする意欲や態度を育てることに留意してねらいを設定し、資料を選定する。
- 指導過程
 - ・ 資料を媒介として人間関係を豊かにするためには何が必要なのかについて深く感じ考えることができるように工夫し、それによってよりよい人間関係を築いていこうとする意欲や態度を育てられるようにしていく。
 - ・ 人間関係において見られる一人一人のよさを把握し、それに気付かせたり、子どもたちの様々な人々との温かい交流に関する事例を紹介したりするなどの工夫を行う。

② 道徳の時間以外での指導

(i) 各教科での指導

- ・ 学習指導要領の総則には、「教師と児童及び児童相互の人間関係を深めるとともに、児童が自己の生き方についての考えを深め、家庭や地域社会との連携を図りながら、集団宿泊的活動やボランティア活動、自然体験活動などの豊かな体験を通して児童の内面に根ざした道徳性の育成を図られるように配慮しなければならない」ことが記されている。
- ・ 学校の教育活動全体を通して、教師と子ども及び子ども相互の人間関係を深めるように努める。
- ・ 学習活動そのものが人間関係を前提としていることに留意し、それぞれの学習活動の特質に応じて望ましい人間関係が育まれるように取り組む。
- ・ 国語科では、国語による表現力と理解力の育成を図られるが、会話の基本や話し手の見方、考え方、感じ方について理解する指導などが含まれている。
- ・ 生活科では、身近な人々との接し方なども指導内容に含まれている。
- ・ 各教科における人間関係を豊かにする指導と、2の視点に関する道徳の時間の指導との関連を図りながら、指導を充実させることが大切である。

(ii) 特別活動及びその他の教育活動での指導

- ・ 特別活動は、望ましい集団活動を通して、なすことによって学ぶ教育活動としての特質をもっており、教師と子ども及び子ども相互の人間関係を基盤とする活動である。したがって、特別活動そのものが、望ましい人間関係の育成と直接かかわっている。
 (例) 学級活動・・・活動内容の「(2) 日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること」の中には、望ましい人間関係の形成が掲げられており、そのための具体的な活動を計画するとともに、日常生活における人間関係上の問題について取り上げその解決に向けて取り組む。
- ・ 特別活動における豊かな体験活動や人間関係に関する指導と、道徳の時間における2の視点の指導との関連を図ることが大切である。

(iii) 日常生活での指導

- ・ 日常生活での指導は、各教科や特別活動等における指導以上に、個々の子どもの実情に応じて、直接的、具体的に望ましい行動を促す指導ができることに特徴がある。
 (例) 日常生活での指導
 環境の整備などを通しておのずと気付かせるように工夫するとともに、望ましい人間関係を築くことを自己の課題として自覚できるように具体的に即して指導していく。

學習指導案・資料

第1学年 道徳学習指導案

主題名 きもちのよいあいさつ

2－(1) 礼儀

資料名 しんちゃんのあいさつ

出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい

主人公が、次の日あいさつをした理由を、＜母親の言葉を思い出して＞＜しなかったときの相手の気持ち＞＜あいさつをしたときの気持ち＞等に着目して捉えることで、あいさつをする
と自分も相手も気持ちがよくなることに気付かせ、気持ちよいあいさつをすることでよりよい
人間関係を築こうとする態度をはぐくむ。

主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

人は、まわりの人々と気持ちよいかかわりを持ちながら生活をしたいという思いをもっている。その
思いの表れの一つがあいさつである。気持ちのよいあいさつは、相手の心も自分の心も明るくするこ
とができる。子どもたちがよりよい人間関係を築いていけるよう、気持ちのよいあいさつの大切さに気付
かせ、実践できるよう指導していくことが必要である。

(2) 児童の実態

この時期の児童は、大人からのあいさつに対して素直に反応し、あいさつを返すことが多い。しかし、
自分からあいさつができなかったり、恥ずかしがってはっきりとした声が出せなかったりするなど個人
差も大きい。また、あいさつを返さなかった時の相手の気持ちにまでは思いがいたらず、相手を不快な
気持ちにさせてしまうこともある。そこで、気持ちのよいあいさつを交わすことにより、自分も相手も
気持ちがよくなることに気付かせ、進んであいさつをしていこうとする気持ちをもたせることが大切で
ある。

(3) 資料について

本資料は、これまで気持ちのよいあいさつができていなかった主人公が、母親の言葉をきっかけにあ
いさつのお大切さに気づき、次の日は、自分からあいさつを試みようとする内容である。あいさつを返
さないことが相手の気持ちも暗くしてしまうことや、気持ちのよいあいさつは、自分も相手も気
持ちよくすることについて理解させることのできる資料である。

指導について

資料を読み聞かせた後、主人公があいさつを苦手としているわけを、子どもたちの日頃のあいさつ
の実態を想起させながら考えさせる。その上で、今まであいさつをしなかった主人公が、あいさつをした
場面に目を向けさせ、その行動の変容の動機になったものを、＜母親の言葉を思い出して＞＜しなかつ
たときの相手の気持ち＞＜あいさつをしたときの気持ち＞などの観点から捉えさせ、板書に位置付ける。

児童は、母親との前夜の話に着目し、あいさつをしなかったときの相手の気持ちを想像し、相手を不
快にさせたことへの反省について多く発表するであろうと考えられる。そこで、「しんちゃんが、明日
はもっと大きな声であいさつをしたいと思ったのは、どんな気持ちからでしょう。」という問いを投げ
かけ、あいさつをすることで、自分も相手も気持ちがよくなることに気付いた主人公の気持ちを理解さ
せたい。

終末では友だち同士や教師とあいさつの練習を楽しくし、実践化に結び付けたい。

学習指導過程

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入 10分	1 資料を読み、あいさつが苦手なしんちゃんの気持ちを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を読み聞かせながら、あらすじを理解させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">しんちゃんは、どうしてあいさつが苦手なのか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・うまく言葉が出てこないから ・はずかしいから ・あいさつのことを気にしていないから ● 自分たちのあいさつを振り返らせながら、あいさつが苦手なしんちゃんの気持ちを考えさせる。 	◆ あいさつが苦手なしんちゃんの気持ちを自分と比べながら考えているか。
展開 25分	2 しんちゃんがあいさつをした理由を考える。 3 あいさつをした後のしんちゃんの気持ちを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今まであいさつが苦手だったしんちゃんの様子をおさえた後、課題を提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">しんちゃんが、次の日、おばさんやおじさんにあいさつをしたのはなぜか。</div> ○ しんちゃんが、おばさんやおじさんにあいさつをした理由を発表させ、考えを整理し、板書に位置付ける。 <ul style="list-style-type: none"> <お母さんの言葉> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんにいつも言われているから ・お母さんにあとで注意されるから <しなかったときのおばさんやおじさんの気持ち> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをしなかったときの、おばさんやおじさんの顔を思い浮かべたから ・あいさつをしなかったら、相手がいやな気持ちになるから <あいさつをしたときの気持ち> <ul style="list-style-type: none"> ・おじさんやおばさんの気持ちがよくなるから ・自分も気持ちがよくなるから ○ 母の言葉にはっとするしんちゃんの様子から、あいさつをしなかったときの相手の気持ちについての発言が多く出されるであろう。あいさつをしたときの、自分や相手の気持ちに着目させるために、あいさつをした後のしんちゃんの気持ちについても考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">しんちゃんが、明日はもっと大きな声であいさつをしたと思ったのは、どんな気持ちからか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつするとおじさんやおばさんがうれしそう ・あいさつすると自分も相手も心が温かくなる 	◆ しんちゃんがあいさつをした理由を、おじさんやおばさんの気持ちを想像しながら考えているか。 ◆ あいさつをすることで、自分も相手も気持ちがよくなることに気付いた。
終末 10分	4 あいさつの練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 気持ちのよいあいさつとはどんなものか具体的に考えさせながらあいさつの練習をさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・相手に届く声の大きさで ・名前を呼んで ・相手の顔を見ながら ・はっきりと など ● あいさつをしたときの感想を出し合い、心地よさを感じさせながら進める。 	◆ 気持ちのよいあいさつの心地よさを感じながら練習できたか。

しんちゃんのおいさつ

「しんいちも、もうそろそろ あいさつを ちゃんと しようね。」
しんちゃんは 小学校一年生。 おかあさんから、いつも こう いわれています。
「わかつてるよ……。」

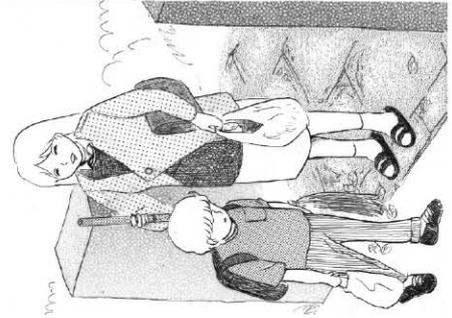
げんきいっぱい の しんちゃんですが、あいさつは にがてです。
うまく ことばが できません。

「しんちゃん、おはよう。はやいのね。」
いえを だたところ で となりの おばさんが、こえを かけて
くれました。

しんちゃんは ペこりと あたまを さげただけで とおり
すぎました。

校もの ちかくで、こうつうしどういんさんが 車を とめ
て しんちゃんを とおして くれました。

でもしんちゃんは、おじさんの よこを だまつて とおりす
ぎました。



その日 の よる、いつしよに おふろに 入った おかあさんが いいました。
「きょうは、あいさつが ちゃんと できたの？」

しんちゃんは、けさの ことを おかあさんに はなしました。おかあさんは さいごまで だまつて は
なしを きいたあと、いいました。

「そうだったのね。だけど、おばさんや おじさんは そのとき どんなかおを していたのかしら。」

しんちゃんは、はつと しました。(かおも みないで とおりすぎたけれど、一人ともどんな かおを
していたのかな……)

つぎの日の ことです。きのうの おばさんが いえのまえを そうじしているのが 見えました。
しんちゃんは 小さな こえで

「おはようございます。」

と じふんから あいさつを しました。おばさんは すこし おどろいた ようでしたが、にっこり
わらって

「おはよう、しんちゃん、きをつけて いてらっしゃい。」
と いいました。

こうつうしどういんさんに であつたときは、

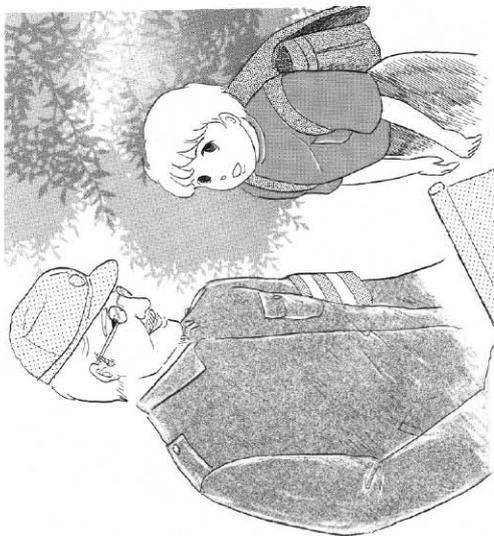
「おはようございます。」

と おじさんの かおを 見ながら あいさつ できました。

おじさんも えがおで、

「おはよう、きょうも 一日 しつかりな。」

と こえを かけて くれました。



しんちゃんは、なんだか こころが あたたかくなつてく
るのが わかりました。

そして あしたは、もつと大きな こえで あいさつを
したいと おもいました。

板書計画

・あいてがうれしそう

・じぶんもあいてもところがあたたかくなるから

きもちのよいあいさつ

あいてにとどくこえで なまえをよんで

あいてのかおをみて えがおで

あかるく

しんちゃんが、あしたはもつと大きなこえであいさつを
したいとおもったのは、どんなきもちからか。

〈おかあさんのことば〉

・いつもいわれているから

・あとでちゅういされるから

〈あいてのきもち〉

・おばさんやおじさんのかおを
おもいうかべたから

・おばさんやおじさんがいやな
きもちになるから

〈あいさつをしたときのきもち〉

・おばさんやおじさんがきもちよくなるから

・じぶんがきもちよくなるから

しんちゃんが、つぎの日、おばさんやおじさんに
あいさつをしたのはなぜか。

しんちゃんのあいさつ

あいさつがにがてなわけ

・うまくことばがでてこないから

・はずかしい

・あまりきにしていない



道徳の時間の指導内容		2-(1) 「礼儀」との関連		
月	主題名	資料名	内容項目	出典
4	あいさつはこころのリボン	あいさつでしあわせに	2-(1) 礼儀	光文
6	きもちのよいあいさつ	しんちゃんのあいさつ	2-(1) 礼儀	市道徳
10	あいてのきもち	おとしよりといっしょに	2-(2) 思いやり・親切	光文
11	きもちのよいあいさつ	だいじなわすれもの	2-(1) 礼儀	光文
1	ひとがよろこぶことはうれしいこと	はしのうえのおおかみ	2-(2) 思いやり・親切	光文
「小学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連		各教科等との関連		
P. 12~15	たびにでて	○あかるいこえで ○なんていったらいいのかな ○おみせやさんごっこをしよう ○元気に返事、元気にあいさつ ○ありがとう6年生	国語 国語 国語 特活等 特活等	

「私たちの道徳」との関連	
P. 54~63	気持ちのよいふるまいを

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統		2-(1) 「礼儀」
小学校第1学年及び第2学年	2-(1)	気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。
小学校第3学年及び第4学年	2-(1)	礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接する。
小学校第5学年及び第6学年	2-(1)	時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接する。
中学校	2-(1)	礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。

第2学年 道徳学習指導案

主題名 あたたかいところで

2 - (2) 思いやり・親切

資料名 すわってください

出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい

席を譲ろうとした時の主人公の気持ちを〈ほめられたいから〉〈気になるから〉〈おばあさんの大変さがわかったから〉等に注目して捉えることで、若い人や高齢者など身近にいる人に親切にしようとする意欲をはぐくむ。

主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

よい人間関係を築くには、相手に対する思いやりが不可欠である。具体的には、温かく接することや、相手の立場に立った励ましや援助などを含む親切な行為が大切である。若い人や高齢者など身近にいる人に目を向け、相手の状況を察し、自分のこととして受けとめ、自分ができることを進んで行うことの大切さを指導していくことが必要である。

(2) 児童の実態

この時期の児童は、親切にしたいという気持ちを友だちや家族には素直に表現できる。しかし、困っている人がいても、対処の仕方がわからなかったり、自分のやりたいことを優先してしまったりして、見過ごしてしまうこともある。特に、高齢者への実践は、気付いていてもなかなかできないことが多い。そこで、若い人や高齢者など身近にいる人に目を向けさせ、温かい心で接し親切にすることの大切さに気付かせたい。

(3) 資料について

本資料は、混み合ったバスの中でやっと席に座れた主人公が、汗だくになって乗り込んできたおばあさんに思い切って席を譲ってあげるといった内容である。主人公は、(代わってあげようか、でも、他の人も知らん顔しているし・・・)と迷うが、おばあさんの困りを察し、「座ってください。」と声をかける。

相手の状況を察し、迷いながらも席を譲った主人公の気持ちを考えることにより、誰に対しても温かい心で接し、親切にすることの大切さに気付かせることができる資料である。

指導について

資料を教師が読み聞かせた後、あらすじをつかませる。バスや電車で混み合った経験が少ないと思われるので、教師の経験などを話すことにより、席に座りたい主人公の気持ちを感じ取らせる。

主人公がやっと席に座れたところに、両手に荷物を持ったおばあさんがバスに乗ってきて、席を譲ろうかどうしようかと迷う状況に目を向けさせる。その後、思いきって「座ってください。」と席を譲ったのはなぜかを考えさせることで、〈ほめられたいから〉〈気になるから〉〈おばあさんの大変さがわかったから〉等の観点から考えを出し合わせる。

席を譲ったわけを出し合わせる中で、おばあさんの大変さに気付いて席を譲った主人公の親切な気持ちを理解させる。そして、その後の主人公の気持ちを考えさせることにより、親切な行動をとった後の心地よさに気付かせる。その際、おばあさんの気持ち、おかあさんの気持ちにも着目させ考えさせる。

終末では、周りの人に優しくしたときの気持ちを出し合わせ、相手の立場に立ち思いやりをもって接していこうとする意欲をもたせる。

学習指導過程

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入 7分	1 資料を読み、あらすじを理解し、席に座れたゆみ子の気持ちを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を読み聞かせながら、あらすじを理解させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">やっと席に座れたゆみ子は、どんな気持ちでいるか。</div> ● やっと席に座れた主人公の喜びの気持ちを感じ取らせる。 	◆ 席に座れた時のゆみ子の気持ちを理解できたか。
展開 28分	2 ゆみ子が、席を譲ったわけをおばあさんの様子と結び付けて考える。 3 席を譲った後のゆみ子の気持ちを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ やっと座れた席を譲ったことに目を向けさせ、課題を位置付ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">ゆみ子が、おばあさんに席を譲ったのはなぜか。</div> ○ ワークシートに席を譲ったわけを書かせた後、発表させる。 ● 子どもの発言を整理し、板書する。 <ul style="list-style-type: none"> <ほめられたいから> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんが見ているから ・お母さんにほめられたいから <気になるから> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が座っているのは気持ちが悪いから ・おばあさんのことが気になるから <おばあさんの大変さがわかったから> <ul style="list-style-type: none"> ・立っているのはかわいそうだから ・荷物が重くてきつそうだから ○ おばあさんの大変さに気付いて、席を譲った主人公の気持ちは理解できるであろうから、席を譲った後の気持ちも考えさせることにより、親切な行動をとった後の心地よさに気付かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">席を譲ったあとのゆみ子は、どんな気持ちになっただろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・とってもいい気持ちになった ・「ありがとう」と言われてうれしかった ● 主人公が席を譲った後の、おばあさんやおかあさんの気持ちにも着目させて考えさせる。 	◆ おばあさんの大変さに気付いて行動したゆみ子の気持ちを理解できたか。 ◆ 親切な行動をとったあとの心地よさを理解できたか。
終末 10分	4 周りの人に親切な行動をとった経験を出し合い、自分の生活を振り返る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">周りの人にやさしくしたことを思い出しましょう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ お年寄りや年下の子など周りの人に優しくしたときの気持ちを出し合わせ、自分も相手の立場に立ち思いやりをもって接していこうとする意欲をもたせる。 ● お年寄りとの交流会や一年生との活動の経験を思い出しながら自分が思いやりをもって行動すれば、相手が喜ぶことも感じ取らせるようにする。 	◆ 自分や友だちの経験から、思いやりをもって生活しようと考えているか。

すわってください

学校からかえって、わたしは、おかあさんと いっしょに おじいちゃんのお見まいに 行くことになりました。

あいにく、その日は、バスが こみあつていて、あいた せきは ありません。

「ゆみ子ちゃん、せきがあくまで、立ってしようね。」

おかあさんに そういわれ、わたしは そのまま 立っていました。

(やっぱり きついな。早く せきが あかないかな。)

そう思っていると、つぎの ていりゆうじよまで おりる人がいて、せきが、ちょうど一つ あきました。

おかあさんに (すわるね。) と、目であいずをして、さつそく せきにすわりました。

(ああ、よかった。)

ほっとして、そとの けしきを見ながら、おじいちゃんにあつたら、どんな ことをはなそうかと 考えていました。

その時、つぎのていりゆうじよにつき、一人の おばあさんが のりこんできました。大きなにもつを りよう手にもつて とてもおもそうです。

(だれか せきを ゆずつてあげないかな。)

そう思つて、わたしも、そのまま すわっていました。

でも、どうしても気になって おばあさんのほうに 目がいつてしまいます。おばあさんのひたいからは、 つぎつぎに あせが ふきだしています。

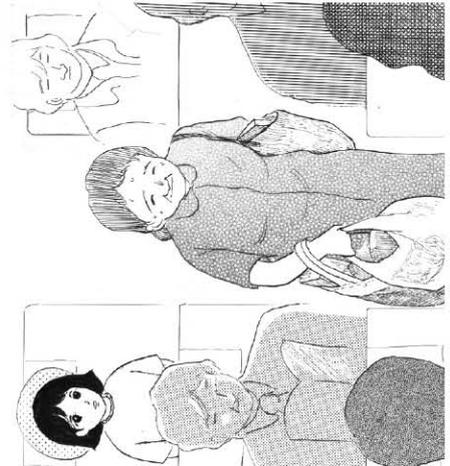
「おばあさん、すわってください。」

わたしは、思いきつて そういふと、立ち上がりました。

おばあさんは、ちよつと、おどろいたようでしたが、すぐに にっこりとわらつて、

「まあ、ありがとう。ほんとうに たすかりました。」

といつて、わたしの せきに すわりました。



わたしは、ふと 前のほうを見ると おかあさんの顔が 見えました。

おかあさんは、わたしの かおを見て にっこりして うなずきました。

板書計画

すわってください

こみあったバス
やつと一つあいたせき
すわれてよかつたな

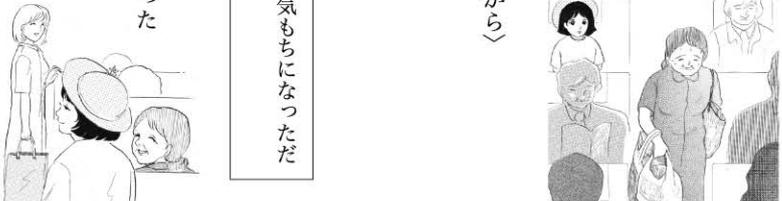
ゆみ子が、おばあさんにせきをゆずったのはなぜか。

〈ほめられたいから〉
・おかあさんが見ているから
・おかあさんにほめられたいから
〈気になるから〉
・自分がすわっているのは、気持ちがわるいから
・おばあさんのことが気になるから
〈おばあさんのたいへんさがわかったから〉
・立っているのは、かわいそうだから
・もつがおもくてぎつそうだから

せきをゆずったあとのゆみ子は、どんな気持ちになったろうか。

・とてもいい気持ちになった
・「ありがとう」と言われてうれしかった
やさしくしたことがあるかな。

・おばあちゃんのもつをもつてあげた
・一年生に学校をあんないしてあげた



道徳の時間の指導内容		2－(2) 「思いやり・親切」との関連		
月	主題名	資料名	内容項目	出典
6	おもいやりのところ	ぐみの木と小鳥	2－(2) 思いやり・親切	光文
9	あたたかいところで	すわってください	2－(2) 思いやり・親切	市道徳
10	あたたかいところ	雨の日のみちあんない	2－(2) 思いやり・親切	光文
11	お世話になっている人	はたけの先生	2－(4) 感謝	光文
12	おさない人におもいやりを	小さなゆきうさぎ	2－(2) 思いやり・親切	光文
「小学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連 ・掲載例なし			各教科等との関連	
			○1年生に学校のことを教えてあげよう ○うれしいことば ○おいしい給食をありがとう ○ありがとう6年生	特活等 国語 特活等 特活等

「私たちの道徳」との関連	
P. 66～73	あたたかい心で親切に

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統		2－(2) 「思いやり・親切」
小学校第1学年及び第2学年	2－(2) 幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。	
小学校第3学年及び第4学年	2－(2) 相手のことを思いやり、進んで親切にする。	
小学校第5学年及び第6学年	2－(2) だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。	
中学校	2－(2) 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。	

第3学年 道徳学習指導案

主題名 思いやりのリレー

2 - (2) 思いやり・親切

資料名 ぼくも、おにいちゃん

出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい 主人公が男の子を保健室に連れていこうとした時の心の動きを＜男の子に対する同情＞＜自分しかいないという責任感＞＜自分の体験に基づく親切・思いやり＞等に注目してとらえることで、相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする態度を養う。

主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

思いやりは、相手の気持ちを理解することがもとなる。困ったり悲しんだりしている相手の気持ちを理解すればすれほど、思いやりの心が強くなる。さらに親切とは、相手を思いやった上で、相手のために適切な行動をとることである。自分が困っている時に親切にしてもらってうれしいのは、相手の自分に対する思いやりの心を感じそれに接するからである。また、今度は自分が他の相手を思いやり親切にすることで、自分自身も清々しい気持ちになる。このように「思いやり・親切」によって、人と人がつながりその行為が次々に広がっていくことは、望ましい姿であろう。

(2) 児童の実態

この時期の児童は、困っている相手を見ると親切にしようという思いをもっており、よく手助けをする。しかし、そこに自分の欲しいものやしたいことが関わってくると葛藤が生じたり、自己中心的になったりして、相手の立場や気持ちを思いやるのがむずかしくなってしまう。

そこで、自分が親切にされてうれしかった思いや相手に親切にして気持ちがよかった思いに触れさせ、どんなときでも思いやりの心をもつ大切さを実感させることが必要である。

(3) 資料について

本資料は、ドッジボールの試合に夢中になっていた主人公が、運動場のすみで転んでしまった1年生を見かけ、迷いながらもドッジボールをやめて男の子を保健室に連れて行くという内容である。男の子に親切にしたいという思いとドッジボールを続けたいという思いの間で、葛藤する主人公の姿に子どもたちも共感できるであろう。そこで、自分が1年生のときに助けてもらってうれしかった体験を思い出し、保健室に連れて行こうと決心する主人公の気持ちに視点を当てて、思いやりのある行動をとる気持ちよさを考えさせることができる資料である。

指導について

導入では「人からやさしくされた経験」と「その時の気持ち」を子どもに出させたり、教師の経験を話したりすることにより、やさしくされた時の気持ちを捉えさせるとともに、そのような経験の少ない子どもたちにその様子やうれしさを感じ取らせる。

次に資料の内容をおさえる中で、主人公がけがをしている1年生の男の子を保健室に連れて行かなければという思いと、ドッジボールを続けたいという思いの間で迷い悩む気持ちに共感させる。そこで、「ひろくんが男の子を保健室に連れて行こうと決めたのは、どんな気持ちからか。」と問い、＜男の子に対する同情＞＜自分しかいないという責任感＞＜自分の体験に基づく親切・思いやり＞等の視点に分けて板書し、意見の違いを見やすく整理する。出された意見は否定せず受け止めたうえで、「ひろくんは1年生を保健室につれていったあと、どんな気持ちだったかな。」と問い返し、親切にした後のくすぐったい気持ちに気付かせる。そして、主人公の親切にされてうれしかった気持ちを感じ取らせ、自分もあの時のお兄ちゃんみたいに助けてあげたいという親切・思いやりの気持ちが大きいことに気付かせていきたい。

終末において、今度は自分がしてあげたい親切な行為を考えることにより、相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする態度の育成を図る。

学習指導過程

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入 10分	1 人からやさしくされた体験とその時のうれしかった気持ちを話す。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の体験を話したり、友だちの体験を聞いたりすることにより、親切にされた時の気持ちを感じ取らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">人からやさしくされてうれしかったことを出し合おう。</div> ● やさしくされた経験とそのときの気持ちを出し合わせる。 ● 自由に発言させる中でやさしくしてくれた相手がおうちの人や大人だけでなく、友だちや学年の上の人たちなど身近にいることもおさえる。 	◆ やさしくされた体験とその時の気持ちを振り返って話すことができたか。
展開 25分	2 男の子の肩を抱きかかえて立ち上がったときのひろくんの気持ちを考える。 3 男の子をつれていった後のひろくんの気持ちを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を範読した後、主人公の迷っている気持ちをおさえる。 ● けがをして泣いている男の子を保健室に連れて行かなければという思いと、ドッジボールを続けたいという思いで迷い悩む気持ちに共感できたところで、課題を位置付ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">ひろくんは、どんな気持ちで男の子をほけんしつに連れて行こうと決めたのか。</div> ○ 主人公が、迷った末に男の子を保健室に連れて行こうと決心したときの気持ちを考えさせる。 ● <男の子に対する同情><自分しかないという責任感><自分も親切にされてうれしかったからしてあげようという親切・思いやり>など考えの違いが明確になるよう、板書に位置付ける。 <男の子がかわいそう> <ul style="list-style-type: none"> ・痛くて泣いている ・けがをして血が出ている ・一年生で自分よりおさない <自分が助けないと> <ul style="list-style-type: none"> ・見ていたのは、自分だけ ・だれかをよびに行こうか ・男の子を助けられるのは、自分しかない <自分も親切にされてうれしかったから他の人にもしてあげたい> <ul style="list-style-type: none"> ・自分も一年生のとき助けてもらってうれしかった ・自分もおにいちゃんみたいに助けてあげたい ● 男の子に対する同情や自分が助けないといけないという責任感には、共感しやすいと考えられることから、<自分も親切にされてうれしかったから自分もおにいちゃんみたいに助けてあげたい>という意見に着目させた後、次の問いを位置付け、親切・思いやりの視点からも考えを深めさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">ひろくんは、ほけんしつに男の子を連れていったあと、どんな気持ちだったのか。</div> ○ 親切をした後のくすぐったいような気持ちに気付かせ、主人公が一年生の時に体験したできごとと重ね合わせて考えさせることにより、お兄ちゃんから主人公自身へ思いやりのリレーが行われていることに気付かせる。 	◆ 同情や責任感だけでなく、自分もやさしくされたので、助けてあげたいという親切・思いやりの視点でも考えられたか。 ◆ ひろくんのくすぐったい気持ちに共感し、思いやりのリレーの大切さを感じることができたか。
終末 10分	4 人にしてもらった親切をもとに自分にできる「思いやりのリレー」を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 導入段階における学習活動において出し合ったやさしくされた体験を元に、思いやりのリレーができそうなこと、してみたいことを考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">これから自分がしてあげたいと思う親切は、どんなことか。</div> ● 親切にされた人が喜ぶことで、した人も気持ちがよくなることをうれしさとくすぐったい気持ちで真っ赤になった主人公の表情から感じ取らせ、思いやりのリレーを広めようとする気持ちを持たせる。 	◆ 自分がしてあげたいと思う親切を考えることができたか。

ぼくも、おにいちゃん

ひろくんは、ひる休みのほしまりのチャイムがなると、大いそぎでそとへ出ました。きょうも、となりのクラスとドッジボールのしあいをするのです。きのうは、おしくも一でんそでまけてしまったので、きょうはぜつたいかつぞと、みんないきこんでいます。

「ひろくん、がんばつてくれよ。」

「うちのクラスでいちばんつよいのは、ひろくんだもね。」

みんなの言うとおりに、ひろくんは、つよいボールをとつたり、あいてにあてたり、大かつやくです。

ところが、ついにあてられてしまいました。(早くあてかえして、中に入らなきや。)ひろくんは、いそいで外やに出て、ころがつていったボールをうんどう場のはしつこまで、おいかけて行きました。

そのとき、おにごつこでもしていたのか、走つてきた

一年生の男の子が、目の前でころんでしまいました。

「うわーん。」

男の子は、足をおさえて、なきだしました。

ひろくんは、

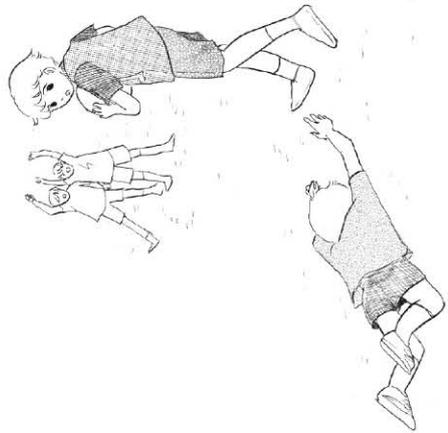
「だいじようぶ？」

と声をかけましたが、男の子のひきはすりむけて、血がでています。

ひろくんは、(すぐにほけんしつにつれて行かなきや。でも、ドッジボールをつづけたいな。せつかくぎやくてんできそうなところなのに。)と、まよいました。

「ひろくん、どうしたの。はやくはやく。」

とみんながよんでいます。



そのとき、ふと、ひろくんは自分が一年生のときにも、同じようなことがあつたのを、思い出しました。

休み時間ブランコについで、おつこちてしまったひろくんと、おりにかかつたおにいちゃんが、たすけてくれたのです。手と足をすりむいて、大なきしていたひろくんに

「だいじようぶ、だいじようぶ。ほけんの先生にみてもらおう。」

とやさしく声をかけて、かたをだきながら、ほけんしつにつれていつてくれたおにいちゃん。

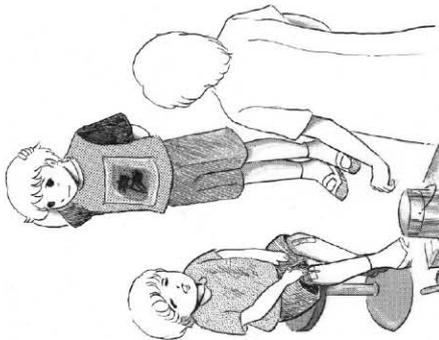
(あのときは、ほんとうにうれしかったなあ。おかげで、いたいもなおつた気がした……。)

ひろくんは、クラスみんなの方にボールをパスしました。

そして男の子のかたをだきかかえながら、

「だいじようぶ、だいじようぶ。ほけんしつの先生にみてもらおう。」

と、やさしく声をかけて、立ち上がりました。



ほけんしつの先生は、男の子のけがをすばやくちりようしながら、

「あらあら、ずいぶんすりむいちやつたわねえ。でも、もうだいじようぶよ。」

と、やさしくなぐさめてくれました。

そして、ひろくんの方をむいて、

「やさしいおにいちゃんがつれてきてくれて、よかつたわね。」

と、にっこりわらいかけました。ひろくんは、かおがまつかになりました。

男の子は、ようやくなきやむと、小さな声で

「おにいちゃん、ありがとう。」

と言いました。ひろくんは、自分がとてもおにいちゃんになったようで、うれしいようなくすぐつたいような気もちになりました。

板書計画

・一年生に 教室がわからないとき教えてあげたい
・低学年の人に けがをしていたらほけんしつにつれていってあげたい

今度、自分がしてあげたいと思うしんせつはどんなことか。



・ほんとうにうれしかった
・すつきりした気持ちだった
・自分を助けてくれたお兄ちゃんの気持ちがわかった

おにいちゃん↓ぼく↓一年生へ 思いやりのリレー。

ひろくんは、ほけんしつに一年生を連れて行つたあと、どんな気持ちだったかな

（かわいそうだから）（自分しかないから）（自分も親切にされてうれしかったから）

- ・いたくて泣いている
- ・見ていたのは自分だけ
- ・けがをして血が出て
- ・男の子を助けられ
- ・一年生で自分よりお
- ・一年生で自分よりお
- ・ささい

（自分も親切にされてうれしかったから）

- ・自分も一年生のとき助けてもらったから
- ・男の子を助けられ
- ・自分もおにいちゃんみたいに助けてあげたい

ひろくんが、男の子をほけんしつに連れて行こうと決めたのは、どんな気持ちからか。

（どんなこと）

- ・おうちの人
- ・クラスの友だち
- ・高学年の人

ねつが出たときかんびようしてくれたふでぼくがおちたときひろつてくれた教室がわからないとき教えてくれた

人からやさしくされてうれしかったこと

ぼくも、おにいちゃん

道徳の時間の指導内容		2－(2) 「親切・思いやり」との関連		
月	主題名	資料名	内容項目	出典
5	親切とおせっかい	わたしのしたこと	2－(2) 親切・思いやり	光文
9	思いやりのリレー	ぼくも、おにいちゃん	2－(2) 親切・思いやり	市道徳
3	人にやさしく	ありがとうな、ありがとうな	2－(2) 親切・思いやり	光文
3	友だちのすばらしさ	赤い灯 ゆれる	2－(3) 信頼・友情	光文
「小学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連		各教科等との関連		
・掲載例なし		<ul style="list-style-type: none"> ○よい聞き手になろう ○きちんとつたえるために ○学年の歌 ○外で遊ぼう 		国語 国語 音楽 特活等

「私たちの道徳」との関連	
P. 62～69	相手を思いやり親切に

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統		2－(2) 「親切・思いやり」
小学校第1学年及び第2学年	2－(2) 幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。	
小学校第3学年及び第4学年	2－(2) 相手のことを思いやり、進んで親切にする。	
小学校第5学年及び第6学年	2－(2) だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。	
中学校	2－(2) 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。	

第4学年 道徳学習指導案

主題名 友情を深めよう

2－(3) 友情・信頼

資料名 本当の友だち

出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい 主人公がお母さんの話を聞いて「はっ」としたわけを＜自分の行動に対する反省から＞＜友だちの本当の気持ちへの気付きから＞＜言いにくいことも言える本当の友だちについての気付きから＞などに着目して捉えることで、相手の立場に立って考え、よりよい友人関係を築こうとする心情を育てる。

主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

友情とは、相手の立場に立って考える気持ち、相手のことを大切に思う気持ちであり、その気持ちから認め合い、励まし合い、助け合う行動が生まれる。また、友人関係をよりよく深めるためには、互いに忠告したり助言したりすることも必要となってくる。忠告や助言は、相手の向上を願っての責任をとまなう発言であり、信頼関係の上に成り立つものである。

(2) 児童の実態

この時期の児童は、単に仲良く一緒に遊ぶだけの友だちから、気が合う友だち同士の集団へとかわっていく傾向にある。その集団の中で小さなトラブルを起こすことも減り、比較的仲良く生活することもできるようになる。しかし、互いを向上させたり、高めあったりするような姿には至りにくい。そこで、よりよい人間関係を築くには、たとえ相手が嫌な思いをすることがあっても、正しいことを忠告したり助言をしたりすることが信頼関係を強くし、友情を深めるのに大切であるということに気付かせたい。

(3) 資料について

本資料は、授業中のおしゃべりを友だちから注意されたことに対して、素直に受け入れられない気持ちになっていた主人公が、母親の体験談を聞いて、自分のためを思って注意してくれたということに気付き、本当の友情について考えていくという話である。母親の話から「はっ」とする場面での主人公の気付きと、最後の「ありがとう」に込められた思いに視点を当てて、友情を深めるには、その人のことを考えて言いにくいことでも言う忠告や助言も大切であることに気付かせることのできる資料である。

指導について

導入においては、資料を読んだ後、主人公がさゆりに文句をいわれたような気がしたわけを問い、そのわけや主人公の気持ちに十分共感させる活動を行う。

その後、主人公が母親の話からはっとしたわけを考えさせ、＜自分の行動に対する反省から＞＜友だちのやさしさへの気付きから＞＜言いにくいことも言える本当の友だちについての気付きから＞などの視点に分けて板書し、意見の違いを見やすく整理する。出された意見は否定せずに受け止めたうえで、母親の友情や忠告してくれた友だちの思いなどが十分出たところで「はっとしたのは自分の行動を反省したからか。」と問いかけ見直しを図らせた後、「さゆりちゃんに『ありがとう』と言おうと決心したのはなぜか。」と問いかけ、主人公の「ありがとう」という言葉から推察される本当の友情に対する感謝の気持ちをとらえさせたい。

終末においては、主人公のありがとうに対するさゆりの気持ちを確認することで、これから自分たちも友情を深めようという気持ちをはぐくむきっかけとしたい。

学習指導過程

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入 10分	1 資料を読んで、わたしがもんくをいわれたような気がしたわけを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を範読し、主人公が友だちからの忠告をもんくとらえていやな気持ちになっていることをおさえた後、問いを位置付ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">わたしがさゆりさんにもんくを言われたような気がしたのはなぜか。</div> ○ 文句を言われたような気がしたわけを考えさせ、主人公の嫌な気持ちやそうなった理由に共感させる。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 5px 0;"> <div style="text-align: center;">《自分の逃げや甘さ》</div> <div style="text-align: center;">《相手が悪い》</div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・少しくらいならいいやと思ったから ・自分の都合の悪いことをはっきり言われたから ・相手の注意を素直に聞き入れられなかったから ・なかよしの友だちに注意されたから ・言い方が悪いから ・悪い事はしていない ・なかよしなのにそんなことを言うから ● 相手が悪いからと考えている意見には、資料に立ち返らせ、決して相手は間違ったことを言っているのではないことを理解させる。 	◆ 自分の体験を振り返って、もんくを言われたような気がしたわけを考えられたか。
展開 25分	2 もんくを言われたと思っていたわたしが、母親の話を聞いて「はっ」としたわけを考える。 3 わたしがさゆりに「ありがとう」と言おうと決心したわけを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ もんくを言われたと思っていやな気持ちがしていたわたしが、お母さんの話をきいて「はっ」としたわけを考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">もんくを言われたと思っていたわたしが、お母さんの話を聞いて「はっ」としたのはなぜか。</div> ● <自分の行動に対する反省から><友だちの本当の気持ちへの気づきから><言いにくいことも言える本当の友だちについての考えから>など、考えの違いが明確になるよう、板書に位置付ける。 <自分の行動を反省して> <ul style="list-style-type: none"> ・走って先に帰って悪かったと思ったから ・おこって悪かったと思ったから <さゆりの本当の気持ちを考えて> (さゆりへの感謝) <ul style="list-style-type: none"> ・さゆりが自分のことを考えて言ってくれたことに気付いたから ・さゆりが言いにくいことを言ってくれたことに気付いたから <本当の友だちについて考えて> (友情の大切さ) <ul style="list-style-type: none"> ・さゆりを信頼することができたから ・本当の友だちになるためには、相手のことを考えて注意することも必要だとわかったから ● お母さんと愛子さんの友情が長く続いていることや、最初の場面でさゆりが悩みながら忠告している様子に目を向けさせ、<本当の友だちについて考えて>という視点からの考えを深めさせるため、「はっとしたのは自分の行動を反省したからか」と問いかけ見直しを図らせた後、次の問いを位置付ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">さゆりさんに「ありがとう」と言おうと決心したのはなぜか。</div> ○ わたしが「ごめんなさい」ではなく「ありがとう」と言おうとしていることに着目し、忠告が友情を深めていることに気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・言いにくいことをわたしのために言ってくれた⇒本当の友情 ● <自分の行動を反省して>の考えにこだわる子どもには、「ごめんなさい」とのちがいを考えさせる。 	◆ わたしが「はっ」としたわけを、これまでのさゆりとの関係と結び付けて考えることができたか。 ◆ 文句を言われたとおこっていたわたしが「ありがとう」と言おうと決心したわけを、本当の友情という視点から考えられたか。
終末 10分	4 「ありがとう」の言葉を聞いたさゆりの気持ちについて考える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">わたしから「ありがとう」の言葉を聞いたさゆりさんは、どう思ったか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の体験と重ね合わせながら、さゆりの気持ちをワークシートに書き込ませる。 ● 主人公の「ありがとう」によって、ふたりの心がより深く結びついたことをおさえ、友だちのことを考えて忠告しあうような友だち関係への発展について考えさせる。 	◆ 自分の体験と重ね合わせて、忠告をした甲斐があつて友情が深まったと喜んでいるだろうさゆりの気持ちを考えることができたか。

本当の友だち

学校の帰り道、いつものようにわたしとさゆりさんは、仲良くおしゃべりをしながら帰っていた。話が、国語の時間に作文を書いていたときのことになったとき、さゆりさんが急にだまった。わたしがふしぎに思っていると、さゆりさんが、決心したように言った。

「ゆう子さん、今日、作文を書いているとき、となりの席の人とおしゃべりしていただきよ。」

なんだかもんくを言われたような気がしてわたしは、いやな気持ちになった。

(せつかく楽しく話をしながら帰っていたのに、どうしてこんなことを言うのだろう。)

「うん、していたよ。それがどうしたの。」

さゆりさんは、言いにくそうに続けた。

「授業中におしゃべりするのはやめた方がいいよ。」

(さゆりさんは、仲良しの友だちなのにわたしにもんくをいうなんて……。)

わたしは、いやな気持ちになって

「いいじゃない。それくらい。さゆりさんには、かんげいがないよ。」

と、言つて走つて先に帰つた。

家に帰つて、気分がはれないままテレビをみていると、電話がなつた。お母さんの親友の愛子さんからだ。電話をかわつたおかあさんは、笑いながらたのしそうに話している。

とちゆうで、おかあさんが、

「あなたは、人の話を最後まで聞かずに判断するところが悪いよね。」

と、言つているのが聞こえた。

(おかあさんも仲良しの友だちにもんくを言つている。)

おかあさんが電話を切つたとき、わたしは、

「どうして、仲良しの友だちにもんくを言うの？」

と、おこつた声で言つた。お母さんは少し心配そうな顔をして、わたしにわけをたずねた。



今日の帰りのできごとを話すと、おかあさんは、にっこりわらつて、

「おかあさんも、同じようなことがあつたよ。おかあさんが授業中におしゃべりをしていたら、愛子さんが注意してくれたの。そのとき、少しいやな気持ちになつたけど、おしゃべりをしてたから大切な話を聞き損ねてこまつたわ。愛子さんが注意をしなかつたら、ずっとこの後も聞き損ねていたかもしれないなあと思つたのよ。それから、ずっと、ふたりは、友だちなのよ。」

と、やさしく話してくれた。

わたしは、はつとして、さゆりさんの顔を思い出した。

その日の夜、わたしは、さゆりさんのことが気になつてねむれなかつた。

そして、明日の朝、さゆりさんに会つたらこの言葉を言おうと決心した。

「さゆりさん。きのうは、ありがとう。」と……。

板書計画

本当の友だちは、時には、相手のことを考えて忠告することも必要

もんくを言われたと思っていたわたしが、お母さんの話をきいて「はっ」としたのは、なぜでしょう。



本当の友だち

もんくを言われたような気がしたのはなぜか。

<本当の友だち> <さゆりへのかんしゃ> <自分の反省>

・ さゆりが自分のことを考えて言ってくれたことに気づいたから

・ さゆりが言いにくそうだったのに言ってくれたことに気づいたから

・ さゆりを信頼することができたから

・ 本当の友だちになるためには、相手のことを考えて注意することも必要だとわかったから

・ 走って先に帰って悪かったと思っただから

・ おこつて悪かったと思っただから

・ さゆりが自分のことを考えて言ってくれたことに気づいたから

・ さゆりが言いにくそうだったのに言ってくれたことに気づいたから

・ 少しくらいならいいじゃないかと思っただから

・ つごうの悪いことを言われたから

・ すなおに聞き入れられなかったから

・ なかよしの友だちに言われたから

「ありがとう」の言葉を聞いたさゆりさんは、「どう思っただでしょう。」

・ 気持ちをわかってくれてうれしい

・ こちらこそ、ありがとう

・ これからもなかよしでいようね

道徳の時間の指導内容		2－(3) 「信頼・友情」との関連		
月	主題名	資料名	内容項目	出典
4	友だちをつくるために	ブラジルからの転校生	2－(3) 信頼・友情	光文
6	強い心	サッカーボール	1－(3) 正しい判断・勇気	光文
11	友だちだから	ケンくんのこと	2－(3) 信頼・友情	光文
2	友情を深めよう	本当の友だち	2－(3) 信頼・友情	市道徳
		各教科等との関連		
「小学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連				
P. 44～47	卓球は四人まで	<ul style="list-style-type: none"> ○読書生活について考えよう ○三つのお願い ○いろいろな音色を感じ取ろう ○学級スポーツ大会をしよう 		国語 国語 音楽 特活等

「私たちの道徳」との関連	
P. 70～79	友だちとたがいに理解し合って

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統		2－(2) 「親切・思いやり」
小学校第1学年及び第2学年	2－(3) 友達と仲よくし、助け合う。	
小学校第3学年及び第4学年	2－(3) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。	
小学校第5学年及び第6学年	2－(3) 互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。	
中学校	2－(3) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。 2－(4) 男女は、互いに異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する。	

主題名 広い心で

2 - (4) 寛容・謙虚

資料名 ゆきこさんのひとこと

出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい 主人公が思い切ってアドバイスを聞きに行ったわけを<困っていたから><ゆきこさんの行動に共感したから><大切なことに気付いたから>などに着目して捉えることで、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を受け入れることを大切にしようとする気持ちをはぐくむ。

主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

寛容とは、心が広く、他人の言動などをよく受け入れることであり、謙虚とは、ひかえめでつつましくやかなことをいう。往々にして人は自分の能力、地位等で優越感をもったり、狭いなわばり意識で意地を張ったりして目的を見失い、他者からのアドバイスを拒絶しがちである。人は自分に対して謙虚であるからこそ、他者に対して寛容となることができる。したがって、広がりや深まりのある人間関係を築くには、広い心を持ち、謙虚に他者の意見を取り入れることが大切である。

(2) 児童の実態

この時期の児童は、他の人からの確かな忠告やアドバイスを受けても、素直に受け入れることができず逆に反発心をもつことも少なくない。また、その人がそのような忠告やアドバイスをする理由を相手の立場に立ってじっくり考えることはあまりない。そこで、相手の意見を素直に聞いたり、異なった意見や立場に対して広い心で対処したりすることの大切さに気付かせていくことが必要である。

(3) 資料について

本資料は、舞台セットについてのアドバイスを素直に受け入れられなかった主人公が、友人の一言に共感し、自分の行動を改め、最後は学級全員で劇を成功させるという内容である。主人公は、自力で壁の製作に取り組むが、作業がうまくいかずに悩む。一方、主人公と同じ舞台係の友人は、アドバイスを素直に受け入れ、舞台セットを仕上げている。主人公はそんな素直で積極的な友人の姿に心を動かされる。アドバイスを聞きに行った主人公の行動のわけを考えさせることで、広い心を持ち、謙虚に反省し、他者の意見を取り入れることの大切さに気付かせることができる資料である。

指導について

導入では、友だちからアドバイスを受けた経験とそのときの気持ちを話し合わせる。「うれしかった」「いやな気持ちだった」など様々な気持ちを出させた後に本資料に出合わせる。

資料を読み、「ぼくが思い切ってひろしくんにアドバイスを聞きに行ったのはなぜか。」と問う。<困っていたから><ゆきこさんの行動に共感したから><大切なことに気付いたから>の視点から行動のわけを考えさせていく。主人公の行動のきっかけは、ゆきこさんの行動と言葉であることを押さえた後、「ぼくが思い切ってアドバイスを聞きに行ったのは、ゆきこさんの行動に共感したからだけか。」と問い、さらに主人公の気持ちに迫らせていく。その中で、異なった意見を聞くことの大切さに気づき、行動したことで、主人公自身が成長したことに気付かせる。

終末では、劇が成功したときの主人公の気持ちを想像させる。その際、単にうれしかっただけではなく、心を広くもち、アドバイスを受け入れることが劇の成功に結びついたことを主人公が実感していることを押さえる。

その後、今の自分に向けてアドバイスを書かせることを通し、自分自身を見つめ、アドバイスを受け入れることの大切さを感じさせたい。

学習指導過程

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入 5分	1 友だちからアドバイスされた経験を出し合う。	○ 友だちからアドバイスされた経験とそのときの気持ちを出し合わせる。 友だちから「こうしたらいいよ」などアドバイスを受けたことがあるか。 ・ボールの投げ方を教えてもらった。うれしかった ・計算の方法を教えてもらった。ちょっといやだった	◆ 自分の経験やそのときの気持ちを考えることができたか。
展 開 30分	2 ぼくがひろしくんに思い切ってアドバイスを聞きに行ったわけを考える。 3 ぼくが思い切って行動をおこしたわけをさらに深く考える。 4 劇が成功したときのぼくの気持ちを考える。	○ 資料を読ませ、主人公が思い切ってひろしくんにアドバイスを聞きに行ったわけを考えさせる。 ● ひろしくんの言葉に反発し、自分なりにセット作りに取り組むぼくの姿、努力するがうまくいかず悩むぼくの気持ちをきちんと押さえておく。 ぼくが、思い切ってひろしくんにアドバイスを聞きに行ったのはなぜか。 〈困っていたから〉 ・かべを古い感じにすることができず困っていたから ・ひろしくんに古く見せる方法を教えてもらおうと思ったから 〈ゆきこさんの行動に共感したから〉 ・ゆきこさんと比べ、自分は意地を張っていたと反省したから ・ゆきこさんのようにひろしくんのアドバイスを素直に受け入れてみようと思ったから 〈劇の目的を思い出したから〉 ・アドバイスを聞くことで劇を成功させたいと思ったから ・いろいろな考えや意見を聞いて行動することが大切だと思ったから ● ゆきこさんの行動に共感したからという意見が多いと予想される。そこで、「ゆきこさんの行動のすばらしさはどんなところか」等の補助発問をし、ゆきこさんのすばらしさを具体的に明らかにする。 ぼくが思い切ってひろしくんにアドバイスを聞きに行ったのは、ゆきこさんの行動に共感したからだけか。 ・自分と異なる意見を大切にしようと思ったから ・広い心で受け入れることの大切さに気付いたから ・がんばっていい劇にしたいと考えたから ● ぼくの思い切った行動のきっかけは、ゆきこさんの行動と言葉であることを押さえたうえで、自分に足りなかった大切なものに気づき、行動したことで、ぼく自身が成長したことに気付かせる。 ○ 劇が成功したときのぼくの気持ちを想像させる。 拍手がさすががしく思えたのはなぜか。 ・思い切ってひろしくんにかべのぬり方を聞いてよかった ・みんなが協力して劇が成功したのでうれしい ● 学級全員で劇の成功を心から喜んでいることに着目させ、ぼくの気持ちを想像させる。	◆ ぼくが思い切って行動したきっかけは、ゆきこさんが自分と異なる意見を受け入れたことであることに気付いたか。 ◆ 劇の成功を心から喜ぶぼくの気持ちを考えることができたか。
終末 10分	5 自分自身にアドバイスを書く。	○ 自分自身にアドバイスを書かせる。 今の自分にアドバイスをおう。 ● 自分の生活を振り返らせ、がんばっていることや目標としていることなどについて書かせ、何人かに発表させる。	◆ 自己を振り返り、アドバイスを書くことができたか。

ゆきこさんのひとこと

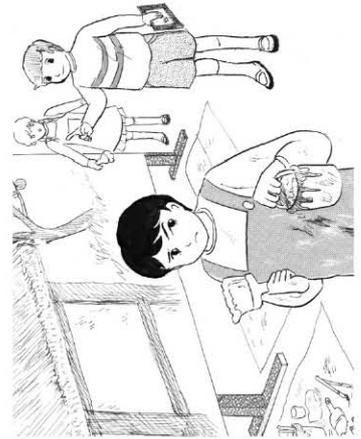
ぼくの学校では、毎年、一年間お世話になった方々を招いて感謝の会をしている。ぼくたち一組は、日本の昔話の劇をすることになった。

感謝の会が近づき、劇の係を決めた。ぼくは舞台係になった。休み時間に同じ係の人といっしょにセット作りをするのだが、なかなかうまくできない。

そんな時、役者になっているひろしくんがこう言ってきた。

「庭に生えている柿の木なんだけど、もう少し柿の実を赤っぽくして、たくさんつけた方がいいよ。その方が秋の感じが出るし。それに、おばあちゃんの家のかべは、もつと古い感じがいいと思うけどなあ。」

ぼくは、この言葉を素直に受け入れられなかった。（いいよなあ、役者係は。舞台係の大変さも知らないで・・・。）おばあちゃんの家のかべを担当していたぼくは、自分なりの方法でやってみたが、どうしてもうまくできなかった。



一日たった放課後、集会室に行ってみると、同じ舞台係のゆきこさんが来ていた。ゆきこさんは柿の木の担当だ。ぼくは、そばにあった柿の木を見て驚いた。柿の実がたくさんついていて、熟したように赤く色づいている。まるで本物のように見えたのだ。

ぼくに気づいたゆきこさんが言った。

「どう、柿の木。本物みたいになって秋の感じが出たでしょ。実は、わたし、この前のひろしくんの言葉には、ちよつといやな気持ちになったの。でも、よく考えてみて色をぬり直してみたの。そうしたら、ひろしくんの言ったとおりだったわ。そうは思わない？」

ぼくは、はつとした。そして、しばらく考えてから、体育館に向かった。体育館では役者係の人たちが練習している。

「ひろしくん。この前言っていた家のかべだけど、どうしたら古い感じが出るかなあ。」

ぼくは、思い切つて聞いてみた。ひろしくんは、おどろいたようだったが、いろいろアイデアを出してく

れた。



感謝の会当日。ぼくたち一組の劇は大成功をおさめた。会場からの大きな拍手に、舞台係の全員が大きな声をあげて喜んだ。ぼくは、ゆきこさんと二人で、舞台から降りてくるひろしくんたちを拍手でむかえた。ひろしくんは、にっこりとほほえんだ。

会場からの拍手が、ぼくの胸にすがすがしく鳴りひびいていた。

板書計画



今の自分にアドバイスをおうろう

ゆきこさんの行動に共感したからだけか。

自分で行動をおこした

・ 広い心の大切さを知った

・ 劇を成功させたかった

↓

ぼくの成長

←

ゆきこさんの行動のすばらしさ

アドバイスされたとき

うれしかった

いやだった

拍手がすすがしく思えた

・ 思い切つて聞いてよかった

・ 劇の成功がうれしい

〈困っていたから〉

〈ゆきこさんの行動に共感したから〉

〈劇の目的を思い出し、だから〉

かべのぬり方を教えてもらいたい

ゆきこさんのようにアドバイスを受け入れよう

・ 自分得意地を張っていた

・ いろいろな考えや意見を聞くことが大切

ぼくが思い切つてひろしくんにアドバイスを聞きに行ったのはなぜか。

道徳の時間の指導内容		2 - (4) 「寛容・謙虚」との関連		
月	主題名	資料名	内容項目	出典
5	思いやりを受けつぐ	すてきなおくりもの	2 - (2) 思いやり・親切	光文
9	広い心をもって	学級新聞作り	2 - (4) 寛容・謙虚	光文
1	広い心で	ゆきこさんのひとこと	2 - (4) 寛容・謙虚	市道徳
「小学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連			各教科等との関連	
・ 掲載例なし			○きいて、きいて、きいてみよう ○豊かな言葉の使い手になるには ○What would you like? ○委員会の仕事	国語 国語 外国語活動 特活等

「私たちの道徳」との関連	
P. 80~87	けんきょに、広い心をもって

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統		2 - (4) 「寛容・謙虚」
小学校第1学年及び第2学年	(斜線表示)	
小学校第3学年及び第4学年		
小学校第5学年及び第6学年	2 - (4) 謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切ににする。	
中学校	2 - (5) それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方がることを理解して、寛容の心を持ち謙虚に他に学ぶ。	

第6学年 道徳学習指導案

主題名 みんなのために

2－(5) 尊敬・感謝

資料名 心に咲いた一輪の花

出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい

公園の掃除をはじめた主人公の気持ちを＜反省するわたし＞＜尊敬・感謝するわたし＞＜実践するわたし＞などに着目して捉えることで、自分の生活が多くの人々の支え合いで成り立っていることに尊敬と感謝の気持ちをもち行動しようとする態度を育てる。

主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

わたしたちが生活している社会は、多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っている。ところが、わたしたちは、そのことに気付かないまま生活していることが多い。周りの人を思いやり、社会のために役に立とうとする心を育てるためには、日々の生活の中で、自分を支えてくれる人々がいることを自覚し、感謝する心をもたせることが大切である。

(2) 児童の実態

この時期の児童は、自分たちが生活している環境をあたりまえのように感じている。多くの人に支えられているという自覚が少なく、地域や学校の中において、人のために役立つ行動をした人を見ても、他人ごととして捉えがちである。そうした子どもたちに、尊敬と感謝の心をもたせ、その気持ちを行動に表すことの大切さに気付かせたい。

(3) 資料について

本資料は、ひとりのおばあさんによって公園がいつもきれいに掃除されていたことを知った主人公が、おばあさんの生き方に共感し、自分も公園の掃除をはじめるという内容である。ある日、掃除をした後に男の子の喜ぶ姿を目にし、すがすがしい気持ちになる。主人公の行動や気持ちを追っていくことで、子どもたちに自分たちの生活を支えてくれている人への尊敬と感謝の心をもたせることができる。また、子どもたち自身の体験を基に、自分にできることについて考えさせるきっかけとなる資料である。

指導について

導入では、学校のトイレ掃除をしたときの気持ちを出し合わせ、掃除に目を向けさせてから資料に出合わせる。

資料を読み、「どうしてわたしは公園の掃除をはじめたのか。」と問い、＜反省するわたし＞＜尊敬・感謝するわたし＞＜実践するわたし＞の視点から、主人公の気持ちを考えさせていく。そして、おばあさんへの尊敬と感謝の気持ちから自分にも何かできるのではないかと考えたことに気付かせたい。自分にできることをしようとした主人公の気持ちに共感できたところで、「公園の掃除をして、わたしはどんなことを思ったのか。」と問い、自分が掃除をしていることの喜びだけでなく、それを喜んでくれている人がいることに気付かせたい。そして、周りの人を思いやり、社会のために役立とうとすることに目を向けさせる。

終末では、「みんなの周りで生活を支えてくれているのはどんな人か。」と問い、自分の周りを見つめ直させ、毎日の生活を支えてくれている人とその人の思いについて話し合わせる。

さらに、「自分にできることはどんなことだろうか。」と問い、学校や家庭、地域でできそうなことをワークシートに書き込ませる。そういった自己の振り返りの活動を通して、日常の生活の中で多くの人に支えられていることに感謝するとともに、それに応えて自分たちは何をすべきかを自覚し、実践しようとする気持ちを高めていく。

また、終末の扱いとして、「卒業までの間にできることはないか。」と問い、卒業までにできることを考えさせ、特別活動等と関連させて指導することも考えられる。

学習指導過程

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入 5分	1 学校のトイレ掃除について思っていることを出し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校のトイレ掃除をした時の気持ちを出し合わせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">学校のトイレ掃除をした時に、どんなことを思ったか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・汚れているので進んで掃除をする気になれない ・掃除をしてきれいになると気持ちがいい ・みんなにもっときれいに使ってほしい ● 事前にトイレ掃除についてのアンケートを行い、その結果を提示するなどの工夫も考えられる。 	◆ トイレ掃除についての思いを素直に発表できたか。
展開 25分	2 公園の掃除をはじめたわたしの気持ちを考える。 3 掃除をしているわたしの気持ちを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を読み、わたしの気持ちの深まりに気付かせる。 ● あらすじを押さえ、場面の様子がわかるように挿絵を板書に位置付ける。 ○ 公園の掃除をはじめたわたしの気持ちを考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">どうしてわたしは公園の掃除をはじめたのか。</div> <ul style="list-style-type: none"> 〈反省するわたし〉 <ul style="list-style-type: none"> ・いつも公園を使っていただけで、はずかしい ・おばあちゃんに申しわけない 〈尊敬・感謝するわたし〉 <ul style="list-style-type: none"> ・いつもきれいにしてくれてありがたい ・おばあちゃんの役に立ちたい 〈実践するわたし〉 <ul style="list-style-type: none"> ・公園の掃除をすることでだれかの役に立つと思った ・おばあちゃんのように自分にできることをしたいと思った ● 話し合いの中で、「おばあちゃんへの感謝であれば、掃除以外の方法もあるのに、どうして掃除をしているのか」と問い、「自分にできること」をしているわたしに着目させる。 ○ 掃除をしているわたしの気持ちを考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">公園の掃除をして、わたしはどんなことを思ったのか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・男の子の言葉がうれしかった ・掃除をしてよかった ・自分がしていることが、だれかの役に立っているのがうれしい ● わたしが掃除をしてきてよかったと思うわけを問うことで、自分が掃除をしていることの喜びだけでなく、それを喜んでくれる人がいることにも気付かせたい。 	◆ 公園の掃除をはじめたわたしの気持ちをおばあちゃんのかかわりから考えることができたか。 ◆ 掃除をしているわたしの気持ちを周囲の人のかかわりから考えることができたか。
終末 15分	4 日常生活を振り返り、自分にできそうなことを考える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">みんなの周りで生活を支えてくれているのはどんな人か。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の周りで、毎日の生活を支えてくれている人とその人の思いについて話し合わせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">自分にできることは、どんなことだろうか。</div> ○ 自分の周りを見つめ直し、自分にできそうなことをワークシートに書かせ、発表させる。（「私たちの道徳」P. 90, 91参照） <ul style="list-style-type: none"> 《学校で》 《地域で》 《家庭で》 ● 特別活動等と関連させ、卒業に向けての活動につなぐことも考えられる。 	◆ 日常生活を振り返り、自分にできそうなことを考えることができたか。

心に咲いた一輪の花

わたしは友だちと近所の公園で遊んでいた。この公園は、きれいに整備されていて、いつもたくさんの人が集まってくる。

ところが、途中でトイレに行った友だちが、

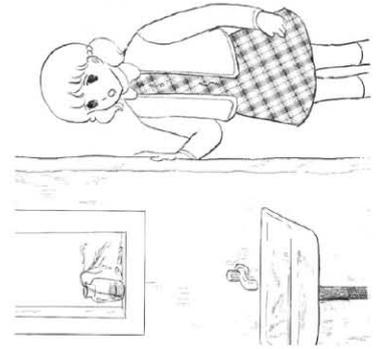
「ねえ、このごろ、このトイレ汚くなったと思わない。」

と言ってきた。(えっ、本当に。) と思って様子を見に行くと、臭いや汚れがあり、一輪さしの花も枯れていた。

家に帰って母に、公園が汚くなっていることを話すと、

「まみ、知らなかったの。あそこの公園は、となりのおばあちゃんがいつも掃除をしてくれているよ。でも、おばあちゃん、体調をくずしたらしく、しばらく公園にも行っていないのね。・・・まみ、これを持っておばあちゃんの様子を見てきてあげて。」

と、きのういなかから送られてきた果物をわたしに持たせた。



「こんにちは。おばあちゃん、具合はどう?」

と声をかけると、おばあちゃんがにこにこしながら、玄関先まで出てきた。わたしは、果物を渡しながら、気になっていた公園のことを聞いてみた。

「ところで、おばあちゃん、いつも公園をきれいにしてくれているんですよ。どうしてなの。」

するとおばあちゃんは、

「あの公園には昔よく子どもを連れて遊びに出かけていたんだよ。公園でたくさんの友だちもできてねえ。毎日公園に行くのが楽しかった。子どもが大きくなってからは、あまり行くこともなくなったけれど、みんなが少しでも気持ちよく過ごせる公園になればと思って掃除をしているの。おんがえしのつもりで、自分にできることをしているだけだよ。」

と話してくれた。

おばあちゃんの家を出てからの帰り、いつもあたりまえのように公園を使っていた自分のことを考えた。わたしは家にもどると、まよわず公園に出かけた。手に一輪のコスモスをにぎりしめて・・・

ある日のこと、わたしは公園の掃除を終え、家にもどろうと自転車に乗った。すると、

「まみちゃん。」

と声をかけられた。ふり向くと、となりのおばあちゃんだった。

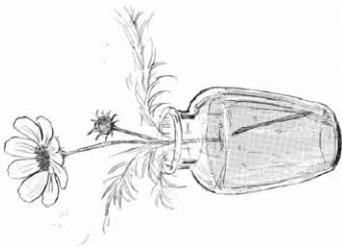
その時、すぐ横を小さな男の子を連れとお母さんが通り過ぎた。

「お母さん、この公園いつもきれいで気持ちがいいね。今日は、ブランコでたくさん遊んだ。」

と男の子は言うど、ブランコの方へ走って行った。

わたしは、そばにいるおばあちゃんを見た。おばあちゃんはにこにこしながら、男の子を見つめていた。

公園からの帰り道、自転車のペダルがいつもより軽く感じた。ふりかえると、一輪さしの花が、静かに風にゆれていた。



板書計画

学校で

地域で

家庭で

自分にできることは、どんなことだろうか。

掃除をしてよかった役に立ててうれしい

公園の掃除をして、わたしはどんなことを思ったのか。

〈反省〉

- いつも公園を使っていただけで、気づかぬうちに、おばあちゃんの役に申しわけない
- 立ちたい

〈尊敬・感謝〉

- いつもきれいな公園なの…
- おばあちゃんが、掃除していることを知る
- おばあちゃんのところに行つて話を聞く
- 掃除の後、男の子とお母さんに会おう

〈実践〉

- だれかの役に立つてうれしい
- 自分のできることをしたい

心に咲いた一輪の花

道徳の時間の指導内容

2－(5) 「尊敬・感謝」との関連

月	主題名	資料名	内容項目	出典
6	感謝する気持ち	松井さんの笑顔	2－(5) 尊敬・感謝	光文
11	愛をもって	すあしにサンダルの天使 －マザー・テレサー－	4－(4) 勤労・社会奉仕	光文
1	みんなのために	心に咲いた一輪の花	2－(5) 尊敬・感謝	市道徳
「小学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連 ・掲載例なし			各教科等との関連	
			○ What do you want to be? ○ 係活動を見直そう ○ 地区への行事への参加 ○ 卒業に向けて	外国語活動 特活等 特活等 特活等

「私たちの道徳」との関連

P. 88～95 支え合いや助け合いに感謝して

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統

2－(5) 「尊敬・感謝」

小学校第1学年及び第2学年	2－(4) 日ごろ世話になっている人々に感謝する。
小学校第3学年及び第4学年	2－(4) 生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する
小学校第5学年及び第6学年	2－(5) 日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる。
中学校	2－(6) 多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる。

3の視点「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」の
内容の趣旨と指導及び学習指導案・資料

「主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること」の内容の趣旨と指導

(1) 3の視点について

① 3の視点の意味

道徳の内容に示されている4つの視点は、望ましい道徳性を発現させ身に付けていくために必要なかかわりを示している。したがって、子どもたちが望ましい道徳性を自らの内に培い、人間としての生き方を自覚していくためには、これら4つのかかわりのすべてを主体的にもてるような指導を充実させる必要がある。

- 1の視点「主として自分自身に関すること」
自己の在り方を自分自身とのかかわりにおいてとらえ、望ましい自己の形成を図る。
- 2の視点「主として他の人とのかかわりに関すること」
自己を他の人とのかかわりの中でとらえ、望ましい人間関係の育成を図る。
- 3の視点「主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること」
自己を自然や美しいもの、崇高なものとのかかわりにおいてとらえ、人間としての自覚を深める。
- 4の視点「主として集団や社会とのかかわりに関すること」
自己を様々な社会集団や郷土、国家、国際社会とのかかわりの中でとらえ、国際社会に生きる日本人としての自覚に立ち、平和的で文化的な社会及び国家の成員として必要な道徳性の育成を図る。



＜3の視点は人間としての在り方や生き方を深く自覚し豊かな心をはぐくむうえで基本となる＞

- 道徳教育は、人間としてよりよく生きていく上で必要なさまざまなかかわりを主体的にもち、自ら考え、判断し、自律的に道徳的実践のできる人間の育成を目指している。したがって、道徳の基本は、よりよく生きる自己の確立にあり、私たちの心に訴える美しいものや崇高なものとの主体的なかかわりは、人間の心の内奥を揺り動かし、人間としてのよりよい生き方を求める力に深さを与えるものである。
- 特に道徳の目標に掲げられている生命に対する畏敬の念を培うことによって、生命あるものすべてとの共生を図りながら、人間としてよりよく生きることの課題の自覚を深めることができる。

② 他の視点との関連

- 1, 2, 4の各視点は、いずれも3の視点と相互に深い関連をもっている。人間は自分という存在を見つめれば見つめるほど、自分の生命の不思議さや有限性、自分の生命を支えている自然や崇高なものとのかかわりを自覚せざるをえない。その自覚を通して、人間理解や自己理解が一層掘り下げられ、自己とのかかわりを深めることになる。
- 人間は他の人とのかかわりの中ではじめて生きることができ存在（ともにある存在）である。一人一人がかけがえない生命と人格をもち、互いに支え合って生きていると自覚することによって、感謝の気持ちや思いやりの心などが一層深められる。
- 集団や社会における人間としての自覚をもたらし、主体的なかかわりを促進する原動力となる。

(2) 3の視点の指導の観点

① 道徳の時間での指導

道徳の時間は、各教科及び特別活動等の全教育活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によって、これを補充、深化、統合し、道徳的実践力を育成する時間である。したがって、3の視点の指導においても、各教育活動でどのような指導がなされているのかを把握し、道徳の時間において発展的に指導していくことが大切である。

- 3の視点の指導
 - ・ 人間を自然や崇高なものとのかかわりの中でとらえ、人間としての自覚を深めていくことを念頭において指導する必要がある。
 - ・ 特に、自然や動植物に親しみ、生命あるものすべてをかけがえないものとして尊重し、美しいものや崇高なものに対して感動する心や畏敬の念を育てることを中心とした指導が求められる。

- 年間指導計画の作成
 - ・ 道徳の内容が4つの視点から分類整理して示されている趣旨を理解し、内容相互の関連を考慮した指導や6年間を見通した発展的な指導を行うことが大切である。
 - ・ 特に3の視点は、学校行事や特色ある教育活動等での体験的な学習と大いに関係することから、季節や行事、各教科等での体験活動、日常生活での体験等の実態を踏まえて内容項目を適切に位置付けられるように配慮することが大切である。
- 1つの内容項目にいくつかの道徳的価値が含まれている場合
 - ・ 3つの内容項目が個別に示されていることの意味を理解し、関連的・発展的な指導を工夫し全体として自然や崇高なもののかかわりを主体的にもち、それぞれの道徳的価値を自覚できるようにすることが求められる。
- 各時間の主題の構成
 - ・ 自然や崇高なものについての理解を深め、主体的にかかわろうとする心情や意欲、態度を育てることに留意してねらいを設定し、資料を選定することが大切である。特に資料選択に当たっては、資料そのものが感動を与え自己の在り方を深く考えさせるものであることが望まれる。
- 指導過程
 - ・ 資料を媒介として、感動や思いなどが共有できるように工夫し、自分を自然や崇高なもののかかわりの中でとらえ、人間としての自覚を深めることができるように構成することが大切である。
 - ・ 資料の提示を工夫したり、身近な補助資料を用意したり、発問を工夫したりして一人一人の心の動きをとらえた展開を工夫する。また、他の教育活動との関連を図った指導過程を組むことも重要である。

② 道徳の時間以外での指導

(i) 各教科での指導

- 各教科においては、それぞれの教科固有の目標や内容に基づく指導を充実させる過程で、道徳教育もあわせて行われる。3の視点の内容との関連は、各教科において随所に見られる。
 - ・ 理科では、自然の事物や現象への意図的な働きかけを重視し、自然に親しみ、自然に接する意欲や心情を高めることを通して、生物を愛護し、生命を尊重する態度をはぐくむ。
 - ・ 生活科では、子どもたちが実際に動植物を育てて楽しみ、自分の生活を充実させていくことを通して、自分も含めた生命の不思議さや大切さに気付かせる。
 - ・ 社会科では、環境の保全と資源の重要性に関心を深めて国土に対する愛情を育てる指導を通して、自然のすばらしさや重要性を知り、自然や動植物を大切にすることを養う。
 - ・ 音楽科や図画工作科においては、特に美しいものや崇高なものに感動し追い求めようとする心を育成する。
- 各教科における自然や崇高なものに主体的にかかわり理解を深める指導内容と、3の視点に含まれる内容項目の道徳の時間における指導との関連を図りながら、道徳学習を充実させることが求められる。。

(ii) 特別活動及びその他の教育活動での指導

- 特別活動は、望ましい集団活動を通して、なすことによって学ぶ教育活動であり、具体的な集団活動において、自然や崇高なもののかかわりをもつものは多い。
 - (例) 学校行事
 - 「遠足・集団宿泊的行事」では、見聞を広め、自然や文化などに親しむ活動
 - 「勤労生産・奉仕的行事」では、飼育栽培活動、学校園の手入れなどの活動
 - 「健康安全・体育的行事」では、心身の健全な発達や健康の保持増進等についての関心を高める活動
- これらの自発的、自主的、実践的な活動において、自然や動植物と温かい心の交流を図ったり、生命の大切さを自覚したり、美しいものや崇高なものに感動したりする機会をもつことが大切である。

(iii) 日常生活での指導

- 日常的に自然や動植物と心を通わせ、豊かな心がはぐくまれるような環境整備や教師の働きかけが大切である。
- 教師の感性や情操が児童に及ぼす影響は大きい。音楽を聴いてこれを美しいと感じる心、絵画を鑑賞し感動する心、自然の変化に敏感な心等が教師の姿を通して子どもに伝わるとき、子どもの心をゆさぶり、子どもの内面に豊かな感性や情操を培うことになる。

學習指導案・資料

第1学年 道徳学習指導案

主題名 いのちのたくましさ

3 - (1) 生命尊重

資料名 しんちゃんのアサガオ

出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい アサガオをみつめる主人公の気持ちを、〈アサガオのお世話に対する満足感〉〈アサガオが元気になった喜び〉〈アサガオの生命力のたくましさに対するおどろき〉等に着目して捉えることで、生命を大切にしようとする気持ちをはぐくむ。

主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

生命を大切にすることは、人間のすべての行動の基本になるものであり、すべての道徳性の根幹を成すものである。自分、他人はもとより、生きているものすべての生命を尊重し、これを大切にしようとする心情を育てることは児童の人間形成において極めて重要である。

(2) 児童の実態

この時期の児童は、自分がかわいがっている動植物に対する関心はもっているものの、その生命の大切さにまでは思いがいたっていない。いたずらに生き物の命をうばったり、採集しても大切に育てなかつたりということも見られる。身近な動植物を通し、生命のもつたくましさを感じ取らせながら、生命を大切にすることを育てたい。

(3) 資料について

本資料は、一度はそのまま枯れるのかと思われた2本のアサガオが再び立ち上がり葉を広げる様子を見た主人公が、その生命力におどろくという内容である。1年生の子どもたちにとって身近な植物であるアサガオの成長の様子は、興味関心をもって捉えることができるものである。その生命のたくましさを感じさせることにより、生命を大切にしようとする気持ちを育てることに適した資料である。

指導について

導入では、資料を読み聞かせ、あらすじを理解させる。しおれかけた2本のアサガオの様子を思い浮かべさせたうえでしんちゃんの気持ちを考えさせ、アサガオの成長を期待しつつも、だめかもしれないというあきらめの気持ちをもったであろうことを想像させる。

展開では、2本のアサガオが、葉を開き、しっかり立った場面に目を向けさせ、その時のしんちゃんの気持ちを〈自分の世話に対する満足感〉〈アサガオが元気になった喜び〉〈アサガオの生命力のたくましさに対するおどろき〉などの観点から捉えさせ、板書に位置付ける。どの意見も認めたうえで、「がんばったのは、しんちゃんだけかな。」と問い、母親の「生きもののいのちっておもったよりたくましいものなのよ。」やしんちゃんの「アサガオのいのちだね。」という言葉から、アサガオが元気になったわけを、しんちゃんのお世話だけでなく、アサガオ自身もつ生命力のたくましさに向けて捉えさせたい。

終末においては、自分の身の回りの生き物の様子ですごいなと思ったことを発表させ、生命力のたくましさについて身近に感じさせたい。

学習指導過程

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入 10分	1 しおれかけた2本のアサガオを見たしんちゃんの気持ちを考える。	<p>○ 資料を読み聞かせながらあらすじを理解させ、しおれかけたアサガオの様子を思いうかべさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">しおれかけている2本のアサガオを見たしんちゃんは、どんな気もちだったか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・せっかく育っていたのにごめんなさい ・もう、だめかもしれない・かわいそうだ ・きっと、育ててみせるぞ 	◆ しおれかけたアサガオの様子を思い浮かべ、しんちゃんの気持ちを考えているか。
展開 25分	2 元気になった2本のアサガオを見た時のしんちゃんの気持ちを考える。 3 アサガオの生命力のたくましさについて考える。	<p>● アサガオの成長を期待しながらも、もうだめかもしれないと思うしんちゃんの気持ちを想像させた後、課題を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">げん気になった2本のアサガオを見たとき、しんちゃんはどうな気もちだったのだろう。</div> <p>○ だめかと思われた2本のアサガオがしっかり立っている様子を見たときのしんちゃんの気持ちをワークシートに書かせ、発表させる。</p> <p>● 考えの違いがわかるよう整理して板書に位置付ける。</p> <p>〈アサガオのお世話に対する満足感〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一生懸命お世話をしてよかった ・あきらめないでよかった <p>〈アサガオが元気になった喜び〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アサガオが元気になってうれしい ・だめかと思ったのにアサガオが元気になってよかった <p>〈アサガオの生命力のたくましさに対するおどろき〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もうだめだと思ったのに、元気になってすごい ・生き物のいのちってたくましいな <p>○ どの発言も認めた上で、「アサガオの命」に目をむけてとらえる子どもの意見に着目させ、次の課題を位置づける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">がんばったのは、しんちゃんだけかな。</div> <p>○ お母さんの「生きもののいのちっておもったよりたくましいものなのよ。」という言葉やしんちゃんの「アサガオのいのちだね。」という言葉からアサガオの生命力のたくましさに気付かせる。</p>	◆ 元気になった2本のアサガオを見た時のしんちゃんの気持ちに共感しているか。 ◆ アサガオが元気になったわけをアサガオの生命力のたくましさと結び付けて考えているか。
終末 10分	4 生き物の様子ですごいなと感じた経験を発表する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">生きものようすで、すごいなおもったことはないか。</div> <p>○ 生き物の様子ですごいなと思ったことを思い出させ、発表させる。</p> <p>● 生命のたくましさにふれた経験などを取り上げ、どの生き物もその命を全うするために懸命に生きていることをおさえる。</p> <p>● 生まれてすぐ、立ち上がる草食動物や、海に向かって懸命に泳ぐ海がめの赤ちゃんなど視聴覚教材も有効に活用する。</p>	◆ 生き物の生命力の強さを感じた経験を思い出して話しているか。

しんちゃんのアサガオ

しんちゃんの クラスでは、生かつの じかんに アサガオの タネを 三つ はちに うえました。しんちゃんは まいあさ、アサガオの ようすを 見にいきました。しばらくすると、かわいらしい めが 三本、かおを のぞかせ、やがて ふたばが ひらきました。しんちゃんは うれしくて たまりませんでした。

アサガオに 本ばが できたころ、先生が、

「みんなが そだている アサガオのうち、一本だけを のこして のこりの 二本は おうちに もつてかえって そだてましょう。」

とおっしゃいました。しんちゃんは、いちばん 大きな 一本を のこして、あとの 二本は ねっこを きずつけないように そうつと スコップで すくい取ると、たいせつに いえに もつてかえりました。さつきまで 土の中で げん気に そだっていた アサガオは、二本とも しゅんとしています。

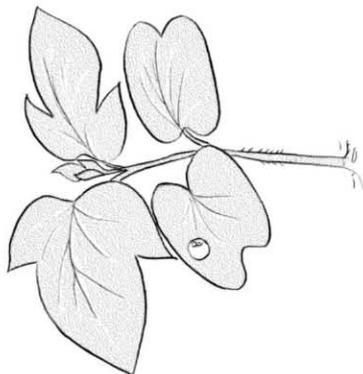
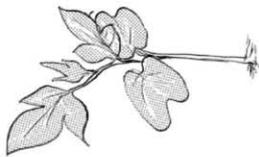
しんちゃんは、かえりつくといそいで にわに そのアサガオを うえました。水をあげても、二本のアサガオは ぐったり したままです。

「もう、だめなのかな。このまま、かれちゃうのかな。」

しんちゃんが きくと、おかあさんは、

「まあ、どうかしら。おかあさんにも わからないわ。でも 生きものの いのちって おもったより たくましいものなのよ。」

とおしえてくれました。(生きものの いのちかあ。) しんちゃんは、こころの中で つぶやきました。



つぎの日の あさ、しんちゃんは、いつもより 早く 目がさめました。いそいで にわに いくと、アサガオが はを ひらいて しやんと 立っているのが 見えました。

「わあ、すごい。おかあさん、見てよ。ぼくのアサガオ、げん気になっているよ。」

おかあさんも いそいで やつてきました。

「まあ、ほんとうだ。すっかり げん気になったみたいね。もう だいじょうぶよ、きつと きれいな花を さかせるわ。」

「アサガオの いのちだね。」

しんちゃんは、一本の アサガオを うれしそうに 見つめました。

板書計画

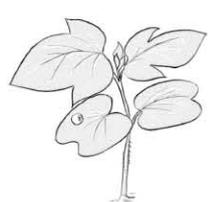
・身の回りの生きものの例

アサガオのいのち
いきもののいのち

↓

ひつしに生きようとしている
たくましい

がんばったのは、しんちゃんだけかな。



げん気になった二本のアサガオを見たとき、しんちゃんは
どんな気もちだったのだろう。

〈まんぞくかん〉
おせわをしてよかった
あきらめないでよかった
〈うれしき〉
げん気になってよかった
げん気になってうれし
これからも、おせわをしよう
〈おどろき〉
げん気になってすごい
いきもののいのちってすごいなあ

しんちゃんのアサガオ

しおれかけているアサガオを見て

かわいいそう
ごめんね
もうだめかも
きつとそだててみせる



道徳の時間の指導内容		3－(1) 「生命尊重」との関連		
月	主題名	資料名	内容項目	出典
5	いのちのたくましさ	しんちゃんのアサガオ	3－(1) 生命尊重	市道徳
6	行きていることのすばらしさ	どきどきどっきんぐ	3－(1) 生命尊重	東書
9	たすけずにはいられないところ	わきだしたみず	3－(1) 生命尊重	光文
10	命の温かさ	ハムスターのあかちゃん	3－(1) 生命尊重	東書
2	たった一つの命	いのちがあってよかった	3－(1) 生命尊重	東書
「小学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連		各教科等との関連		
P. 16～19	まりちゃんとあさがお	<ul style="list-style-type: none"> ○てんとうむし ○どうぶつの赤ちゃん ○いきものとなかよし ○動物の世話をしよう 		国語 国語 生活 特活等

「私たちの道徳」との関連	
P. 90～99	いのちを大切に

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統		3－(1) 「生命尊重」
小学校第1学年及び第2学年	3－(1)	生きることを喜び、生命を大切にすることを学ぶ。
小学校第3学年及び第4学年	3－(1)	生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切に学ぶ。
小学校第5学年及び第6学年	3－(1)	生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。
中学校	3－(1)	生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。

第6学年 道徳学習指導案

主題名 自然を大切に

3－(2) 自然愛・環境保全

資料名 ホタルに込められた願い

出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい ゴミ拾いをしようと思った主人公の気持ちを〈おじさんに対しての思い〉〈地域の人に対しての思い〉〈自然環境に対しての思い〉などに着目して捉えることで、自然のすばらしさを知り、自然環境に配慮し大切にすることを育てる。

主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

地球温暖化や自然環境の破壊をはじめとした環境問題は、今や地球的規模で考えなければ解決しない問題となっている。そのような状況の中、児童が環境について正しい理解を深め、環境を大切にし、環境の保全に配慮した行動がとれるようにすることが重要である。さらに、自然や動植物との共存の在り方を積極的に考え、環境の保全やよりよい環境の創造のために、主体的に行動しようとする実践的な態度をはぐくむことが大切である。

(2) 児童の実態

この時期の児童は、身近な自然に触れあってはいるものの、特にそれを意識せず自然の大切さを実感できないまま過ごしていることも多い。そこで、自然に親しみながら自然のもつ美しさやすばらしさに感動するとともに、自分にできる範囲で自然環境をよくしようとする意欲や態度を育てたい。

(3) 資料について

本資料は、水の浄化のために川底に沈めていた竹炭を遊び半分で引き上げてしまった主人公が、環境の保全に取り組んでいる人々との出会いを通し、自然環境や環境の保全の大切さに気付いていくという内容である。川で遊んでいた主人公は、おじさんに注意をされるが、その意味がわからないでいた。両親やおじさんの話を聞くうちに、川に空き缶を浮かべて石を投げたり、竹炭を引き上げたりするといった自分たちの行為を反省し、自分から川の清掃活動に参加する。主人公が川の清掃活動に参加するようになったわけとその時の気持ちを考えさせることで、自然環境を大切にすることを育てるのに適した資料である。

指導について

導入では、「山や川や海などの自然の中で遊んだ時、どんなことを思ったか。」と問い、自然の中で遊んだ経験やその時感じたことを発表させ、資料につなげる。

資料を読み、「ひろしが川のゴミ拾いをしようと思ったのはなぜか。」と問い、〈おじさんに対しての思い〉〈地域の人に対しての思い〉〈自然環境に対しての思い〉の3つの視点から主人公の行動のわけを考えさせる。おじさんや地域の人たちに対して迷惑をかけたという気持ちや生き物に対して悪いことをしたという気持ちに共感させていく。さらに、「ひろしはまたたくホタルの光をじっとながめて、どんなことを考えていたのか。」と問い、主人公が自然やそこにすむ生き物を守ることの大切さに気づき、自分にできる範囲で自然環境をよくしたいと考えていたことを捉えさせるようにする。

終末では、「自分にできることは何か。」と問い、自分の生活の中で、自然環境をよくするためにできることを実践しようとする意欲を高めていく。

学習指導過程

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入 5分	1 自然の中で遊んだ経験を発表する。	○ 自然の中で遊んだ経験を思い起こさせ、その時感じたことを発表し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">山, 川, 海などの自然の中で遊んだ時, どんなことを思ったか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緑いっぱいの木々の下, きれいな水が流れる川で泳いでとても気持ちよかった。 ・ 海に釣りに行った時, ゴミがたくさん捨てられていて汚かった。なぜゴミを捨てるのだろうと思った。 	◆ 自然や環境への思いが表れているか。
展開 30分	2 ひろしが川のゴミ拾いをしようと思ったわけを考える。 3 ゴミ拾いをしようと思ったわけを, ホタルの光をながめるひろしの気持ちとつなげて考える。	○ 資料を読ませ, ひろしがゴミ拾いをしようと思ったわけを考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">ひろしが川のゴミ拾いをしようと思ったのはなぜか。</div> <p>〈おじさんに対するの思い〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おじさんに叱られたから ・ おじさんに迷惑をかけたおわびから ・ おじさんの考えをなるほどと思ったから <p>〈地域の人に対するの思い〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなで川をきれいにしていることを知らなかったから ・ 自分たちが捨てたゴミを拾ってもらっていることを知ったから ・ 竹炭のことを知らず, 悪いことをしたと思ったから <p>* 竹炭は, 多孔質であるため, 吸着した匂いや汚れの成分を微生物が分解処理し, 水質浄化に効果を発揮することを必要に応じて補足説明する。</p> <p>〈自然環境に対するの思い〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ メダカやホタルがいる川にしたかったから ・ またこの川でホタルを見たいと思ったから ・ お母さんも川を汚さないようにしているし, 自分もできることをしようと思ったから <p>● おじさんや地域の人に対して迷惑をかけたという気持ちや生き物に対して悪いことをしたという気持ちに共感させていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">ひろしは, またたくホタルの光をじっとながめて, どんなことを考えていたのか。</div> <p>○ ホタルの光をじっとながめるひろしの気持ちを想像させることで, ひろしが自然環境を守ることの大切さに気づき, 自分にできる範囲で自然環境をよくしようとして行動したことを捉えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然がこたえてくれたんだな ・ 環境を守る活動を手伝ってよかった ・ ホタルなどの生き物がもっとすみやすい川にしたいな ・ これからも自然環境をよくしよう 	◆ ひろしがゴミ拾いをしようと思ったわけをおじさんや地域の人への思いや自然環境を守ることの大切さから考えているか。 ◆ 自然のもつ美しさをやすばらしさを感じとっているか。
終末 10分	4 自分にできることを考える。	○ 自然環境に対して, これから自分にできることを考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">自分にできることは何か。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ショッピングバッグの使用 ・ 節電, 節水 ・ 公園や道路のゴミ拾い ・ わりばしを使わない <p>● 卒業まででできることを考えさせ, 特別活動等と関連させる。</p>	◆ 自然環境を大切にしようとしているか。

ホタルに込められた願い



五月に入ったある日、ぼくは友だち二人と近くの小川に遊びに行った。飲んだばかりのジュースの空き缶を水に浮かべ、その空き缶をめがけて小石を投げ、みんなで当てっこをして遊んだ。

思う存分遊んだあと、岸辺の石に座って川をながめていると、川底にみような黒い物がいくつか沈んでいるのに気が付いた。ひとつ引き上げてみると、それはがんにような網の袋に入っていた。面白くなって、もうひとつ引っぱり上げようと三人で川の中に入ったとき、いきなり後ろから声をかけられた。

「何をやってるんだ。それは大切なものなんだぞ。」
声の主は、土手の道を歩いてきたおじさんだった。ぼくたちは意味がわからなかったけれど、あわてて網の袋を元に戻すと、急いでその場所を離れた。



川のできごとが気になっていたぼくは、夕ご飯のときに、お父さんにたずねてみた。

「今日、川で遊んだんだけど、お父さんも子どものころ川で遊んでいたの。」
すると、お父さんは、

「もちろん遊んだよ。よくサワガニや魚を捕まえたもんだ。ひろしも小さいころに連れて行っただぞ。ほら、ホタルがたくさん飛んでいただろう。」

ぼくは、なつかしい気持ちになった。

そばで聞いていたお母さんも、

「この川も家を建てたばかりのときは、今よりもつときれいだったのよ。生活排水とかゴミの投げ捨てとかで、だんだん汚れてきたのかしら。」

と残念そうに言った。

ぼくは、二人の話をだまて聞いていた。

次の日曜日、ぼくが川のそばを通りかかると、十人ほどの人が集まって、川の掃除をしていた。川底に沈んだ空き缶や石に引っかかったお菓子の袋などを拾ったり、発泡スチロールの切れはしを集めたりしている。その様子をながめていると、

「やあ、きみは。」

と突然声をかけられた。見ると、あのおじさんだった。

「あ……ごごめんさない。この前は、あんなことしちゃつて。」

あわてて頭を下げるぼくを見て、おじさんはゆつくりと話し始めた。

「あれはね、川の水をきれいにするために沈めたもので、竹炭っていうんだよ。この川は昔はとてもきれいな川でね。メダカが泳ぎ、ホタルがたくさん飛んでいたんだ。でも、だんだん家が増えるにつれて、汚れてきたんだ。このままではいけないと、私たちは地区の人たちに呼びかけて、数年前から竹炭を沈めたり、ゴミを拾ったりして川をきれいに行っているんだよ。」

おじさんは話し終わると、川の掃除に戻って行った。

ぼくは、しばらくおじさんの後ろ姿を見ていた。それから、川原に降りて行き、ゴミ拾いを手伝った。



六月のある日の夕方、ぼくは家族といっしょに川原に出かけた。辺りが少しずつ暗くなり始めたとき、ほのかな光が空中を漂っているのに気が付いた。

「あつ、ホタルだ。」

ぼくは思わず叫んだ。よく見ると、水辺の草むらの中にもぼつりぼつりと光が見える。ぼくは土手にこしかけると、またたくその光をじつとながめた。

板書計画

・ ショッピングバッグの使用
・ わりばしを使わない

・ 節電、節水
・ ゴミ拾い

自分にできること

自然環境
対しての思い

- ・ メダカやホタルのすむ川にしたかった
- ・ 自分もできることをしようと思っ

地域の人に
対しての思い

- ・ 川をきれいにしていることを知らなかった
- ・ 竹炭のことで悪いことをした

おじさんに
対しての思い

- ・ 叱られた
- ・ 迷惑をかけた

またたくホタルの光をじっとながめて、
どんなことを考えていたのか。

- ・ 自然がこたえてくれたんだな
- ・ これからも自然環境をよくしたい

自然のすばらしさ
自然環境の大切さ

自然の中で遊んだとき

楽しかった・きれいだった

きたなかった↓ゴミ

ホテルに込められた願い

ひろしが川のゴミ拾いをしようと思ったのはなぜか。

道徳の時間の指導内容		3－(2) 「自然愛・環境保全」との関連		
月	主題名	資料名	内容項目	出典
5	自然を守る	地球があぶない	3－(2) 自然愛・環境保全	光文
6	自然を大切に	ホテルに込められた願い	3－(2) 自然愛・環境保全	市道徳
9	地球を救う	愛華さんからのメッセージ	3－(2) 自然愛・環境保全	東書
10	人も自然の一員	海に生きるおじいちゃん	3－(2) 自然愛・環境保全	光文
2	自然を大切に	森に生きる	3－(2) 自然愛・環境保全	東書
「小学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連			各教科等との関連	
・ 掲載例なし			<ul style="list-style-type: none"> ○海の命 ○新しい日本へのあゆみ ○生物とそのかんきょう ○環境の美化 	国語 社会 理科 特活等

「私たちの道徳」との関連	
P. 110～113	自然の偉大さを知って

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統		3－(2) 「自然愛・環境保全」
小学校第1学年及び第2学年	3－(2) 身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。	
小学校第3学年及び第4学年	3－(2) 自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切に	
小学校第5学年及び第6学年	3－(2) 自然の偉大さを知り、自然環境を大切に	
中学校	3－(2) 自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。	

4の視点「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の
内容の趣旨と指導及び学習指導案・資料

「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の内容の趣旨と指導

(1) 4の視点について

① 4の視点の意味

道徳の内容に示されている4つの視点は、すべての人間がもっている生活上のかかわりの対象を示している。したがって、子どもたちが望ましい道徳性を自らの内に培い、人間としての生き方についての自覚を深めていくためには、これら4つのかかわりのすべてを主体的にもてるような指導を充実させる必要がある。

- 1の視点「主として自分自身に関すること」
自己の在り方を自分自身とのかかわりにおいてとらえ、望ましい自己の形成を図る。
- 2の視点「主として他の人とのかかわりに関すること」
自己を他の人とのかかわりの中でとらえ、望ましい人間関係の育成を図る。
- 3の視点「主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること」
自己を自然や美しいもの、崇高なものとのかかわりにおいてとらえ、人間としての自覚を深める。
- 4の視点「主として集団や社会とのかかわりに関すること」
自己を様々な社会集団や郷土、国家、国際社会とのかかわりの中でとらえ、国際社会に生きる日本人としての自覚に立ち、平和的で文化的な社会及び国家の成員として必要な道徳性の育成を図る。



＜4の視点は民主的、平和的な社会及び国家の形成者として必要とされる道徳性の育成にとって基本となる＞

- 自己を様々な社会集団や郷土、国家、国際社会とのかかわりの中でとらえ、国際社会に生きる日本人としての自覚に立ち、平和的で文化的な社会及び国家の成員として必要な道徳性の育成を図ることに関するものである。
- 人は、様々な社会集団の中で生きており、それぞれの社会集団の特徴や意義を理解するばかりでなく、社会集団の一員として生きるとはどういうことなのか、集団や社会をよくし、同時に自分を生かすにはどうすればよいかを考えることが必要である。

② 他の視点との関連

- 1, 2, 3, の各視点は、いずれも4の視点と相互に深い関連をもっている。人間は社会的な存在であり、一人一人が主体性をもった存在である。真の社会的な人間であるためには、自己の在り方を集団や社会とのかかわりの中で身に付けていくことが不可欠である。
- 社会集団における成員相互のかかわりを考えると、他の人とのかかわりに関することに挙げられている内容が基盤となり、集団や社会とのかかわりに関する内容に発展する。
- 人間存在と社会についての理解を深めるためには、自然や崇高なものとのかかわりに示されている内容が不可欠であり、それは、集団や社会における人間としての自覚をもたらし、社会や集団との主体的なかかわりを促進する原動力になる。

(2) 4の視点の指導の観点

① 道徳の時間での指導

道徳の時間は、各教科及び特別活動等の全教育活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によって、これを補充、深化、統合し、道徳的実践力を育成する時間である。したがって、4の視点の指導においても、各教育活動でどのような指導がなされているのかを把握し、道徳の時間において発展的に指導していくことが大切である。

- 4の視点の指導
 - ・ 子どもたちが自己を様々な社会集団や郷土、国家、国際社会とのかかわりでとらえ、国際社会に生きる人間としての生き方についての自覚を深めていくよう指導する必要がある。
 - ・ 特に、平和で文化的な社会及び国家の成員として必要な道徳性を育てることを中心とした指導が求められる。
- 年間指導計画の作成
 - ・ 道徳の内容が4つの視点から分類整理して示されている趣旨を理解し、内容相互の関連を考慮した指導や6年間を見通した発展的な指導が行えるようにすることが大切である。
 - ・ 特に、集団や社会の成員としての自覚は、学校行事や特色ある教育活動等での体験的な学習と大いに関係することから、季節や行事、各教科等での体験活動、日常生活での体験等の実態を踏まえて内容項目を適切に位置付けるように配慮することが大切である。

- 1つの内容項目にいくつかの道徳的価値が含まれている場合
 - ・ それぞれの内容項目が個別に示されていることの意味を理解し、関連的・発展的な指導を工夫し、集団や社会とのかかわりを主体的にもち、全体としてそれぞれの道徳的価値を自覚できるようにしていくことが求められる。
- 各時間の主題の構成
 - ・ 集団や社会の成員としての自覚を深め、主体的にかかわろうとする意欲や態度を育てることに留意してねらいを設定し、資料を選定する必要がある。
 - ・ 特に、資料の選択に当たっては、資料そのものが感動を与え、集団や社会とのかかわりで自己の在り方を深く考えることができるものであることが望まれる。
- 指導過程
 - ・ 資料を媒介として、感動や思いなどが共有できるように工夫するとともに、自分を集団や社会とのかかわりの中でとらえ、人間としての自覚を深めることができるように構成することが大切である。そのためには、資料の提示を工夫したり、発問を工夫したりして、一人一人の心の動きをとらえた展開の工夫が望まれる。
 - ・ 他の教育活動との関連を図った指導過程を組むことも重要である。

② 道徳の時間以外での指導

(i) 各教科での指導

- 各教科においては、それぞれの教科固有の目標や内容に基づく指導を充実させる過程で、道徳教育もあわせて行われ、各教科の具体的な学習活動を通して道徳的価値に気付くように、指導を工夫していくことが大切である。
 - ・ 国語科では、教材選択の観点に、国語科固有の観点とともに、4の視点に含まれる内容項目と直接関係する観点が示されている。
 - ・ 社会科では、様々な社会生活の場面で適切に判断し、自律的に責任ある行動をとることができる公民的資質は、すべて道徳性と密接にかかわっており、4の視点の指導は社会科における公民的資質の基礎を養う指導と関連を図ることによって充実したものとなる。
 - ・ 生活科では、具体的な活動や体験を通して身近な集団や社会と主体的にかかわる必要がある。そのことを通して4の視点に含まれる道徳性の育成が図られる。
 - ・ 家庭科では、特に家族愛や家庭愛に関する道徳性の育成と密接なかわりをもっている。
- 各教科における集団や社会に主体的にかかわり理解を深める指導内容と、4の視点に含まれる内容項目の道徳の時間における指導との関連を図りながら、指導を充実させることが求められる。

(ii) 特別活動及びその他の教育活動での指導

- 特別活動は望ましい集団活動を通して、なすことによって学ぶ教育活動であり、4の視点に示される道徳性は、そのような集団活動を通しておのずとはぐくまれる。
 - ・ 学級活動では、集団の中で自己を生かし、日常生活に必要な行動の仕方を身に付けるなど、健全な生活態度の育成にかかわる活動が行われる。
 - ・ 学校行事では、全校または学年を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動が行われる。
 (例) 学校行事・・・「遠足・集団宿泊の行事」では、人間関係などの集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができる活動
 「勤労生産・奉仕の行事」では、勤労の尊さや生産の喜びを体得するとともに、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるような活動
 学級内の活動だけでなく、学年全体の活動、異年齢集団による活動、他校との交流等広がりのある活動が、子どもの集団とのかかわりを広げていく。
 - ・ 特別活動における望ましい集団活動を通しての道徳性の育成と、道徳の時間の指導との関連を図ることが求められる。
 - ・ 地域での文化伝承のための活動や大人を交えたボランティア活動等の体験活動、地域の自然や文化についての調査研究的な活動や様々な集団活動は、子どもたちが集団や社会とのかかわりについて学習する重要な機会となる。

(iii) 日常生活での指導

- 子どもたちが学校という集団で日常的な生活を送る中で、様々な道徳的価値を学び、身に付けていくことは、4の視点に含まれる道徳的価値の実践でもある。
- 休み時間や放課後等は、子どもたちが自らの意志で自由に伸び伸びと生活できるように環境を整備し、支援していくことが大切である。
- 4の視点に含まれる道徳的価値は、家庭や地域社会においても大いにはぐくまれることから、家庭や地域社会の人々や社会教育機関等との連携を密にした指導が大切である。

學習指導案・資料

第2学年 道徳学習指導案

主題名 きまりをまもって

4－（1）公德心・規則の尊重

資料名 もう、やめよう

出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい 主人公がドッジボールをやめようした理由を〈叱られるから〉〈まわりの様子から〉〈きまりの大切さを考えて〉等に着目して捉えることで、みんなが気持ちよく生活するために、進んできまりを守ろうとする気持ちをはぐくむ。

主題設定の理由

（1）ねらいとする価値について

規則やきまりは、人々が社会生活を円滑に行っていくために、必要な事がらを定めたものである。したがって、社会的な秩序を維持していくためには、それを守っていくことに意義がある。

しかし、単に規則やきまりがあるから守るというのでは、将来、よりよい規則やきまりを作り、あるいは改善して、社会生活を円滑にしていこうとする態度は生まれてこない。規則やきまりの大切さを考え、守ろうとする態度を育てていくことが大切である。

（2）児童の実態

この時期の児童は、学校生活にも慣れ、集団での遊びができるようになる反面、集団活動や意識は、1年生の時の延長線上にあるので、自己中心性は依然として強い。また、決められた規則やきまりを、自分の都合のいいように解釈したり、守らなくてもたいしたことではないと軽く考えたりする姿も見られるようになる。

そこで、「自分さえよければいい」という自己中心的な考え方に流されず、「他人に迷惑をかけない」という考え方の大切さに気付かせ、進んできまりを守ろうとする意欲をもたせたい。

（3）資料について

本資料は、ドッジボールをととても楽しみにしていた主人公が、やっと回ってきたボールを投げようとしたときに、休み時間の終わりのチャイムが鳴り、迷った末に「もう、やめよう。」と声をかけるという話である。ボールを手にした主人公に、「早く、早く。」と促す友達の声に、迷いながらもその心を断ち切るように、きっぱりと「もう、やめよう。」と言う。まわりの状況を察し、遊びをやめた主人公の気持ちを考えることにより、きまりの意義やきまりを守ることの大切さに気付かせることに適した資料である。

指導について

導入では、資料を教師が読み聞かせた後、主人公の様子や場面を表す絵や言葉を板書に位置付けながら、あらすじをつかませる。外遊びが好きな子を中心に経験を語らせ、昼休みを待ち遠しく思うあき子の気持ちを感じ取らせる。

展開では、主人公がやっとドッジボールに加わり自分の手にボールが回ってきたところでチャイムが鳴り、そのうえ、友達からも「はやく投げて」と誘われ、ボールを投げようかどうしようかと迷う状況に目を向けさせる。その後、きっぱりと「もう、やめよう。」と言ったのはなぜかを考えさせることで、〈叱られるから〉〈まわりの様子から〉〈きまりの大切さを考えて〉等の観点から考えを出し合わせる。「まわりのみんながやめたからか。」という切り返しをすることで、ただ単に「きまりを守らないといけないから」という考え方ではなく、「チャイムの合図は、みんなで守らないといけなから」や「守らないと、みんなに迷惑をかける」という他者に対する視点から考えを深めさせたい。

終末では、学校生活の中で、きまりが守れたときの場面を想起させ、その時の気持ちを振り返らせる。その時の行動が、みんなのことを考えた行動であることに気付かせ、進んできまりを守ろうとする意欲をもたせたい。

学習指導過程

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入 10分	1 資料を読み、休み時間を楽しみにしているあき子の気持ちを考える。	○ 学校のきまりにふれた後、資料を読み聞かせながら、あらすじを理解させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">やっとボールがまわってきた時、あき子は、どんな気持ちだったのかな。</div> ● 朝からドッジボールを楽しみにしていたあき子の気持ちを感じ取らせる。	◆ ドッジボールを楽しみにしているあき子の気持ちに共感しているか。
展開 25分	2 あき子が、「もう、やめよう。」と言ったわけを考える。 3 きまりを守ることの大切さについて考える。	○ ボールを投げたいというあき子の気持ちの高まりをおさえた後、課題を位置付ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">あき子が、「もう、やめよう。」と言ったのは、なぜか。</div> ● 子どもの発言を整理し、わかりやすく板書する。 〈しかられるから〉 ・先生にしかられるから ・チャイムの合図をまもるように言われているから 〈まわりのようすから〉 ・ほうそうでお知らせがあったから ・まわりのみんながやめたから 〈きまりの大切さを考えて〉 ・みんなあそびたいのをがまんしているから ・自分たちだけあそぶのはわるいから ・そうじにおくれてめいわくをかけるから ● 単に「きまりだから」と発言する子については、その根拠を語らせるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">あき子が「もう、やめよう。」と言ったのは、まわりのみんながやめたからかな。</div> ○ <みんなに迷惑をかける>という他者に対する視点から、なぜ「きまり」を守らなければならないのかについての考えを深めさせる。 ● あき子が「考えてからきっぱりと言った」時の様子から、他者を意識した視点で「きまり」を守ることの大切さに気付かせる。	◆ 「やめよう」と言ったあき子の気持ちに寄り添って考えているか。 ◆ きまりを守ることの大切さの視点でも考えているか。
終末 10分	4 友だちの経験を聞き、自分の生活を振り返る。	○ 導入段階であげられたいくつかのきまりについて、ふりかえらせながら、守れた子にその時の気持ちを聞く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">どんな気持ちできまりをまもったのかな。</div> ● 学校生活の中で、きまりが守れた経験を想起させ、「どんな気持ちで守れたのか」を聞き、みんなのことを考えた行動であることを感じ取らせるようにする。 ● 友だちの発言を聞き、自分たちの生活の中のきまりを進んで守ろうとする意欲をもたせる。	◆ 自分や友だちの経験から、きまりを守って生活したいと考えているか。

もう、やめよう

このころ、あき子さんたちのクラスでは、ドッジボールが 人気です。あきさんも、少しずつ ボールが とれるようになってきて ドッジボールが すきになってきました。それで、朝から 昼休みを 楽しみにしていたのです。でも、今週は きゅう食当番なので 食きをはこばなければなりません。

きゅう食当番の しごとが おわり、いそいで うんどう場に行くと、みんなは ぶちゆうになって ドッジボールを しているところでした。

「いれて。」

あきさんの声に たつやくんが

「いよ。あきちちゃん 早くおいで。ぼくたちのチームだよ。」

と さそつてくれました。

「ありがとう。」

あきさんは、うれしそうに コートに入りました。



ところが、やつと入れたのに、きょうに かぎつて あきさんに ボールがまわつてきません。

(あ、早く なげたいなあ。このままだと 休み時間が おわつちやうよ。)

気もばかりが あせります。

その時、ちやうど あきさんの前に ボールがころがつてきました。

「ようし、いくよ。」

あきさんが ボールを ひろい上げたとき、休み時間がおわるチャイムが になりました。

(これをなげたら おわりにしよう。)

そう思ったとき、ほうそうが 聞こえました。



「休み時間が おわりました。あそびをやめて、いそいで そうじくいきに 行きましょう。」

まわりで あそんでいた人たちが、つきつぎに 教室にむかっています。

「あきちちゃん、早く 早く。」

「きりのいい ところまで やろうよ。」

外野にいる はるかさんとたつやさんが 手をふつて います。

あきさんは、ちよつと考えてから きつぱりと言 いました。

「もう、やめよう。」

板書計画

もう、やめよう

ドッジボール

- ・あさから楽しみ
- ・やつとボールがまわってきた

- ・先生にしかられるから
- ・チャイムの合図をまもるように言われているから

- ・ほうそうでお知らせがあつたから
- ・まわりのみんながやめたから

- ・みんなあそびたいのをがまんしているから
- ・自分たちだけあそぶのはわるいから
- ・そうじにおくれてめいわくをかけるから

あき子が、「もう、やめよう。」と言ったのは、なぜか。

<きまりの大切さから> <まわりのようすから> <しかられるから>

あき子が「もう、やめよう。」と言ったのは、まわりのみんながやめたからかな。

- ・あそびたい気もちは、みんな同じだよ
- ・みんな、チャイムの合図をまもっているよ
- ・そうじにおくると、みんながこまるよ
- ・まじめにそうじをしている人にも、わるいよ

どんな気もちで、きまりをまもったのかな。

ろうか

トイレのスリッパ

ぶつかると、あぶないよ

つぎの人が、はきやすいよ



道徳の時間の指導内容

4－(1) 「公德心・規則の尊重」との関連

月	主題名	資料名	内容項目	出典
4	進んできれいに	こうえんの花	4－(1) 公德心・規則の尊重	東書
6	きまりをまもる力	くろぶたのしっばい	4－(1) 公德心・規則の尊重	光文
10	きまりをまもって	もう、やめよう	4－(1) 公德心・規則の尊重	市道徳
11	みんなのものを大切に	きいろいベンチ	4－(1) 公德心・規則の尊重	東書
3	きれいにすると気もちがいい	おとす人、ひろう人	4－(1) 公德心・規則の尊重	光文
「小学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連			各教科等との関連	
P. 20～23	ごちそうさまのあとで		<ul style="list-style-type: none"> ○お話のさくしゃになろう ○おにごっこ ○時こくと時間 ○学級のきまりを考えよう ○学級文庫の使い方 	国語 国語 算数 特活等 特活等

「私たちの道徳」との関連

P. 118～127 やくそくやきまりをまもって

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統

4－(1) 「公德心・規則の尊重」

小学校第1学年及び第2学年	4－(1) 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にします。
小学校第3学年及び第4学年	4－(1) 約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ。
小学校第5学年及び第6学年	4－(1) 公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす。
中学校	4－(1) 法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める。 4－(2) 公德心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。

第3学年 道徳学習指導案

主題名 大切な家族

4－(3) 家族愛

資料名 おかあさんのたからもの

出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい 主人公が母親の話聞いて(ごめんなさい・・・)とつぶやいた時の気持ちを<自分の行為に対する反省><妹に対する同情><母親の愛情を感じての喜び>などに着目して捉えることで、父母への敬愛の念を深め、家族の一員として協力しようとする態度をはぐくむ。

主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

家族は、日常生活の中で、常にかかわり合い、密接なつながりを持っている。それゆえに身近すぎてその大切さ、ありがたさに気付かないこともある。特に父母から受ける愛情は、ともすると当たり前のように思われ、感謝や尊敬の念を忘れてしまいがちになる。自分の家族をきちんと見つめなおすことで、父母の愛情を再確認し、あらためて敬愛の念を抱くことができるであろう。さらに、家族が楽しく生活するためには、自分も家族の一員として協力していくことが大切であることにも気付かせたい。

(2) 児童の実態

この時期の児童は、他者とのかかわりについて、少しずつ深く考えることができるようになってくる。反面、家族に対し反抗的な態度を思わずとってしまう時期でもあり、家族のよさやありがたが見えにくくなることもある。そこで、自分の家族についてあらためて見つめ直し、父母の愛情を再確認することで、敬愛の念を深めるとともに、自分の役割について考えるようにさせたい。

(3) 資料について

本資料は、朝の急いでいる時に、妹のお世話ばかりして自分のことを構ってくれない母親に腹を立て何も言わずに学校に出かけた主人公が、帰って来て知った出来事や母親の話聞いたことで、自分の態度を振り返り考えるという内容である。主人公のちょっとした妹への嫉妬や親に対する不満の気持ちには、児童も共感できるであろう。そこで、母親の自分に対する思いを知って、(ごめんなさい・・・)と心の中でつぶやいた主人公の気持ちに寄り添って考えることを通して、父母への敬愛の念や家族の一員としての役割について考えさせることに適した資料である。

指導について

導入では、「家族がいてよかったと思う体験」を子どもに出させることにより、家族で生活する楽しさや家族に助けられていることを感じ取らせ、日頃あまり意識していない家族のよさに目を向けさせる。展開では、資料の内容をおさえる中で、主人公が妹のことばかりで自分のことに構ってくれない母親に腹を立てている気持ちに共感させる。そこで、「ゆきちゃんが心の中で(ごめんなさい・・・)とそっとつぶやいたのはなぜか。」と問い、<自分の行為に対する反省><妹に対する同情><母親の愛情を感じての喜び>等の視点に分けて整理して板書する。出された意見は否定せず受け止めた上で、「ゆきちゃんはお母さんの話を聞いて、どんな気持ちになったのか。」と問い返し、「あたたかい気持ち」の中身を深く考えさせる。そして、母親に愛されていることを感じた喜びが反省につながっていることに気付かせ、母親に対する敬愛の念を感じ取らせていきたい。

終末において、これから家族のためにしたいことを考えることにより、自分が家族にとって大切な存在であることを意識させ、家族の一員として協力しようとする態度の育成を図りたい。

学習指導過程

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入 10分	1 家族がいてよかったと思う体験を話す。	○ 自分の体験を話したり友だちの体験を聞いたりすることにより、日頃あまり意識していない家族のよさを感じ取らせる。 家族がいてよかったと思うことを出し合おう。 ● 家族で生活する中での楽しさや助けられていることなどの体験とそのときの気持ちを出し合わせる。	◆ 家族がいてよかったと思う体験を振り返って考えたり話したりしているか。
展開 25分	2 心の中で、そつと（ごめんなさい・・・）とつぶやいたときのゆきちゃんの気持ちを考える。 3 お母さんの話を聞いた後のゆきちゃんの気持ちを考える。	○ 資料を範読した後、主人公が心の中で謝ったわけを考える。 ● 朝の出かける支度をしている時に、妹のことばかりで自分のことに構ってくれない母親に腹を立て、何も言わずにうちを出た主人公の気持ちに共感できたところで、課題を位置付ける。 ゆきちゃんが心の中で（ごめんなさい・・・）とそつとつぶやいたのはなぜか。 ○ 主人公が、学校から帰って来て知った出来事や母親の話聞いたことで、自分の家族に対する態度を振り返り反省している気持ちを考えさせる。 ● <自分の行為に対する反省><妹に対する同情><母親の愛情を感じての喜び>など考えの違いが明確になるよう、板書に位置付ける。 <お母さんに悪いことをした> ・「いってきます。」も言わずにうちを出た ・大変そうなお母さんに腹を立てた <妹がかawaiiそう> ・朝から元気がなかったのに気付かなかった ・「ともちゃんのことばかり」と思った <自分もお母さんに愛されているとわかった> ・自分が熱を出した時も心配してくれて、つきっきりで看病してくれた ・自分の成長を喜んでくれている ・自分もお母さんのたからものと言ってくれた ● 自分の行為に対する反省や妹に対する同情には共感しやすいと考えられることから、次の問いを位置付け、母親の愛情を感じての喜びの視点からも考えを深めさせる。 ゆきちゃんは、お母さんの話を聞いて、どんな気持ちになったのか。 ○ 「心がぼつとあたたかくなった」わけをそのときの気持ちと結びつけて深く考えさせることにより、母親に愛されていることを感じた喜びが、反省につながっていることに気付かせる。	◆ 主人公が（ごめんなさい・・・）とつぶやいたわけを、自分の行為に対する反省や妹に対する同情からだけでなく、母親の愛情を感じての喜びの視点でも考えているか。 ◆ 「心がぼつとあたたかくなった」ときの気持ちを母親に愛されていることを感じた喜びにつなげて、考えているか。
終末 10分	4 家族のために自分にできることを考える。	○ 家族のために妹のお世話をしようとする主人公とそれを喜ぶ母親の姿を押さえ、自分も家族のためにしたいことを考えさせる。 これから家族のためにしたいと思うことはどんなことか。 ● 導入段階における学習活動で出し合った家族で生活する楽しさや助けてもらっていることの体験を元に、今度は自分が家族を楽しませたり助けたりできそうなことを考えさせる。 ● 自分が家族の一員としての大切な存在であることを感じ取らせる。	◆ 自分が家族の一員として大切な存在であることを感じながら、家族のためにしたいと思うことを考えているか。

おかあさんのたからもの

月曜日の朝、ゆきちゃんは、大いそぎで学校のにもつをよういしていました。

「おかあさん、わたしのたいそうふくは？」

ゆきちゃんは、大声で、おかあさんにたずねました。でも、おかあさんのへんじは、ありません。しかたなく、ゆきちゃんは、おかあさんのいる台どころに、聞きに行きました。

見ると、おかあさんは、妹のともちゃんのミルクをつくっているところでした。

「おかあさんつてば、わたしのたいそうふくは？」

「たんすのいちばん上のひき出しにあるでしょ。お姉ちゃんなんだから、そのくらい自分で出してよ。」

おかあさんは、そう言つて、いすにすわり、ともちゃんにミルクをのませはじめました。

(もう、わたしがこんなにいそいでいるのに。いつも、おかあさんは、ともちゃんのことばかり。たまには、ともちゃんより、わたしのことをしてくれてもいいじゃない。)

ゆきちゃんは、くやしくて、そのあと「いつきます。」も言わずに、うちを出ました。

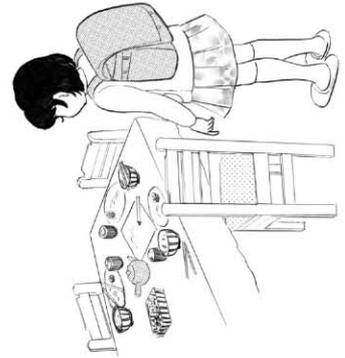
ゆきちゃんが、学校から帰ると、うちにはかぎがかかっていた。何かあったときのためにもつていたかぎをランドセルからとり出して、おうちにはいりました。台どころは、朝ごはんの時のままで、かたづけもしていませんでした。そして、テーブルの上に

「ゆきちゃん、おかえりなさい。ともちゃんがねつを出したので、びょういんに行つて来ます。おるすばんして、まつていてね。おかあさんより。」

と言いた手紙がおかれていました。

(おかあさん、あわててびょういんに行つたのかな。そういえば、ともちゃん、朝から元気がなかつたみたいだつたなあ。。。)

ゆきちゃんは、おかあさんとともちゃんが、帰つてくるまで、おちつかない気もちでした。



夕方おそくに、やつと、おかあさんが帰つて来ました。

「おかあさん、ともちゃんのぐあい、どう？」

すると、おかあさんは、ゆきちゃんのかたをだきよせながら、言いました。

「ひとりで、おるすばんしてくれて、ありがとう。一人できみしかつたでしょう。でも、もうだいじょうぶよ。あかちゃんは、きゆうにねつを出すことがよくあるの。ゆきちゃんも、そうだったわ。でも、ゆきちゃんときは、おかあさんもなれていなかったから、心ばいで心ばいで、ひとばん中、つきつきりでみていたものよ。それが、いまでは、すっかり大きくなって。ゆきちゃんも、ともちゃんも、おかあさんのたからものよ。」

それを聞いて、ゆきちゃんは、なんだか、心がぼつとあたたかくなりました。そして、心の中で、そつと(ごめんなさい。。。)とつぶやきました。

「おかあさん、夕ごはんのしたくが、あるんですよ。わたしがともちゃんのこと、みておくからね。」と、ゆきちゃんが言うと、おかあさんは、うれしそうに、にっこりわらいました。



板書計画



これから、家づくのためにしたいと思うことはどんなことか

- ・妹や弟のお世わをする
- ・ごはんのよういをしてつたう

ゆきちちゃんは、お母さんの話を聞いてどんな気持ちになったのか。

- ・とても、うれしかった
- ・お母さんの気もちがつたわってきて、心があたたかくなった
- ・自分も妹も同じようにあいしてくれているとわかった

お母さんね

- ・「いってきます。」も言わずにうちを出た
- ・たいへんそうなお母さんにはらを立てた

お母さん

- ・朝から元気がなかったのに気づかず、何もしてあげなかった
- ・「ともちゃんのことばかり。」とはらを立てた

やさいさん

- ・自分がねつを出した時も心ばいしてくれて、つきつきりでかんびようしてくれて
- ・自分が大きくなったことをよるこんでくれている
- ・自分もお母さんのたからものと言ってくれた

おかあさんのたからもの

家づくがいてよかったと思うこと

- ・話を聞いてくれる
- ・ごはんを作ってくれる
- ・いるものを買ってくれる
- ・いっしょにごはんを食べられる
- ・おふろに入ったりできる
- ・みんなで出かける
- ・さみしくない
- ・お世わをしてくれる
- ・おふろに入ったりできる

ゆきちちゃんが心の中で「こめんない...。」とつぶやいたのは、なぜか。

道徳の時間の指導内容

4 - (3) 「家族愛」との関連

月	主題名	資料名	内容項目	出典
6	ささえ合う家族	おじいさんとぼく	4 - (3) 家族愛	光文
7	大切な家族	おかあさんのたからもの	4 - (3) 家族愛	市道徳
11	温かい家族	ぼくのおばあちゃん	4 - (3) 家族愛	東書
12	家族への思いやり	お母さん、かぜでねこむ	4 - (3) 家族愛	光文
3	明るい家族	耳の聞こえないお母さんへ	4 - (3) 家族愛	東書
「小学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連			各教科等との関連	
P. 60~63	妙見山のちかい -岩崎弥太郎-		<ul style="list-style-type: none"> ○ちいちゃんのかげおくり ○モチモチの木 ○夏休みの過ごし方 ○体の成長 	国語 国語 特活等 特活等

「私たちの道徳」との関連

P. 136~145 家族みんなで協力し合って

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統

4 - (3) 「家族愛」

小学校第1学年及び第2学年	4 - (3) 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。
小学校第3学年及び第4学年	4 - (3) 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくる。
小学校第5学年及び第6学年	4 - (5) 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをする。
中学校	4 - (6) 父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。

第4学年 道徳学習指導案

主題名 郷土を愛する心

4 - (5) 郷土愛

資料名 祭りばやし

出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい

主人公がまつりばやしをかなでながらほこらしく思えた時の気持ちを、＜自分自身への賞賛＞＜地域への賞賛＞＜地域の伝統行事の大切さ＞などに着目して捉えることで、自分の地域の伝統や行事に興味を持ち、積極的に関わろうとする態度をやしなう。

主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

郷土は、自分の生まれ育ったところであり、自己の形成にさまざまな影響を与え、生涯にわたっての精神的な支えとなるものである。郷土には、長い歴史と伝統に基づく行事や祭りがあり、それらを支える人々がいる。地域の人々や生活、文化、伝統に親しみ大切にすることを通して、郷土を愛する心を育てることが必要である。子どもたちがそれらの地域の行事に参加し、伝統にふれる活動を行うことにより、自ずと郷土を愛する気持ちが心の中に生まれると考えられる。

(2) 児童の実態

この時期の児童は、生活範囲が家庭から学校、地域へと広がり、地域の人々、自然、文化にふれるなどの機会も増えてくる。そのため、子どもたちには地域の行事や活動に興味を持ち積極的にかかわろうとする態度も求められる。そこで、地域の伝統行事のよさや意義を理解し、自分も地域の一員であるという所属感を感じさせることにより、地域行事に積極的にかかわろうとする態度を養いたい。

(3) 資料について

本資料は、祭りばやしの練習をめんどくさがっていた主人公が、伝統を重んじた隣町のお神楽や地域の文化を受け継いでいこうとする上級生の姿にふれ、伝統の祭りの大切さや地域の一員として参加する喜びを感じると同時に、地域がほめられることによって、自分たちの伝統を誇りに思うという内容である。「ほこらしい気持ちになった」のは、自分ではなく地域がほめられていることから生まれたものであるということに視点をあてて考えさせることにより、自分たちの地域の伝統や行事に興味を持ち、積極的にかかわろうとする態度をはぐくむのに適した資料である。

指導について

導入では、自分たちの地域の行事について知っていることを出し合わせるにより、地域での身近な行事について興味を持たせる。

展開では、資料を読みあらすじをおさえる中で、いやいや練習をやっていた主人公が、お祭りではほこらしい気持ちになっているという気持ちの変化を板書等を活用して確認する。その後、「いやいや練習していたいところが、ほこらしい気持ちになったのはなぜか。」と問い、そのわけを＜自分自身への賞賛＞＜地域への賞賛＞＜地域の伝統行事の大切さ＞の3つの視点で整理し板書する。＜自分自身への賞賛＞は資料や自分自身の体験から多くの意見が出されると考えられる。＜地域への賞賛＞については、「だれがほめられたのか。」等の補助発問により深めていく。また、お神楽の見学、6年生の話し合いという出来事から感じた＜地域の伝統行事の大切さ＞については、「ばちをにぎる手に力をこめた時、いちろうはどんなことを考えていたのかな。」と問い、主人公の自信や決心からくる伝統行事に対する思いとその意義について関連付けて考えさせる。

終末段階では、地域行事に参加した経験をもとに、地域行事が行われる意義の視点で楽しかったこと、満足感等を発表させ、地域の活動へ参加することへの意欲付けを図りたい。

学習指導過程

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入 5分	1 自分の地域の行事や伝統には、どんなものがあるか考える。	<p>自分たちの地域には、どんな行事があるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の地域の行事や伝統について知っていることを出し合わせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・神社の祭り ・おせったい ・ボウリング大会 ・花見 ・ぼんおどり ● 事前に地域の行事について、つかんでおく。 	◆ 自分の地域の行事を振り返り知っていることを話しているか。
展開 30分	2 資料を読んで、いちろうがほこらしい気持ちになったわけを考える。 3 ばちをにぎる手に力をこめた時、いちろうが考えていたことを出し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を範読し、あらすじを確認する中で、はじめはいちろうが祭りばやしの練習をいやいややっていたことをおさえておく。 <p>いやいや練習していたいちろうが、ほこらしい気持ちになったのはなぜか。</p> ○ めんどくさいと思っていたいちろうが、ほこらしい気持ちになれたわけを考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ● <自分自身への賞賛><地域への賞賛><地域の伝統行事の大切さ>の3つの視点で出させ、板書に位置づける。 <p>《自分自身への賞賛》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おはやしがうまくなったから ・いろいろな人にはげまされたから ・みんなが楽しみにしているから ・お祭りでほめられたから <p>《地域への賞賛》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のお祭りがほめられたから ・みんなでがんばってきたから <p>《地域行事の大切さ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お神楽を見て受け継ぐことの大切さを感じたから ・地域の一員としてがんばれたから ・6年生の話し合いなどみんなと協力できたから ● 「ほめられた」のはだれかを考えさせ、自分ではなく、地域だということに気付かせる。 ● <地域への賞賛>として感じていたわけを大切さの視点へと深めるため次の問いを位置付ける。 <p>ばちをにぎる手に力をこめた時、いちろうはどんなことを考えていたのか。</p> ○ ばちを握る手に力をこめた時のいちろうの考えていたことを、そのときのいちろうの自信や決心と関連付けて考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域のためにがんばる ・伝統を伝える ・みんなで協力する ・みんなを喜ばせる 	◆ いちろうがほこらしい気持ちになったわけを、3つの視点で考えながら話し合っているか。 ◆ 地域行事がなぜ大切なのかをいちろうの行動と関連させて考えているか。
終末 10分	4 自分たちの地域の行事や伝統にどのように参加しているか見つめ直す。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1活で出た行事について、それぞれどんなことをしているか参加している子どもに話をさせる。 <p>地域の行事に参加して、どんなことを感じたか。</p> ● 自分たちの行事や伝統に参加して、楽しかったことや満足感等の気持ちをだしさせ、今後の地域での活動への意欲につなげる。 	◆ これからの行事に参加しようという気持ちをもっているか。

祭りばやし

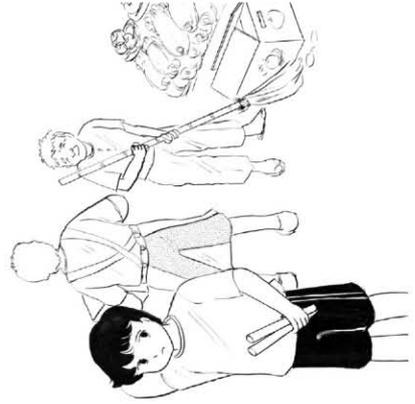
毎年、九月になると、いつもは、しずかなこの地いきの神社が、たくさんの人々でいっぱいになる。秋祭りがあるからだ。たくさんのお店、おはやしの音。いつもひっそりとしている神社が、にぎやかなすがたにかわる。

おはやしのけいこは、夏休みの暑い時から始まる。妹は、はじめでさんかするのではりきっている。でも、ぼくは、ちよつとめんどうくさくなっていた。

「お父さん、ことしも祭りばやしの練習があるの？」

見たいテレビ番組のこと、宿題のこと。ぼくは、お父さんにぐちをこぼす。

でも、お父さんは、ぼくがどんなぐちを言ってもにこにこしながら、「当たり前だ、いちろう。」と、言うだけ。そばで聞いているおじいさんもうなずいているだけ。仕方なくぼくは、毎日暗い気持ちで練習に通った。



お祭りを二週間後にひかえた練習の日。その日もあいかわらず、暗い気持ちでおはやしのたいこをたたいていた。練習が終わると、ぼくの様子を見ていた父が、となりの町のおかぐらを見に行こうと言い出した。とつぜんのさそいに少しとまどつたが、めずらしさもあつていつしよに行くことにした。しばらく車で走ると林の中の小さな神社についた。

神社にひびきわたるかねの音、面を付けたおどり手の力強く床をふみしめる音。

「何やつてる。動きを大きく。」

お年よりのきびしい声がとぶ。それにこたえようとさらに大きくまう。そのはく力に言葉がでなかった。お父さんが

「この地いきに昔からあるおかぐらで、長い間、みんなで受けつがれてきたものらしい。」と教えてくれた。ふと自分の神社のお祭りのことが頭にうかんだ。

ある日、練習に行くと、先に来ていた六年生が集まって何かをしんげんに話し合っていた。

「ここはたいこを強くたたこう。」

「むずかしいところは、六年生が中心になつてたたくことにしよう。」

「初めて参加する三年生にも教えよう。」

おはやしを教えてくれるおじいちゃんも

「わからないところは、わたしが教えるよ。先ほいも手伝いにくるといつてたぞ。」

と言った。

この様子を見て、ぼくは、おかぐらを見に行つた時の父の言葉を思い出した。

「受けつがれてきたものか……。」



いよいよおはやしの行列が始まる。いろいろな地区のみんながじゅんびをして集まり、出発の時間を待っている。いろいろな人にはげまされて、たいこもうまくなった。

「いちろう、祭りをもりあげような。」

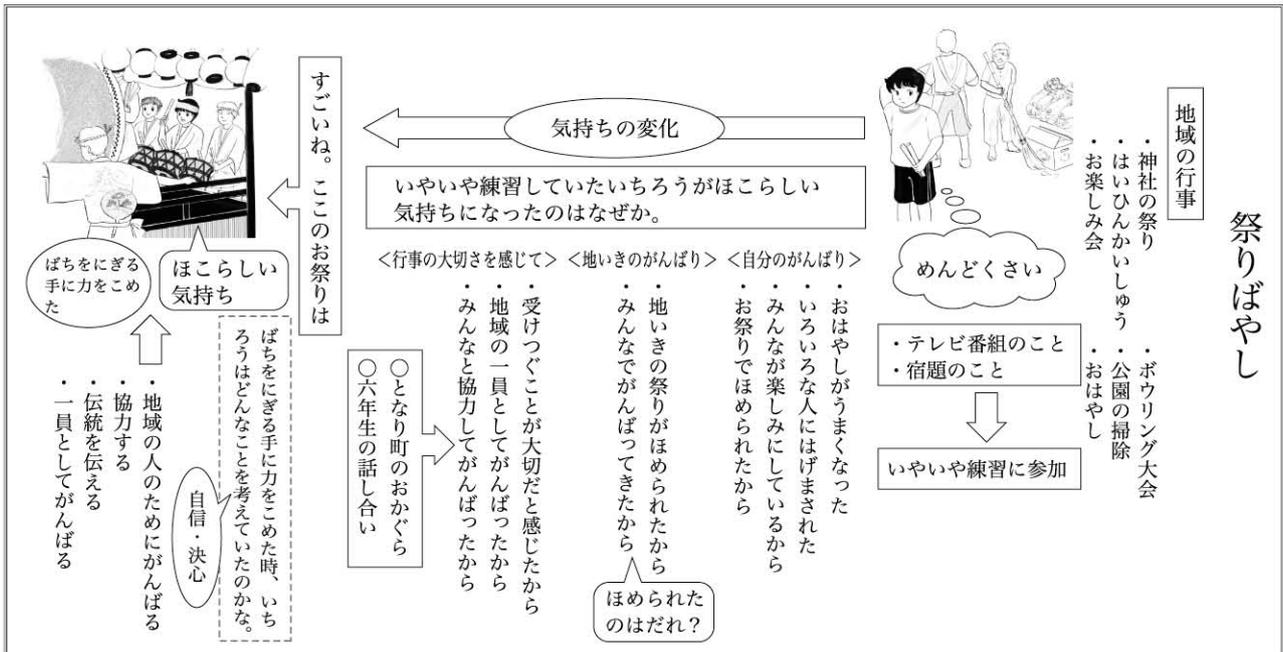
父がにっこりわらつた。

さあ、ぼくたちの地区の出番だ。ぼくは、祭りばやしをかなでながら、神社までの道のりを歩いた。集まつた人々から、

「すごいね。ここのお祭りは。」

という声が聞こえてきた。ぼくは、ほこらしい気持ちになり、ばちをにぎる手に力をこめた。

板書計画



道徳の時間の指導内容

4 - (5) 「郷土愛」との関連

月	主題名	資料名	内容項目	出典
5	ふるさとを大切に	ほたるが飛ぶ森	4 - (5) 郷土愛	光村
6	大きな根っこのある町にしたい	新しい町・ぼくたちの町	4 - (5) 郷土愛	光文
7	郷土を愛する心	祭りばやし	4 - (5) 郷土愛	市道徳
9	ふるさととのよさを見つけよう	郷土の祭りや行事	4 - (5) 郷土愛	光文
3	ふるさとを愛する心	ふるさとを守った大イチョウ	4 - (5) 郷土愛	東書
「小学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連			各教科等との関連	
・掲載例なし			○地域と人々のくらし ○日本の音楽に親しもう ○きょう土の歴史はっけん ○地域の清掃活動	社会 音楽 総学 特活等

「私たちの道徳」との関連

P. 158~163 きょう土を愛する心をもって

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統 4 - (5) 「郷土愛」

小学校第1学年及び第2学年	4 - (5) 郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ。
小学校第3学年及び第4学年	4 - (5) 郷土の伝統と文化を大切に、郷土を愛する心をもつ。
小学校第5学年及び第6学年	4 - (7) 郷土や我が国の伝統と文化を大切に、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。
中学校	4 - (8) 地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土発展に努める。
	4 - (9) 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。

第5学年 道徳学習指導案

主題名 自分にできること 4－(4) 社会奉仕

資料名 忘れられない演奏会 出典 大分市教師用道徳指導資料集編集委員会 作

ねらい 「また演奏会に出させてください」と思うようになった主人公の気持ちを〈自分が演奏できた満足感〉〈仲間と演奏できた満足感〉〈みんなが喜んでくれた満足感〉などに着目して捉えることで、誰かのために何かをすることが自分の喜びにもつながることに気付かせ、社会に役立つことを実践しようとする態度を育てる。

主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

みんなのために役立つと活動することにより、みんなが喜んでくれるという結果が生まれる。しかし、その喜びは与えるだけの喜びではない。社会への奉仕活動は、社会に役立つだけでなく、その活動を通して得られる喜びが、自分自身の生き方を豊かにすることに気付かせ、社会に奉仕する心構えを育てることが大切である。

(2) 児童の実態

この時期の児童は、教科の学習をはじめ、委員会活動、学校行事、地域の行事などを通して奉仕的な活動を経験する場が増えてくる。しかし、活動の内容によっては、進んで取り組もうとしなかったり、長続きしなかったりする。そこで、公共のために役立つ活動が自分の喜びにもなることに気付かせることにより、社会に役立つことに積極的に取り組もうとする意欲をもたせたい。

(3) 資料について

本資料は、ピアノの先生に頼まれ、不安ながらも老人ホームでの演奏会に参加した主人公が、仕事や家事に追われながらも熱心に練習する大人たちの姿や、涙を流したり手拍子をしたりして楽しんでいるお年よりの姿に接し、また演奏会に出たいと思うようになった心の動きを描写している。はじめは、(みんな、何でこんなにまでして続けているんだろう。)と疑問に思っていた主人公が、また演奏会に出させてほしいと思うようになった理由を考えさせることを通し、社会に奉仕しようとする意欲や態度をはぐくむことに適した資料である。

指導について

導入では、「自分がしたこと、感謝されたことはあるか。」と問い、身近な家族、友だちから感謝された経験を発表させ、その人がうれしかったことを認めながら資料につなげる。

資料を読み、あらすじをつかませる中で、主人公が(みんな、何でこんなにまでして続けているんだろう。)と疑問に思っていたことを押さえる。そのうえで、「ぼくが、『また演奏会に出させてください。』とお願いしたのはなぜか。」と問い、〈自分が演奏できた満足感〉〈仲間と演奏できた満足感〉〈みんなが喜んでくれた満足感〉に着目させ、主人公の気持ちが変わった理由を考えさせる。みんなが喜んでくれたからという考えが多く出されると思われるので、みんなが喜んでくれる活動のすばらしさに十分ふれさせたあとで、「喜んでいる人は他にいないか。」と問い、人の役に立ったことが自分の喜びとなり、その喜びが意欲的に取り組もうと思ったことにつながったことに気付かせる。

終末では、「自分にできることはないか。」と投げかけ、自分の生活の中で、みんなや社会のために役立つことを実践しようとする意欲を高めていく。

学習指導過程

過程	学習活動	指導及び留意点	評価の視点
導入 10分	1 感謝された経験を発表する。	○ 自分がしたことで、感謝されたことを発表させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分がしたことで、感謝されたことはあるか。</div> ● 身近な家族、友だちから感謝された例が考えられるので、その人がうれしかったことを認めながら資料につなげる。	◆ 感謝された喜びを感じながら、聞いたり話したりしているか。
展開 25分	2 「また演奏会に出させてください。」とお願いしたわけを話し合う。 3 ぼく自身の喜びについて考える。	○ 資料を読ませ、また演奏会に出たいと思ったぼくの気持ちに迫らせる。 ● 場面の様子がわかるように挿絵を板書に位置付けながら、あらすじを押さえる。 ○ (みんな、何でこんなにまでして続けているんだろう。)と 思っていたぼくが、「また出させてください。」とお願いした わけを考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ぼくが、「また演奏会に出させてください。」とお願い したのはなぜか。</div> <自分が演奏できた満足感> ・演奏できてうれしかったから ・楽しい思い出になったから <仲間と演奏できた満足感> ・大人の演奏に感動したから ・また一緒に演奏したいと思ったから <みんなが喜んでくれた満足感> ・お年よりが喜んでくれてたから ・聞いている人みんなが喜んでくれたから ○ <みんなが喜んでくれた満足感>という視点からの考えが多 く出されると思われるので、みんなが喜んでくれる活動のすば らしさに十分ふれさせたあとで、誰かの役に立てたぼく自身の 喜びに目を向けさせるように、次の発問をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">喜んでいる人は他にいないか。</div> <自分が役に立った喜び> ・喜んでくれる人がいることが自分の喜びになる ・みんなの役に立つことがうれしくて楽しい ● 「ぼくこそ、ありがとうございました。」と言ったぼくの気 持ちを考えさせたり、導入の感謝された経験とつなげて考えさ せたりすることで、ぼく自身も喜びを感じ、意欲的に行動しよ うとしていることに気付かせる。	◆ ぼくがまた演奏会に出たいと思ったわけを、ぼくの満足感や喜び、自分の体験と重ねて捉えているか。
終末 10分	4 自分にできることを考える。	○ 自分の生活を振り返り、「みんなのためにできること」を考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分にできることはないか。</div> ・低学年と遊ぶ(遊びを教える) ・読み聞かせ ・ぞうきんを作ってプレゼントする ● 「私たちの道徳」(社会のために力をつくす P.154~155)を利用することもできる。	◆ みんなの役に立つことをしようとしているか。

忘れられない演奏会

「かず君、老人ホームで演奏してみない。」

ピアノ教室での練習が終わったあと、突然、先生が言ってきた。先生は、音楽が好きな人たちと一緒に、月に一度、公民館や福祉施設で演奏活動を行っているそうだ。今度、老人ホームで演奏会をすることになり、子どもたちと一緒に何曲か演奏することになったらしい。

(ぼくで大丈夫なのかな。)

不安になっていると、先生が、

「かず君なら大丈夫よ。それに、ピアノ教室の何人かの子どもたちにも声をかけているの。どう、やってみないかな。」

ぼくは、あまり自信はなかったが、引き受けることにした。

ぼくたち子どもだけの演奏は一曲だけで、練習は週に一回、ピアノ教室終了後に七時ころまで行っていた。そのあと大人の練習が始まるのだが、演奏会の前一週間は、毎日夜七時から一時間だけ子どもと大人の合同練習があった。しかし、七時になっても全員がそろうことはあまりない。小さい子どもに夕ごはんを食べさせてから来る人。仕事の空き時間を利用して三十分くらい練習し、また仕事にもどる人。その他にも、仕事や家の都合をつけてかけつけてくる人たちがいる。

演奏会の二日前のこと、八時になったので、ぼくたち子どもは片付けを始めた。

その時、

「こんばんは。ごめんね、遅れちゃって。」

と言いながら、後藤さんが入ってきた。すると、同じ楽器の人たちが、いやな顔ひとつせず後藤さんを迎え、一緒に音合わせを始めたのだ。

(みんな、なんでこんなにまでして続けているんだろう。)

と思いながら、ぼくは部屋を出た。



いよいよ演奏会当日。会場には、お年よりだけでなく、職員や家族の人たちがたくさん集まっていた。まずは、ぼくたち子どもだけの演奏だった。緊張したので何度か間違いもあったが、何とか無事に終わってほっとした。二曲目は、大人の演奏だった。始まった瞬間、ぼくは鳥肌が立った。ぼくたちとは全く違い、みんなの音が一つになって気持ちよく体中に響いてきた。みんな真剣な表情で演奏している。会場のだれもが聞き入っていた。そして、「赤とんぼ」の演奏が始まった。ハンカチで目頭をおさえながら大きくうなずいているおばあさんや、車椅子にこしかけたまま大きく体をゆすつているおじいさんもいた。

最後に、子どもと大人と一緒に演奏し、全員で歌った。会場は何とも言えない感動につつまれていた。



演奏会が終わったとき、一人のおばあさんがぼくに近づいてきた。

「何年生？うちの孫と同じくらいかねえ。とても楽しかったよ。ありがとうね。」

と声をかけられた。ぼくは思わず、

「ぼくこそ、ありがとうございます。」

と大きな声で頭を下げた。

楽器の片付けをしながら、ぼくは、先生に、

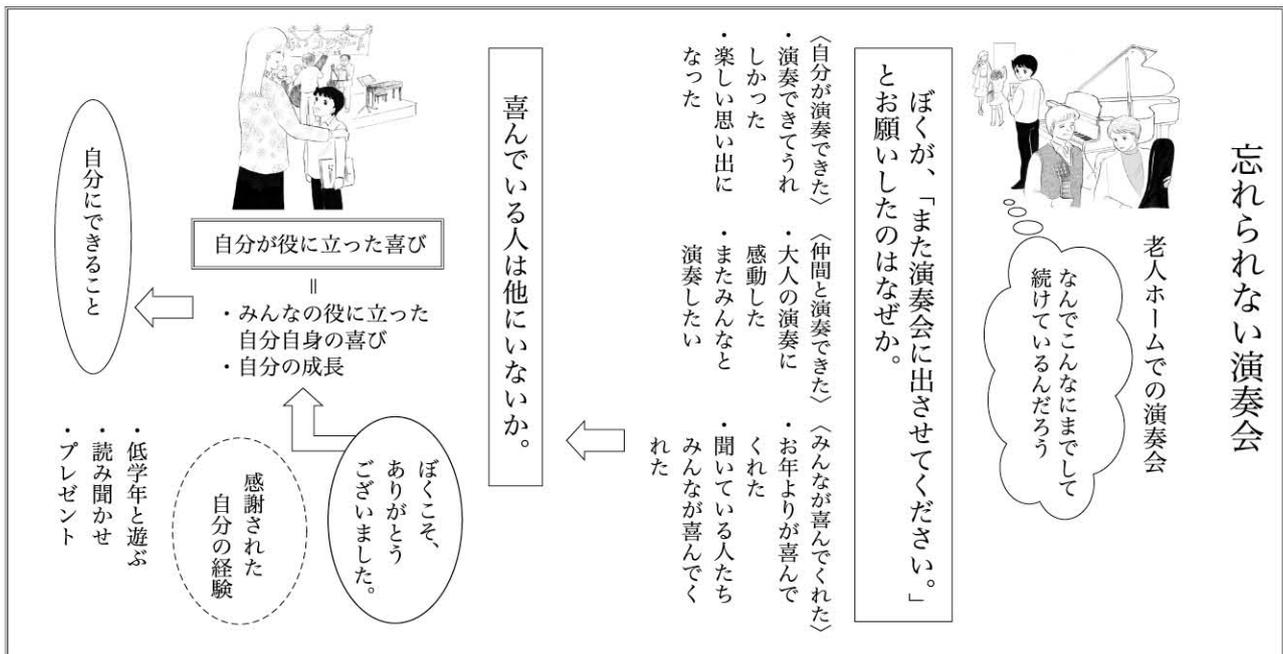
「また演奏会に出させてください。」

とお願した。

「もちろん。」

先生は笑顔で答えてくれた。

板書計画



道徳の時間の指導内容

4 - (4) 「勤労・社会奉仕」との関連

月	主題名	資料名	内容項目	出典
5	働くことの意義	母の仕事	4 - (4) 勤労・社会奉仕	光文
6	みんなのために	助け合い傘	2 - (5) 尊敬・感謝	光文
9	だれかの役に立つこと	弘君の委員会活動	4 - (4) 勤労・社会奉仕	光文
10	自分のできることに	忘れない演奏会	4 - (4) 社会奉仕	市道徳
「小学校道徳読み物資料集」(文部科学省発行)との関連 ・ 掲載例なし			各教科等との関連	
			○わらぐつの中の神様 ○情報産業とわたしたちの生活 ○委員会の仕事 ○身近なボランティア	国語 社会 特活等 特活等

「私たちの道徳」との関連

P. 150~155 公共のために役立つことを

道徳の内容の学年段階・学校段階の系統

4 - (4) 「勤労・社会奉仕」

小学校第1学年及び第2学年	4 - (2) 働くことのよさを感じて、みんなのために働く。
小学校第3学年及び第4学年	4 - (2) 働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。
小学校第5学年及び第6学年	4 - (4) 働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。
中学校	4 - (5) 勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。

「道徳の内容」の学年段階・学校段階の一覧表

	小学校第1学年及び第2学年	小学校第3学年及び第4学年
1 主として 自分自身に関すること	(1) 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。 (2) 自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。 (3) よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。 (4) うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活する。	(1) 自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をする。 (2) 自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。 (3) 正しいと判断したことは、勇気をもって行う。 (4) 過ちは素直に改め、正直に明るい心で元気よく生活する。 (5) 自分の特徴に気付き、よい所を伸ばす。
2 主として 他の人とのかかわりに 関すること	(1) 気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。 (2) 幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。 (3) 友達と仲よくし、助け合う。 (4) 日ごろ世話になっている人々に感謝する。	(1) 礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接する。 (2) 相手のことを思いやり、進んで親切にする。 (3) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。 (4) 生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する。
3 主として 自然や崇高なもの のかかわりに 関すること	(1) 生きることを喜び、生命を大切にすることを。 (2) 身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。 (3) 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつ。	(1) 生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にすること。 (2) 自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にすること。 (3) 美しいものや気高いものに感動する心をもつ。
4 主として 集団や社会との かかわりに 関すること	(1) 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。 (2) 働くことのよさを感じて、みんなのために働く。 (3) 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。 (4) 先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくする。 (5) 郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ。	(1) 約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ。 (2) 働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。 (3) 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合っって楽しい家庭をつくる。 (4) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合っって楽しい学級をつくる。 (5) 郷土の伝統と文化を大切に、郷土を愛する心をもつ。 (6) 我が国の伝統と文化に親しみ、国を愛する心をもつとともに、外国の人々や文化に関心をもつ。

	小学校第5学年及び第6学年	中学校
1 主として 自分自身に関すること	<p>(1) 生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける。</p> <p>(2) より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。</p> <p>(3) 自由を大切に、自律的で責任ある行動をする。</p> <p>(4) 誠実に、明るい心で楽しく生活する。</p> <p>(5) 真理を大切に、進んで新しいものを求め、工夫して生活をよりよくする。</p> <p>(6) 自分の特徴を知って、悪い所を改めよい所を積極的に伸ばす。</p>	<p>(1) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。</p> <p>(2) より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。</p> <p>(3) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。</p> <p>(4) 真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。</p> <p>(5) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。</p>
2 主として 他の人とかかわりに 関すること	<p>(1) 時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接する。</p> <p>(2) だれに対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にする。</p> <p>(3) 互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。</p> <p>(4) 謙虚な心もち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にする。</p> <p>(5) 日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる。</p>	<p>(1) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。</p> <p>(2) 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。</p> <p>(3) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。</p> <p>(4) 男女は、互いに異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する。</p> <p>(5) それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心もち謙虚に他に学ぶ。</p> <p>(6) 多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる。</p>
3 主として 自然や崇高なもの にかかわりに 関すること	<p>(1) 生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。</p> <p>(2) 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にする。</p> <p>(3) 美しいものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつ。</p>	<p>(1) 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。</p> <p>(2) 自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心もち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。</p> <p>(3) 人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きること喜びを見いだすように努める。</p>
4 主として 集団や社会 とかかわりに 関すること	<p>(1) 公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす。</p> <p>(2) だれに対しても差別することや偏見をもつことなく公正、公平にし、正義の実現に努める。</p> <p>(3) 身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。</p> <p>(4) 働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。</p> <p>(5) 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをする。</p> <p>(6) 先生や学校の人々への敬愛を深め、みんなで協力し合いよりよい校風をつくる。</p> <p>(7) 郷土や我が国の伝統と文化を大切に、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。</p> <p>(8) 外国の人々や文化を大切にする心もち、日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努める。</p>	<p>(1) 法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める。</p> <p>(2) 公德心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。</p> <p>(3) 正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。</p> <p>(4) 自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。</p> <p>(5) 勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。</p> <p>(6) 父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。</p> <p>(7) 学級や学校の一員としての自覚もち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力してよりよい校風を樹立する。</p> <p>(8) 地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。</p> <p>(9) 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。</p> <p>(10) 世界の中の日本人としての自覚もち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する。</p>

大分市教師用道徳指導資料集編集委員

(学校名, 職名は作成時)

〈平成17年度〉

大分市立判田小学校	校長	藤川勇二
大分市立豊府小学校	教諭	足立朋美
大分市立明治小学校	教諭	板井勝博
大分市立宗方小学校	教諭	一法師裕子
大分市立桃園小学校	教諭	伊藤紀子
大分市立三佐小学校	教諭	江川潤子
大分市立鴛野小学校	教諭	古城繁法
大分市立大在西小学校	教諭	後藤愛子
大分市立舞鶴小学校	教諭	長岡しのぶ
大分市立田尻小学校	教諭	羽田野悦子
大分市立寒田小学校	教諭	引地美保

〈平成18年度〉

大分市立中島小学校	校長	植木清則
大分市立豊府小学校	教諭	足立朋美
大分市立明治小学校	教諭	板井勝博
大分市立宗方小学校	教諭	一法師裕子
大分市立桃園小学校	教諭	伊藤紀子
大分市立鴛野小学校	教諭	古城繁法
大分市立明野東小学校	教諭	古谷幸子
大分市立大在西小学校	教諭	後藤愛子
大分市立舞鶴小学校	教諭	長岡しのぶ
大分市立田尻小学校	教諭	羽田野悦子
大分市立寒田小学校	教諭	引地美保

〈平成19年度〉

大分市立中島小学校	校長	植木清則
大分市立滝尾小学校	教諭	足立朋美
大分市立明治小学校	教諭	板井勝博
大分市立宗方小学校	教諭	一法師裕子
大分市立桃園小学校	教諭	伊藤紀子
大分市立明野東小学校	教諭	古谷幸子
大分市立大在西小学校	教諭	後藤愛子
大分市立賀来小学校	教諭	長岡しのぶ
大分市立田尻小学校	教諭	羽田野悦子
大分市立寒田小学校	教諭	引地美保